志木市の文化財　第72集

西原大塚遺跡 第213地点
中　野　遺　跡 第102地点
中　野　遺　跡 第104地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

埼玉県志木市教育委員会

は　じ　め　に

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『西原大塚遺跡第213地点　中野遺跡第102地点　中野遺跡第104地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が平成29年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15ケ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は私たちの祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

さて、今回報告する調査地点の概要について触れてみることにします。

西原大塚遺跡第213地点の調査では、中世以降の井戸跡・土坑・地下式坑・板碑埋納遺構などが発見されました。また、土層の体積状況から、調査区全体に人為的な造成工事が行われていた可能性が指摘されています。遺物では、市内初の発見となる「玉取獅子」が描かれた中国製の磁器皿をはじめ、貴重な資料が発見されました。

中野遺跡では、第102地点と第104地点の調査が実施されました。特に第102地点では、縄文時代の土坑や古墳時代後期の住居跡、そして中世以降の段切状遺構に伴い、土坑・地下式坑・ピットなどの多くの遺構が検出されました。中世以降の段切状遺構に伴う火葬土坑については、本地点の西側に位置する第95地点でも5基検出されており、近世に記された『舘村旧記』に登場する「村中の墓場」との関連が指摘されています。火葬土坑が今回の調査区でも発見されたことは、墓域を含めた“中野村”の様相を解明する上で重要な成果と言えます。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

例　言

1．本書は、平成29年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である西原大塚遺跡第213地点、中野遺跡第102・104地点の発掘調査報告書である。

2．発掘作業及び整理作業は、志木市教育委員会の受託事業として、以下の土木工事主体者から委託を受け実施した。

西原大塚遺跡第213地点：個人

中野遺跡第102地点：個人

中野遺跡第104地点：埼玉県朝霞市東弁財３丁目16番５号

マックホーム株式会社　代表取締役　氏居照和

3．本書の作成において、編集は尾形則敏が行い、執筆は下記以外を尾形が行った。

大久保　聡　第２～４章第１・２節、第５章第２節（２）

深井恵子　第３章第５節（３）の遺構

青木　修　第３章第３節、第６節（１）の縄文土器

4．遺物の実測は、星野恵美子・鈴木浩子・松浦恵子・増田千春・林ゆき子が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井恵子・青木　修が行った。写真撮影は青木が行った。

5．本書に掲載した西原大塚遺跡第213地点・中野遺跡第102地点の石器については、有限会社アルケーリサーチ（取締役社長　藤波啓容）に実測を委託した。

6．中野遺跡第102地点の自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ（代表取締役　中村賢太郎）に委託した。

7．西原大塚遺跡第213地点の基準点測量は、株式会社中野技術（代表取締役　兼光利之）、中野遺跡第102地点の基準点測量は、株式会社東京航業研究所（代表取締役　中本直士）にそれぞれ委託した。

8．発掘作業における表土剥ぎ作業については、株式会社大塚屋商店（代表取締役　綱島正人）に委託した。

9．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

10．調査組織（平成30年度）

教育長	柚木　博
教育政策部長	土岐隆一
教育政策部次長	北村竜一
生涯学習課長	原田謙二
生涯学習課主幹	中原敦也
生涯学習課主査	浅見千穂
〃	武井香代子
〃	尾形則敏
生涯学習課主任	松永真知子
〃	徳留彰紀

〃　　大久保　聡
生涯学習課主事補　　鈴木楓月
志木市文化財保護審議会　　井上國夫（会長）
〃　　深瀬　克（委員）
〃　　高橋　豊（委員）
〃　　上野守嘉（委員）
〃　　新田泰男（委員）

11．発掘作業及び整理作業参加者

〈西原大塚遺跡第213地点〉

○発掘作業

調査担当者　　大久保　聡・尾形則敏
調査員　　青木　修
調査補助員　　星野恵美子・鈴木浩子
作業員　　池野谷有紀・二階堂美知子・林　ゆき子・増田千春・松浦恵子・村田浩美
重機オペレータ　　田中三二（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員　　深井恵子・青木　修
調査補助員　　星野恵美子
作業員　　池野谷有紀・片山　望・林ゆき子・増田千春・松浦恵子・村田浩美
山口優子

〈中野遺跡第102地点〉

○発掘調査

調査担当者　　大久保　聡・尾形則敏
調査員　　青木　修
調査補助員　　鈴木浩子・星野恵美子
作業員　　池野谷有紀・二階堂美知子・林　ゆき子・増田千春・松浦恵子・村田浩美
重機オペレータ　　田中三二（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員　　深井恵子・青木　修
調査補助員　　星野恵美子・鈴木浩子
作業員　　池野谷有紀・片山　望・二階堂美知子・林　ゆき子・増田千春・松浦恵子
村田浩美・山口優子

〈中野遺跡第104地点〉

○発掘調査

調査担当者　大久保　聡・尾形則敏

調　査　員　青木　修

調査補助員　星野恵美子

作　業　員　二階堂美知子・松浦恵子・村田浩美

重機オペレータ　田中三二（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調　査　員　深井恵子・青木　修

12. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

江原　順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・斉藤　純・齋藤欣延・斯波　治・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢　均・早坂廣人・堀　善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本　龍・和田晋治・渡辺邦仁

13. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈西原大塚遺跡第213地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成29年7月21日付け　教生文第4－119号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成30年1月15日付け　教生文第7－205号

〈中野遺跡第102地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成29年10月31日付け　教生文第4－1041号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成30年3月12日付け　教生文第7－253号

〈中野遺跡第104地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成30年3月28日付け　教生文第4－1796号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第１図　1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社謂製

第２・20図　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成27年４月発行

株式会社ゼンリン

2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚

9．遺構の略記号は、以下のとおりである。

Ｈ＝古墳時代～平安時代の住居跡　　Ｗ＝井戸跡　　Ｄ＝土坑　　Ｍ＝溝跡　　Ｐ＝ピット

板＝板碑埋納遺構

目　　次

はじめに
例　　言／凡　　例／目　　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境 …… 1
　第１節　市域の地形と遺跡 …… 1
第２章　西原大塚遺跡第213地点の調査 …… 8
　第１節　遺跡の概要 …… 8
　第２節　調査の経緯 …… 8
　第３節　検出された遺構・遺物 …… 15
第３章　中野遺跡第102地点の調査 …… 40
　第１節　遺跡の概要 …… 40
　第２節　調査の経緯 …… 40
　第３節　縄文時代の遺構・遺物 …… 51
　第４節　古墳時代後期の遺構・遺物 …… 53
　第５節　中世以降の遺構・遺物 …… 57
　第６節　遺構外出土遺物 …… 94
第４章　中野遺跡第104地点の調査 …… 99
　第１節　遺跡の概要 …… 99
　第２節　調査の経緯 …… 99
　第３節　検出された遺構・遺物 …… 102
　第５章　調査のまとめ …… 104
　第１節　西原大塚遺跡第213地点の調査成果 …… 104
　第２節　中野遺跡第102地点の調査成果 …… 106

［付編］自然科学分析
　Ⅰ．中野遺跡第102地点出土炭化材の放射性炭素年代測定 …… 111
　Ⅱ．中野遺跡第102地点出土炭化材の樹種同定 …… 113
　Ⅲ．中野遺跡第102地点268号土坑から出土した人骨 …… 115

図　　版
報告書抄録

挿図目次

第1図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）…… 2
第2図　西原大塚遺跡の調査地点（1／5,000）…… 9
第3図　確認調査時の遺構分布（1／300）…… 10
第4図　遺構分布図（1／300）…… 12
第5図　基本土層（1／60）…… 13・14
第6図　土坑A群・B群（1／60）…… 20
第7図　土坑C群・G群（1／60）…… 22
第8図　土坑E群1（1／60）…… 23
第9図　土坑E群2（1／60）…… 25
第10図　土坑E群3（1／60）…… 26
第11図　土坑E群4（1／60）…… 27
第12図　1号板碑埋納遺構（1／30）・出土遺物（1／4）…… 29
第13図　8号井戸跡（1／60）…… 30
第14図　土坑出土遺物（1／4・1／3）…… 31
第15図　8号井戸跡出土遺物（1／4・1／3）…… 31
第16図　ピット（1／60）…… 32
第17図　ピット出土遺物（1／4・1／3）…… 34
第18図　遺構外出土遺物1（2／3・1／3）…… 34
第19図　遺構外出土遺物2（1／4・1／3・4／5）…… 35
第20図　中野遺跡の調査地点（1／3,000）…… 41
第21図　確認調査時の遺構分布（1／200）…… 45
第22図　確認調査出土遺物（1／3）…… 46
第23図　遺構分布図（1／200）…… 47
第24図　段切状遺構土層断面・基本土層設定位置（1／200）…… 48
第25図　基本土層・段切状遺構土層断面（1／60）… 49・50
第26図　269号土坑（1／60）…… 52
第27図　ピット（1／60）・出土遺物（1／3）…… 52
第28図　85号住居跡（1／60）・カマド（1／30）…… 54
第29図　85号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 55
第30図　土坑A群（1／60）…… 59
第31図　土坑B群1（1／60）…… 66
第32図　土坑B群2（1／60）…… 67
第33図　土坑B群3（1／60）…… 68
第34図　土坑C群・D群（1／60）…… 71
第35図　土坑E群1（1／60）…… 73
第36図　土坑E群2（1／60）…… 74
第37図　土坑E群3（1／60）…… 75
第38図　土坑F群（1／60）…… 78
第39図　土坑G群1（1／60）…… 79
第40図　土坑G群2（1／60）…… 80
第41図　14号井戸跡（1／60）…… 83
第42図　17号溝跡（1／60）…… 83
第43図　土坑出土遺物（1／3・1／4）…… 84
第44図　17号溝跡出土遺物（1／3）…… 84
第45図　ピット1（1／60）…… 86
第46図　ピット2（1／60）…… 87
第47図　ピット3（1／60）…… 88
第48図　ピット4（1／60）…… 89
第49図　ピット5（1／60）…… 90
第50図　遺構外出土遺物1（2／3・1／4・1／3）…… 95
第51図　遺構外出土遺物2（1／3・1／4）…… 96
第52図　確認調査時の遺構分布（1／200）…… 100
第53図　遺構分布図（1／100）…… 100
第54図　土坑（1／60）…… 102
第55図　暦年較正結果…… 112

表目次

第1表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第2表　西原大塚遺跡第213地点の発掘調査工程表 …… 11
第3表　中世以降の土坑一覧 …… 19
第4表　ピット一覧 …… 32
第5表　中世以降の土坑・井戸跡・ピット出土陶磁器・土器一覧 …… 33
第6表　遺構外出土石器一覧 …… 36
第7表　遺構外出土土器一覧 …… 36
第8表　遺構外出土陶磁器・土器一覧（1） …… 38
遺構外出土陶磁器・土器一覧（2） …… 39
第9表　銭貨一覧 …… 39
第10表　鉄滓の数量 …… 39
第11表　中野遺跡第102地点の発掘調査工程表 …… 43
第12表　確認調査出土縄文土器一覧 …… 46
第13表　確認調査出土陶器一覧 …… 46
第14表　85号住居跡出土土器一覧 …… 56
第15表　中世以降の土坑一覧 …… 81
第16表　中世以降の土坑・井戸跡・溝跡出土陶磁器・土器一覧 …… 85
第17表　ピット一覧（1） …… 91
ピット一覧（2） …… 92
ピット一覧（3） …… 93
第18表　遺構外出土石器一覧 …… 97
第19表　遺構外出土縄文土器一覧（1） …… 97
遺構外出土縄文土器一覧（2） …… 98
第20表　遺構外出土陶器・土器一覧 …… 98
第21表　測定資料および処理 …… 111
第22表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 …… 112
第23表　樹種同定結果一覧 …… 114
第24表　268号土坑の人骨 …… 115

図版目次

図版1　西原大塚遺跡第213地点
1. 調査区近景　2. 確認調査風景　3. 表土剥ぎ風景
4. 基本土層A－A'　5. 基本土層B－B'南端
6. 基本土層B－B'5m付近　7. 基本土層B－B'9m付近
8. 基本土層B'－B"1m付近
図版2　西原大塚遺跡第213地点
1. 基本土層B'－B"4.5m付近　2. 基本土層C－C'
3. 756号土坑(A群2類) 4・5. 757号土坑遺物出土状態
6. 757号土坑(A群2類)　7. 761号土坑(A群2類)
8. 758号土坑(B群3類)
図版3　西原大塚遺跡第213地点
1. 762号土坑(B群3類)　2. 765号土坑(B群3類)
3. 750号土坑(C群)　4. 759号土坑(C群)
5・6. 751号土坑(E群)　7・8. 752号土坑(E群)
図版4　西原大塚遺跡第213地点
1. 760号土坑(E群)　2. 760号土坑竪坑部硬化面
3・4. 763号土坑(E群)　5. 1号板碑埋納遺構
6. 1号板碑埋納遺構掘り方　7. 8号井戸跡遺物出土状態
8. 8号井戸跡
図版5　西原大塚遺跡第213地点
1. 1号ピット　2. 2号ピット砥石出土状態
3. 2号ピット　4. 3号ピット　5. 4号ピット
6. 5号ピット　7. 6号ピット　8. 測量風景
図版6　西原大塚遺跡第213地点
1. 土坑出土遺物　2. 1号板碑埋納遺構出土遺物
図版7　西原大塚遺跡第213地点
1. 8号井戸跡出土遺物　2. ピット出土遺物
3. 遺構外出土遺物1
図版8　西原大塚遺跡第213地点
遺構外出土遺物2

図版９　中野遺跡第102地点

1. 調査区近景　2. 確認調査風景　3. 表土剥ぎ風景

4. 基本土層Ｂ－Ｂ’5. 基本土層Ｇ－Ｇ’　6. 269号土坑

7. 45号ピット　8. 102号ピット

図版10　中野遺跡第102地点

1･2･3. 85号住居跡遺物出土状態　4. 85号住居跡

5. 85号住居跡カマド　6. 85号住居跡カマド掘り方

7. 436号土坑(A群２類)　8. 437号土坑(A群２類)

図版11　中野遺跡第102地点

1. 439号土坑(A群２類)　2. 428号土坑(B群１類)

3. 426号土坑(B群２類)　4. 430号土坑(B群２類)

5. 444号土坑(B群２類)　6. 260号土坑(B群３類)

7. 262･263号土坑(B群３類)　8. 267号土坑(B群３類)

図版12　中野遺跡第102地点

1. 425号土坑(B群3類)　2. 431･432･434号土坑(B群3類)

3. 438号土坑(B群3類)　4. 440･442･443号土坑(Ｂ群3類)

5. 439･440･442･443号土坑(B群３類)

6. 445･448号土坑(B群３類)　7. 449号土坑(B群３類)

8. 264号土坑(Ｃ群)

図版13　中野遺跡第102地点

1. 433号土坑(C群)　2. 446･447･450号土坑(C群)

3. 451号土坑(C群)　4. 266号土坑(D群)

5. 261号土坑(E群)　6. 423号土坑(E群)

7. 424号土坑入口竪坑部(E群)

8. 424号土坑主体部方向(E群)

図版14　中野遺跡第102地点

1. 429号土坑入口竪坑部(E群)　2. 429号土坑(E群)

3. 268号土坑人骨･炭化材出土状態(F群)

4. 268号土坑横木出土状態(F群)　5. 268号土坑(F群)

6. 265号土坑炭化物及び灰検出状態(G群)

7. 265号土坑(G群)　8. 422号土坑･南から(G群)

図版15　中野遺跡第102地点

1. 422号土坑･東から(G群)2. 422号土坑･北から(G群)

3. 427号土坑(G群)　4. 435号土坑(G群)

5. 14号井戸跡　6. 17号溝跡･北から

7. 17号溝跡･南から

図版16　中野遺跡第102地点

1. 9号ピット　2. 35号ピット　3. 51･52号ピット

4. 63･57号ピット　5. 75号ピット　6. 87号ピット

7. 91･92号ピット　8. 99･100ピット

図版17　中野遺跡第102地点

1. 確認調査出土遺物　2. 45号ピット出土遺物

3. 85号住居跡出土遺物

図版18　中野遺跡第102地点

1. 土坑出土遺物　2. 14号井戸跡出土遺物

3. 17号溝跡出土遺物

図版19　中野遺跡第102地点

遺構外出土遺物

図版20　中野遺跡第104地点

1. 調査区近景　2･3. 452号土坑　4･5. 453号土坑

6. 454号土坑(453号土坑ド側)　7. 454号土坑北側

8. 調査風景

図版21　中野遺跡第102地点

268号土坑出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真･試料写真

図版22　中野遺跡第102地点

268号土坑の人骨

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりをもち、面積は9.05㎢（註１）、人口約７万６千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚（にしはらおおつか）遺跡（７）、新邸（あらやしき）遺跡（８）、中道（なかみち）遺跡（５）、城山（しろやま）

No.	遺跡名	遺跡の規模	地　目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中　　野	65,780㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、火葬土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、人骨等
3	城　　山	82,100㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中　　道	52,980㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古　墳？	古　墳？	古　墳？	なし
7	西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新　　邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝　塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田　子　山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富　士　前	14,168㎡	宅　地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑？、溝跡？	弥生土器、土師器
12	馬　　場	2,800㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900㎡	グランド	館　跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	水　田	館　跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15	市　場　裏	13,800㎡	宅　地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大　　原	1,700㎡	宅　地	不　明	近世以降？	溝跡	なし
17	上　　宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡	平安、中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
合　　計		515,298㎡					

平成30年12月27日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

平成31年1月31日現在

第１図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）

遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた15遺跡である（第１図・第１表）。

（２）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２ヶ所、平成７年（1995）度には１ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２ヶ所で石器集中地点が検出され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの抉入石器・剥片など32点が出土している。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも１ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。

平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、石器集中地点２ヶ所、礫群９基が検出され、特に礫群については、市内において初の発見例につながった。

最新では、平成27（2015）年に発掘調査された中野遺跡第91⑰地点からは、礫群１基が検出された。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成４（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器３点、第22地点から爪形文系土器１点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡１軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山

遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されていが、平成27（2015）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曽利Ｅ４式の両耳壷を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2014）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢＣ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壷形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に

発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20ｍを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壷、吉ヶ谷式系の壷、在地系の壷などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壷が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

最新資料として、平成27（2015）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、市内最古と考えられる弥生時代後期の久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。

なお、以上のうち、西原大塚遺跡122号住居跡出土の動物形土製品１点と西原大塚遺跡17号方形周溝墓から出土した、鳥形土製品１点と壷形土器４点の計５点は、考古資料として、平成25年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後半から７世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、３×3.5ｍの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後半から７世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、６世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7ｍの不整円形で２ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33ｍの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代

を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶（ふじゅしんぽう）が２枚とその近くからは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の冨壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、平成25年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記』（たてむらきゅうき）（註２）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（かいこくざっき）（註３）に登場する「大石信濃守館」（おおいしししなのかみやかた）が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」（おおつかじゅうぎょくぼう）についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の札（よろいぶだ）である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新た土坑45基・井戸跡２基・溝跡１本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「Ｔ字形」の火葬土坑５基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『舘村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第２地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成７（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭５枚を出土した土坑墓１基と13世紀に比定される青磁盤１点を出土した道路状遺構１条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第１地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓２基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『舘村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院（しょうりんざんかんのんじだいじゅいん）」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷鳥神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

［註］

註１　平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から9.05㎢に変更された。

註２　『舘村旧記』は、舘村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒（なぬしみやはらなかえもんなかつね）が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註３　『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）６月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1988「「廻回雑記」に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号
2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号

第２章　西原大塚遺跡第213地点の調査

第１節　遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町２～４丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約１kmに位置している。北東―南西方向に約700m、北西―南東方向に約150mの広がりをもち、遺跡面積164,960㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で８mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、おおむね緩やかな傾斜をもち台地から低地に移行している。遺跡北西部分の台地下では、今でも小規模な湧水点が確認されている。

昭和48（1973）年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元（1989）年から平成19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。平成30年12月現在で、227地点に対して確認調査・発掘調査を実施している（第２図）。

これまでの調査の結果、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。特に、縄文時代中期では住居跡約180軒からなる大規模な環状集落跡が形成され、また弥生時代後期から古墳時代前期では住居跡600軒からなる大規模集落跡が形成されていたことが判明している。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

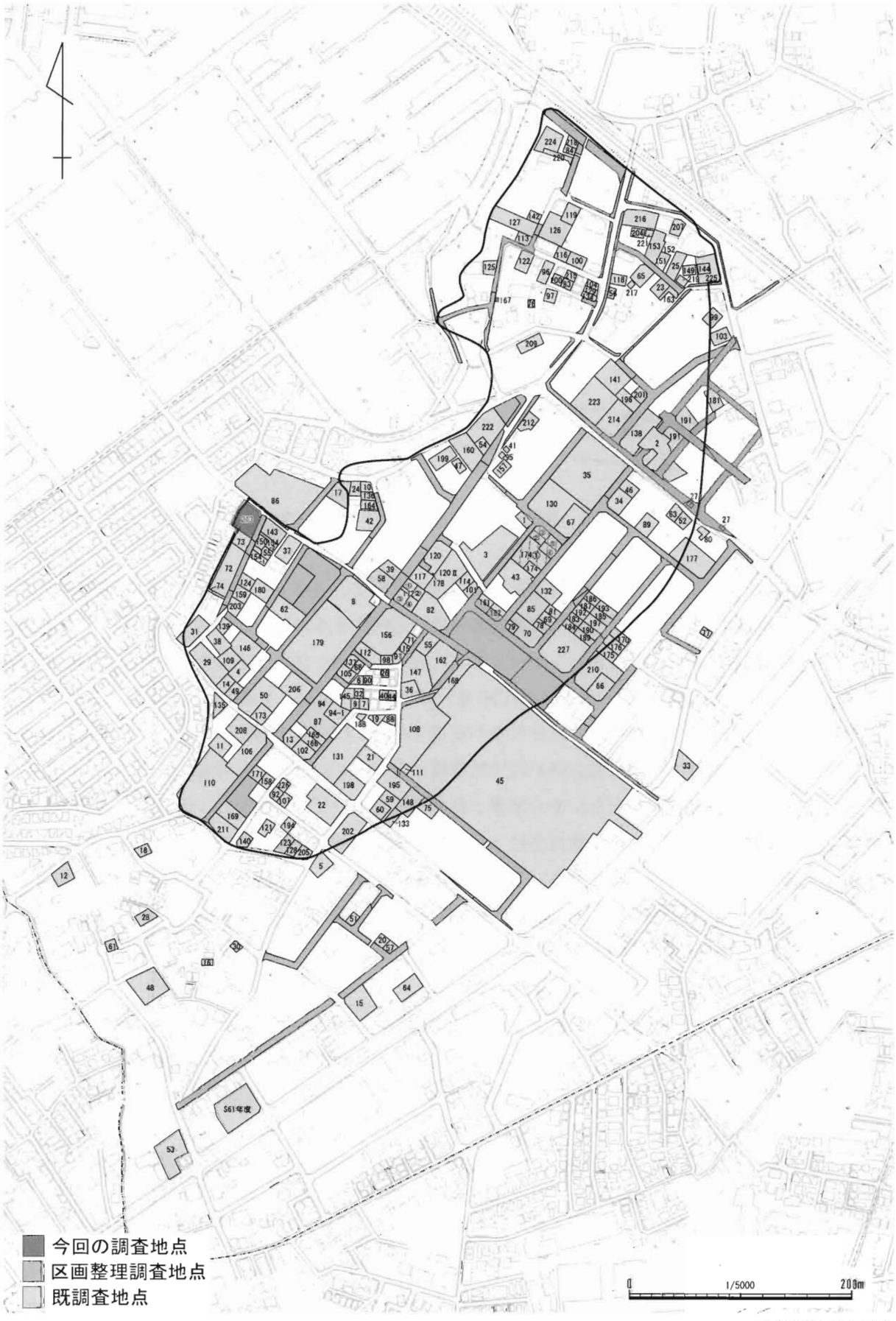
平成28年３月、株式会社リゾンから志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市幸町３丁目7359・7360番（面積923.00㎡）地内に分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228－09－007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

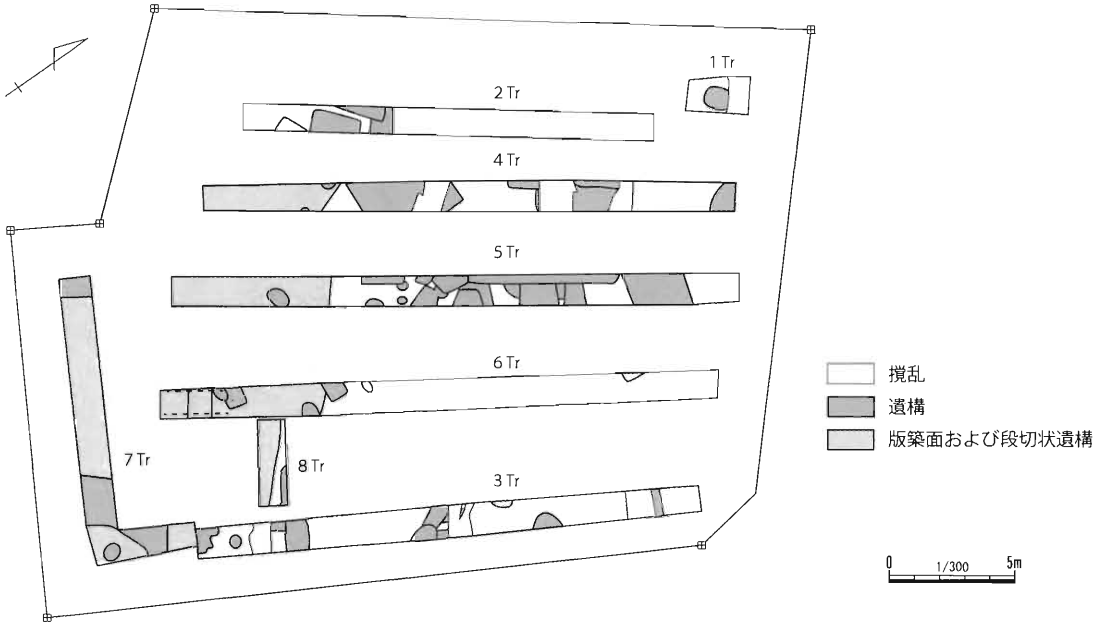
１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

３月16日、教育委員会は、株式会社リゾンを通し、土木工事主体者である個人（以下、工事主体者）



第２図　西原大塚遺跡の調査地点（1／5,000）



第３図　確認調査時の遺構分布（1／300）

より確認調査依頼書を受理し、西原大塚遺跡第213地点として、４月４～６日の３日間で確認調査を実施した。確認調査は、第３図に示すように調査区の長軸方向に６本のトレンチ（１～６Ｔｒ）と調査区南端の短軸方向にＬ字状に１本のトレンチ（７Ｔｒ）設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、中世以降の土坑36基・溝跡３本・ピット９本などを確認した。調査の全体の内容では、確認面であるローム面はかなり不安定であり、ローム上層部（立川ロームⅢ層）が掘削されていたため、調査区内には中世以降の段切状遺構が広がっているものと考えた。

教育委員会は、この結果をただちに仲介業者である株式会社リゾンに報告し、保存措置について検討を依頼した。平成30年５月29日に株式会社リゾンと埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、分譲住宅全８棟建設予定のうち、７・８号棟（288.00㎡）の２棟分については、西原大塚遺跡第73地点ですでに確認調査済であり、遺構・遺物は検出されていないため、慎重工事として取り扱うこととし、その他の１～６号棟（635.00㎡）の６棟分については、十分な文化財保護層が確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。

６月７日、工事主体者より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、６月15日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

同日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、６月28日に委託契約を締結した。

教育委員会は、６月26日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、７月４日から発掘調査を実施した。

（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第２表の発掘調査工程表に示した。

７月４日　発掘調査を開始する。調査区北側を前半区、調査区南側を後半区とした。重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を調査区北端から開始する。残土置場は調査区南半部に当てる予定とした。

５日　表土剥ぎ作業２日目。

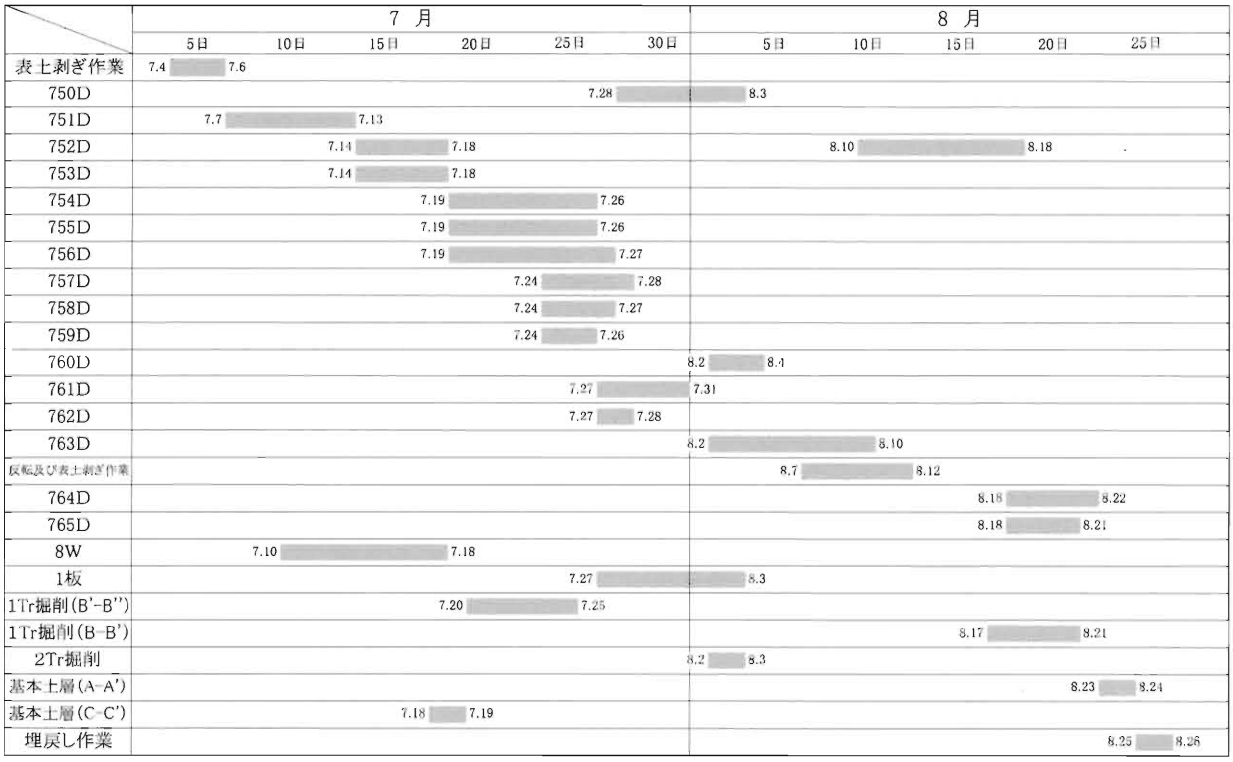
６日　表土剥ぎ作業３日目。同時に人員を導入し、調査機材搬入、調査区整備、遺構確認作業を行う。本日中に遺構検出状況の写真撮影を完了した。

７日　土坑（751 D）の精査を開始する。751 Dは精査を進める過程で、地下式坑と判明した。調査区北東側の撹乱部分の掘削を行い、遺構の有無を確認したが、遺構は確認されなかった。

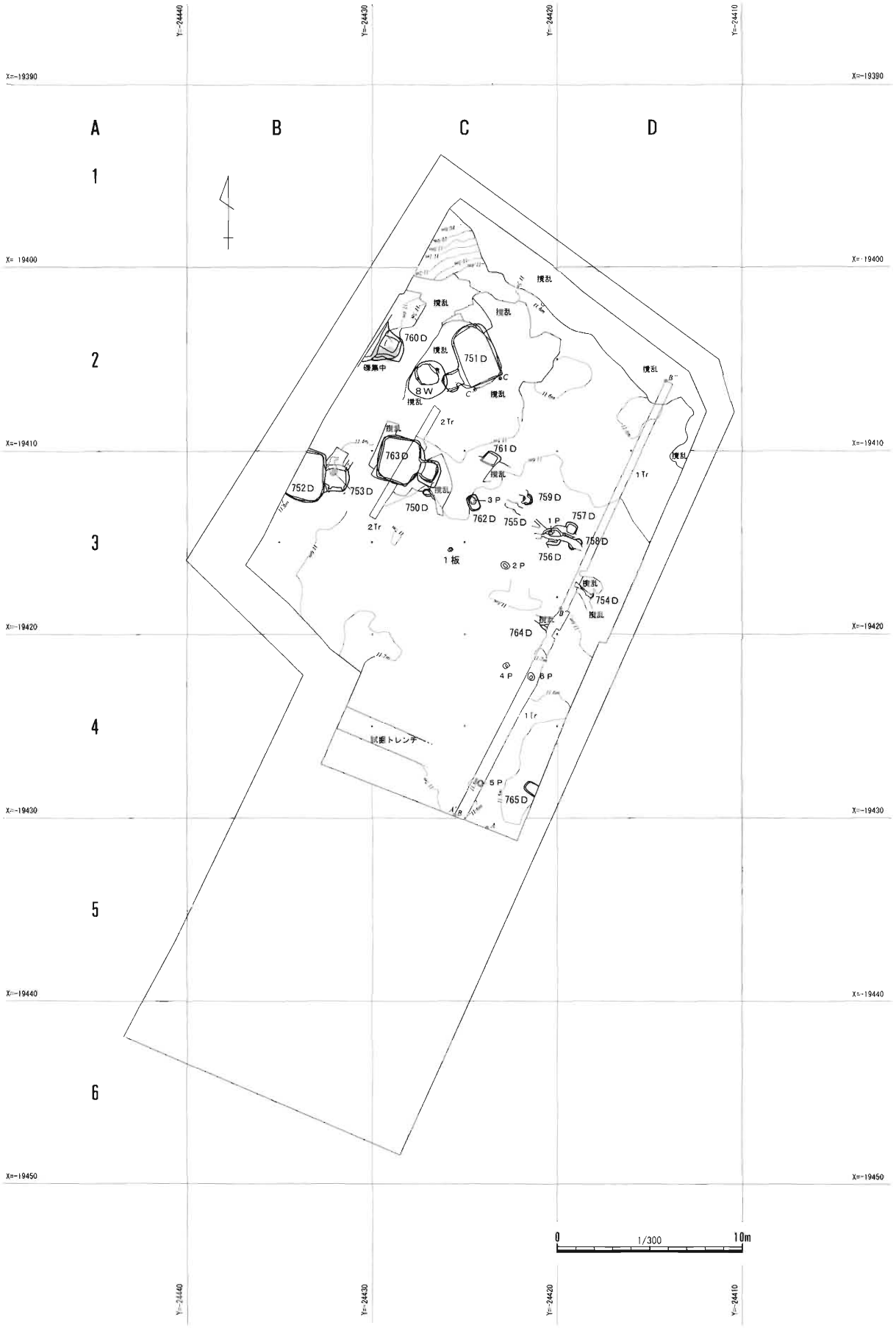
10日　井戸跡（８W）の精査を開始する。８Wは751 Dと重複しており、新旧関係は751 D（古）→８W（新）であった。

７月中旬　751 Dの精査を終了する。土坑（752・753 D）の精査を開始する。752 Dは精査を進める過程で、地下式坑と判明した。752 Dの範囲が南側に延びていたため、後半区で再度752 Dの精査をすることとした。８W、753 Dの精査を終了する。751 Dの南東壁を利用し、基本土層（C-C'）の記録を行う。本地点の遺構確認面がローム、黒褐色土が入り混じった状況であり、純粋なローム面でないことから、南北方向に１号トレンチ（B'-B''）を設定し、ローム面まで掘り下げを行った。調査区北側のコンター図を作成する。土坑（754～756 D）の精査を開始する。

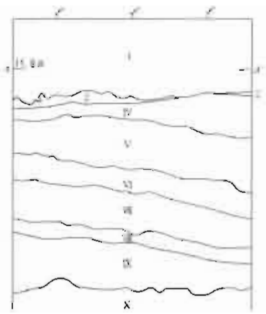
７月下旬　土坑（757～759 D、761・762 D）、１号板碑埋納遺構（１板）の精査を開始する。757 Dでは、市内初の出土となる玉取獅子文が描かれた磁器皿が出土した。１号トレン

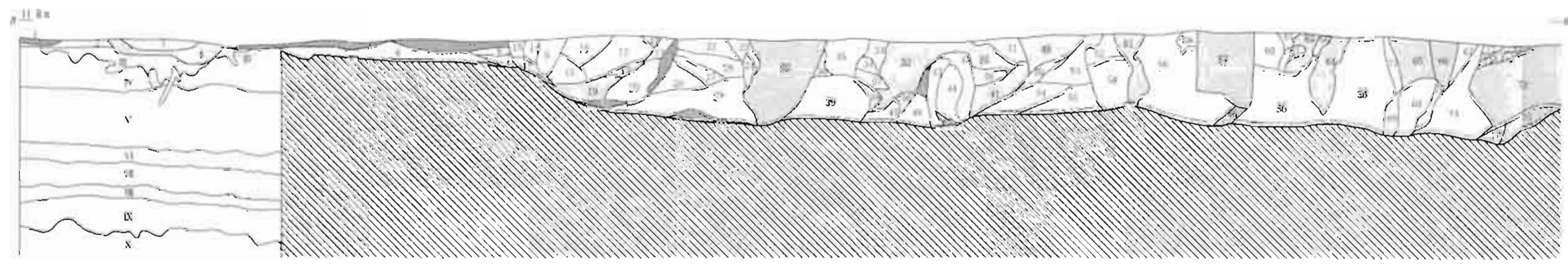


第２表　西原大塚遺跡第213地点の発掘調査工程表



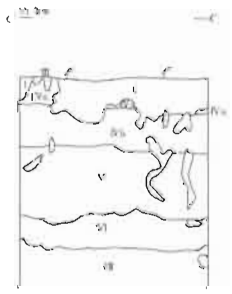
第４図　遺構分布図（1／300）



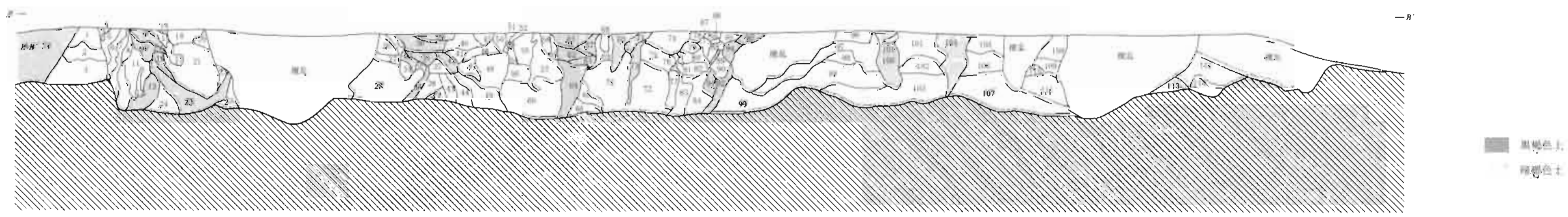


A－A'・B－B'
Ⅲ'層　にぶい黄橙色土　（10ＹＲ６／４）
赤色スコリア・黒色スコリアを含む。空隙多い。
Ⅳ層や[illegible]
Ⅳ層　明黄褐色土　（10ＹＲ６／８）
赤色スコリアを多く、黒色スコリアを含む。空隙多い。
Ⅴ層　黄褐色土　（10ＹＲ５／６）
赤色スコリアをやや多く、黒色スコリアを含む。空隙やや多い。
Ⅵ層　明黄褐色土　（10ＹＲ６／６）
赤色スコリア・黒色スコリアを含み、白色粒子を僅かに含む。ＡＴ層。空隙有り。
Ⅶ層　にぶい黄褐色土　（10ＹＲ５／４）
赤色スコリアを含み、黒色スコリアを僅か、白色粒子をごく僅かに含む。空隙ややあり。
Ⅷ層　黄褐色土　（10ＹＲ５／８）
赤色スコリア・黒色スコリアを僅かに含む。空隙少ない。
Ⅸ層　褐色土　（10ＹＲ４／４）
黒色スコリアを含み、赤色スコリアを僅かに含む。空隙少ない。
Ⅹ層　黄褐色土　（10ＹＲ５／８）
黒色スコリアを僅か、赤色スコリアをごく僅かに含む。空隙少ない。固い。

B－B'
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
7層　暗黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや弱。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
12層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
13層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
14層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや弱。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
18層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
19層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや弱。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
21層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
22層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや弱。
23層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
24層　ローム　しまり弱。ボソボソ。
25層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
26層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
27層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
28層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
29層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
30層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
31層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
32層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
33層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
34層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
35層　ロームブロック。ややボソボソ。
36層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
37層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
38層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
39層　ロームブロック。ややボソボソ。
40層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
41層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや弱。
42層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり弱。
43層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり弱。
44層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
45層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
46層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
47層　ロームブロック。
48層　ロームブロック。ややボソボソ。
49層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
50層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや弱。
51層　暗褐色土。
52層　ロームブロック。
53層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
54層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
55層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
56層　ロームブロック。
57層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
58層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
59層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
60層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
61層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
62層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
63層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
64層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
65層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
66層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
67層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
68層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
69層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
70層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
71層　ロームブロック。
72層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
73層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
74層　ロームブロック。ややボソボソ。
75層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
76層　ロームブロック。
77層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。766D覆土。



C－C'
Ⅰ'層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。造成工事土。
Ⅲ'層　黄褐色土　赤色スコリア・黒色スコリアを僅かに含む。しまりやや強。空隙多い。ソフトローム。
Ⅳa層　黄褐色土　赤色スコリアを含み、黒色スコリアを僅かに含む。しまり強。空隙やや多い。ハードローム。
Ⅳb層　にぶい黄褐色土　赤色スコリアを含み、黒色スコリアを僅かに含む。しまり強。空隙やや多い。ハードローム。
Ⅴ層　褐色土　赤色スコリアを多く、黒色スコリアを僅かに含む。しまり強。空隙やや多い。第1黒色帯。
Ⅵ層　にぶい黄褐色土　赤色スコリア・白色粒子を多く、黒色スコリアを含む。しまり強。空隙少ない。ＡＴ包含層。
Ⅶ層　暗褐色土　赤色スコリア・黒色スコリア・白色粒子を僅かに含む。しまり強。空隙少ない。第2黒色帯。



B'－B''
1層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。空隙多い。
2層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。空隙やや多い。
3層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。空隙少ない。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。
5層　黄褐色土　ロームブロックを多く、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
7層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
9層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
10層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
11層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
12層　黄褐色土　ロームブロック。しまり強。
13層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
15層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり強。
16層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。
18層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
19層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。空隙多い。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
21層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。
22層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
23層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。
24層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
25層　暗黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
26層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙多い。
27層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙やや多い。
28層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙少ない。
29層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
30層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
31層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
32層　暗黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
33層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
34層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
35層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
36層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
37層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。
38層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙多い。
39層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。空隙多い。
40層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
41層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
42層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
43層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
44層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。
45層　暗黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
46層　暗黄褐色土　ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
47層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
48層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙少ない。
49層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
50層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
51層　暗褐色土　ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
52層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
53層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。ブロック状。
54層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
55層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙多い。
56層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。空隙少ない。
57層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
58層　黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
59層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
60層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙少ない。
61層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
62層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
63層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
64層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
65層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
66層　黄褐色土　ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
67層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
68層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
69層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙多い。
70層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
71層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
72層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙少ない。
73層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
74層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙多い。
75層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙やや多い。
76層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
77層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
78層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
79層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。空隙少ない。
80層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙多い。
81層　暗黄褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
82層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。空隙少ない。
83層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
84層　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。空隙少ない。
85層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
86層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり強。
87層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
88層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。空隙少ない。
89層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
90層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
91層　暗褐色土　ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
92層　暗褐色土　ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
93層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
94層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
95層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
96層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙多い。
97層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。空隙やや多い。
98層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。空隙非常に少ない。
99層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。空隙少ない。
100層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
101層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙やや多い。
102層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。空隙少ない。
103層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。空隙非常に少ない。
104層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
105層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。空隙少ない。
106層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。空隙少ない。
107層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。空隙少ない。
108層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。空隙少ない。
109層　黄褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙非常に少ない。
110層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。空隙多い。
111層　黄褐色土　ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。空隙少ない。
112層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。空隙少ない。
113層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり強。空隙非常に少ない。
114層　黄褐色土　ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。空隙多い。

0　1/60　2m

第５図　基本土層（１／60）

チ掘削（前半区のB'-B''）を終了し、土層の写真撮影、断面記録を行った。754～759Ｄ、761・762Ｄの精査を終了する。土坑（750Ｄ）の精査を開始する。

８月上旬　土坑（760Ｄ）の精査を開始する。760Ｄは地下式坑竪坑部であることが判明した。1板、760Ｄの精査を終了する。調査区西側で土層を確認するため２号トレンチの掘削を開始。２号トレンチを掘り下げた結果、土坑（763Ｄ）を検出し、763Ｄの精査を開始する。763Ｄは精査を進める過程で、地下式坑と判明した。１板の精査を終了する。

８月７・８日　遺構精査と並行して前半区の埋め戻しを行う。

９～12日　後半区の表土剥ぎ作業を行う。10日に752Ｄの精査を再開する。763Ｄの精査を終了する。

８月中旬　752Ｄの精査を終了する。土坑（764・765Ｄ）の精査を開始する。１号トレンチ（後半区のB-B'）の掘削を開始する。

８月下旬　764・765Ｄの精査を終了する。１号トレンチ（後半区のB-B'）の土層の写真撮影、断面図作成を行う。基本土層（A-A'）記録のための深掘りを行う。基本土層（A-A'）断面図を作成する。

８月25日　埋め戻し作業を開始する。26日に埋め戻しを完了する。

（３）基本層序と地形

本調査区のローム層序を確認し、自然地形面の復元、地形改変の様相を把握するため、調査区北側（第５図：基本土層C-C'）と調査区南端（第５図：基本土層A-A'、B-B'の一部）に深掘りトレンチを設定し、土層の記録を行った。確認した層位は立川ローム第Ⅲ層～第Ⅹ層である。

本地点の自然地形については、A-A'の土層を見ると、第Ⅳ層と第Ⅴ層の境で西側に約４°、第Ⅵ層と第Ⅶ層の境で西側に約９°の傾斜角があり、東から西へ傾斜している。南北方向については、B-B'とC-C'の第Ⅳ層と第Ⅴ層の境の標高を比較すると、B-B'では約11.25ｍ、C-C'では約10.75ｍであり、北側へ緩く傾斜している。よって、本地点の自然地形は北西方向に傾斜していると考えられる。このことは、調査区北隅のコンター図の傾斜方向と整合性がある（第４図）。本地点の北西側に柳瀬川が流れており、本地点はすでに河川に向かって傾斜し始めている台地縁辺部上にあったと言える。

通常のローム層序では、第Ⅲ層（ソフトローム）が確認され、遺存状況が良い場合は、黒ボク土とローム土の間の漸移層（第Ⅱ層）が残っている。本地点から南に約160ｍ離れた区画整理第５Ⅱ地点では第Ⅲ層が20～30㎝の層厚で確認されている（佐々木・内野・宮川　2009）。本地点では、第Ⅲ層は基本土層C-C'のごく一部で確認されたのみである。B-B'では、通常の第Ⅲ層は確認されていない。このことは、本地点で人為的な掘削が行われたと考えられる。具体的な掘削深度は、第Ⅳ層上面から、深い箇所で第Ⅴ層までである。本地点では大規模な掘削を伴う造成工事が行われたと推察される。

第３節　検出された遺構・遺物

（１）概　要

本地点からは、中世以降の井戸跡１基（８Ｗ）・土坑16基（750～765Ｄ）・板碑埋納遺構１基（１

板）・ピット６本（１～６Ｐ）が検出された。なお、確認調査時に確認面と思われたローム層については、第５図の基本土層図を見てみると大きなブロック状の塊であり、明らかに撹乱による破壊は受けている部分もあるが、本地点の大部分は地盤整備ないし天地返しのような人為的な造成工事（以下、造成工事）が行われていたものと考えられる。こうした造成工事であるが、その造成面を切るように中国製の磁器皿（15世紀後半）を出土する757号土坑などが構築され、さらに造成面やその覆土中から銭貨や中世（15世紀中）の陶磁器・土器などが多く出土していることから考えて、中世（15世紀中）の段階に大規模な造成工事が行われたと判断できる。

（２）基本土層及び造成工事について

前項において説明した造成工事については、出土遺物の関係から、中世（15世紀中）に行われていたとしたが、ここでは、第５図の基本土層を参照し、その概要を示すこととする。

遺　　構（第４・５図）

［位　　置］（B～D－２～４、C－５）グリッド。

［構　　造］**遺構の広がり**：今回の調査では、（B～D－２～４、C－５）グリッドに造成面が認められ、調査区のほぼ全体に広がる。**標高**：第４図には等高線を示したが、これによると、造成面の最も高い標高は、調査区南半部の（B・C－３・４）グリッドにある11.7ｍラインである。ただし、11.7ｍラインは部分的に島状に確認されるのみである。11.6ｍラインは、調査区中央～南半部である（B・C－３・４）グリッドで11.7ｍラインを囲うように認められる。また、調査区北部の（C・D－２）グリッド、調査区西端（B－３）グリッドでは部分的に島状に認められる。11.5ｍラインは、調査区北部（C－２・３）グリッド、調査区南東隅の（C・D－４、C－５）で認められる。これらの等高線の間隔は密集しておらず、大きく傾斜している様子は認められない。以上のことから、造成面は、多少の起伏を有する平坦に近い面と言える。**造成工事による堆積土（造成土）**：第５図のB-B'-B''で示したように、造成土は、黒褐色土などの暗い色調の土、黄褐色土などの明るい色調の土、ロームブロックが入り混じった状態で堆積している。土層がブロック状に分層される部分が多く、各土層の層理は安定しない。また、各土層のしまり具合や空隙の度合いも異なる。これらから、自然堆積土ではなく、二次的な堆積土であると判断できる。**掘削面**：掘削深度は、南端部では確認面から10～20㎝と浅く、南から4.1ｍ以降では確認面から50～83㎝程度である。立川ローム層序で言えば、掘削は第Ⅳ層から第Ⅴ層まで及んでいる。掘削底面の状況は一定しておらず、凸凹が認められる。

［遺　　物］明確に把握できなかったが、今回出土の中世以降のすべての資料に関して、関連する遺物と思われる。今回、銭貨４枚・鉄滓については、（７）遺構外出土遺物で扱うこととした。

［時　　期］出土遺物から、造成工事があった時期は中世（15世紀中）と考えられる。

（３）土　坑

ここでは、平面形及び細部の形態的な特徴を本報告第２章第４節と同様に城山遺跡第42地点で報告された分類基準に当てはめて説明することにする（尾形・深井・青木　2005）。Ｆ群については、中野遺跡第95地点（徳留・尾形・青木　2017）の分類を使用し、Ｇ群については、その他として今回新たに分類不明なものを設定したものである。さらに、今回、検出された遺構は、中世のものが主体となることで、Ｅ群については、地下室・地下坑（江戸遺跡研究会編　2001）に地下式坑（鍋島　2007）を

加えることとした。検出された土坑の総数は16基で、基本構造については、第３表を参照。

Ａ群　方形の土坑　３基（1類－０基、２墨－３基）
　１類　袋状の構造を呈する　０基
　２類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する　３基（756・757・761Ｄ）
Ｂ群　長方形の土坑　３基（１類－０基、０類－０基、３類－３基、４類－０基）
　１類　溝状土坑　０基
　２類　幅狭の長方形土坑　０基
　３類　幅広の長方形土坑　３基（758・762・765Ｄ）
　４類　火床部を有する土坑　０基
Ｃ群　円形・楕円形の土坑　２基（750・759Ｄ）
Ｄ群　不整形の土坑　０基
Ｅ群　地下式坑、地下室、地下坑　４基（１類－４基、２類－０基）
　１類　１竪坑１主体部タイプ　４基（751・752・760・763Ｄ）
　２類　特殊タイプ　０基
Ｆ群　Ｔ字形の土坑　０基
Ｇ群　その他　４基（753～755・764D）

Ａ群　方形の土坑（第６図、第３表）

３基（756・757・761Ｄ）が該当する。今回の調査では、２類のみの検出であった。

２類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する（第６図、第３表）

756号土坑

遺　　構（第６図、第３表）

［位　　置］（Ｃ・Ｄ－３）グリッド。

［検出状況］造成工事により影響を受けている。

［構　　造］平面形：方形。規模：不明／深さ48㎝。壁：約70°の角度で急斜に立ち上がる。長軸方位：不明。

［覆　　土］９層（９～17層）に分層される。

［遺　　物］土器２点（土鍋）と鉄製品１点（小札か）を図示することができた。

［時　　期］中世（15世紀）。

遺　　物（第14図３、図版６－１、第５表）

［土　　器］（図版６－１－１・２、第５表）

１・２は土鍋である。２は底部破片である。いずれも時期は15世紀である。

［鉄 製 品］（第14図３、図版６－１－３）

甲冑の小札と思われる。長さ3.3㎝・幅2.2㎝・厚さ0.5㎝・重さ3.6ｇ。小孔は６か所に穿たれている。小孔の大きさは径0.3㎝程。断面形は下面がやや平坦で、上面が湾曲している。

757号土坑

遺　　構（第６図、第３表）

［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。
［検出状況］造成工事による堆積土内からの検出である。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸0.79m／短軸0.60m／深さ 17㎝。壁：53°の角度をもち立ち上がる。長軸方位：Ｎ－30°－Ｗ。
［覆　　土］10層（５～14層）に分層される。
［遺　　物］磁器１点（皿）が出土した。
［時　　期］中世（15世紀後半）。
遺　　物（第14図１、図版６－１－１、第５表）
［磁　　器］（第14図１、図版６－１－１、第５表）
１は中国製の磁器皿である。見込みに「玉取獅子文」が描かれている。時期は15世紀後半である。

761号土坑
遺　　構（第６図、第３表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］造成工事による堆積土内からの検出である。
［構　　造］平面形：方形。規模：長軸0.84m／短軸0.74m／深さ0.45㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ－69°－Ｗ。
［覆　　土］８層（８～15層）に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

Ｂ群　長方形の土坑（第６図、第３表）
３基（758・762・765 Ｄ）が該当する。今回の調査では、３類のみの検出であった。

３類　幅広の長方形土坑（第６図、第３表）
758号土坑
遺　　構（第６図、第３表）
［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。
［検出状況］造成工事による堆積土内からの検出である。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸0.76m／短軸0.40m／深さ８㎝。壁：掘り込みは浅く、立ち上がりは緩やか。長軸方位：Ｎ－55°－Ｅ。
［覆　　土］３層（５～７層）に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

762号土坑
遺　　構（第６図、第３表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［検出状況］造成工事による堆積土内からの検出である。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸0.87m／短軸0.60m／深さ34㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－20°－W。

［覆　　土］11層に分層される。

［遺　　物］陶器１点（碗）が出土した。

［時　　期］中世（15世紀中）。

遺　　物（第14図１、図版６－１－１、第５表）

［陶　　器］（第14図１、図版６－１－１、第５表）

１は中国製の陶器碗である。時期は15世紀中である。

765号土坑

遺　　構（第６図、第３表）

［位　　置］（Ｃ－４）グリッド。

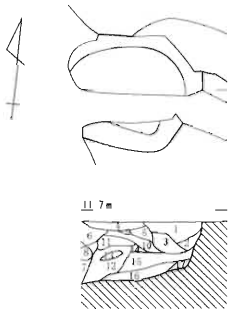
［検出状況］造成工事による堆積土下からの検出である。東側が調査区外にあるものと思われる。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸0.75ｍ以上／短軸0.61ｍ／深さ14㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－55°－W。

［覆　　土］２（３・４層）層に分層される。

遺構名	位　置	平面形		分類	規模(m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時　期
					長軸	短軸	深さ				
750D	(C-3)G	楕円形		C群	0.40以上	0.38	0.07	N-85°-W	4層(第7図)	土器1点(皿)／鉄滓(19点:205g)	中世(15c中～後半)
751D	(C-2)G	地下式坑	主体部:長方形	E群1類	3.00	1.84	1.94	N-25°-W	主体部:55層(第8図)／天井部は陥落／8Wに切られる	中国製陶器1点(碗)	中世(15c中)
			竪坑部:長方形		0.97	0.78	1.28	N-65°-E			
752D	(B-2・3)G	地下式坑	主体部:長方形	E群1類	2.55	不明	1.53	N-88°-W	23層(第9図)／1～8層は表土及び造成工事による堆積土	陶器1点(碗)、石製品1点(硯)／貝類(タニシ3点・子9点、イシガイか3点)	中世(15c中)
			竪坑部:長方形		1.15	1.00	1.01				
753D	(B-3)G	不明		G群	不明	不明	不明	不明	被熱範囲のみ確認	なし	中世以降
754D	(D-3)G	不明		G群	不明	不明	0.08	N-28°-W	5層(第7図)／被熱あり	鉄滓(4点:45g)、骨片か(1点)	中世以降
755D	(C-3)G	不明		G群	不明	不明	不明	不明	被熱範囲のみ確認	なし	中世以降
756D	(C・D-3)G	方形		A群2類	不明	不明	0.48	不明	9層(第6図)	土器2点(土鍋)、鉄製品1点(小札か)	中世(15c)
757D	(D-3)G	方形		A群2類	0.79	0.6	0.17	N-30°-W	10層(第6図)	中国製磁器1点(皿)／玉取獅子文	中世(15c後半)
758D	(D-3)G	長方形		B群3類	0.76	0.40	0.08	N-55°-E	3層(第6図)	なし	中世以降
759D	(C-3)G	楕円形		C群	0.55	0.50	0.05	N-S	3層(第7図)	なし	中世以降
760D	(B・C-2)G	地下式坑	主体部:不明	E群1類	不明	不明	1.35	不明	9層(第10図)／1~8層は表土及び造成工事による堆積土	陶器1点(片口鉢)	中世(15c中)
			竪坑部:長方形		0.9	0.75	0.99				
761D	(C-3)G	方形		A群2類	0.84	0.74	0.45	N-69°-W	8層(第6図)	なし	中世以降
762D	(C-3)G	長方形		B群3類	0.87	0.60	0.34	N-20°-W	11層(第6図)	中国製陶器1点(碗)	中世(15c中)
763D	(C-2・3)G	地下式坑	主体部:長方形	E群1類	2.27	2.15	2.58	N-23°-E	8層(第11図)／1~3層は造成工事による堆積土	なし	中世以降
			竪坑部:長方形		0.9	0.65	2.35	N-32°-E			
764D	(C-3)G	不明		G群	不明	不明	0.30	不明	被熱範囲のみ確認	鉄滓(2点:100g)	中世以降
765D	(C-4)G	長方形		B群3類	0.75以上	0.61	0.14	N-55°-W	2層(第6図)	なし	中世

第３表　中世以降の土坑一覧

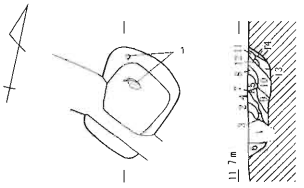


1層　暗褐色土　小石を含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや弱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含み、焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
7層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや弱。
8層　ロームブロック。

756D

9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。
10層　暗赤褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。
11層　ロームブロック。
12層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
13層　ロームブロック。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまりやや弱。
15層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。

756号土坑

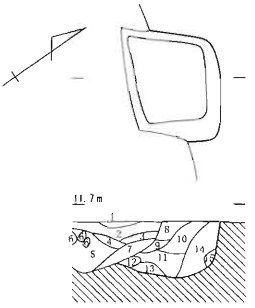


1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含む。しまりやや強。
2層　ロームブロック。
3層　暗褐色土　焼土粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。

757D

5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・焼土粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
8層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
9層　ロームブロック。
10層　茶褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含み、ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
11層　黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり中。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
13層　茶褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

757号土坑



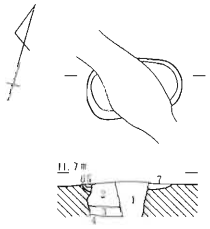
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
5層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。
6層　ロームブロック。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

761D

8層　褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
10層　褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
11層　茶褐色土　ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
12層　ロームブロック。
13層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
14層　褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
15層　ロームブロック。

761号土坑

Ａ群２類

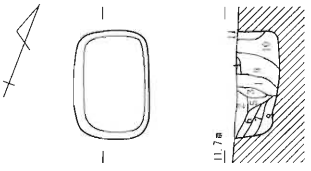


1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗茶褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。

758D

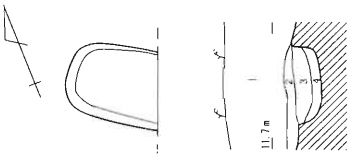
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
7層　暗赤茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

758号土坑



1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黄褐色土　ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
7層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。
8層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
9層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
10層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
11層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。

762号土坑



1層　表土。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。造成土。

765D

3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。

765号土坑

Ｂ群３類

0　1/60　2m

第６図　土坑Ａ群・Ｂ群（1／60）

［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世。

Ｃ群　円形・楕円形の土坑（第７図、第３表）

２基（750・759Ｄ）が該当する。

750号土坑

遺　　構（第７図、第３・10表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］造成工事による堆積土内からの検出である。
［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸0.40ｍ以上／短軸0.38m／深さ７㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ－85°－Ｗ。
［覆　　土］４層（14～17層）に分層される。
［遺　　物］土器１点（皿）、鉄滓（19点：205ｇ）が出土した。
［時　　期］中世（15世紀中～後半）である。
遺　　物（第14図１、図版６－１－１、第５表）
［土　　器］（第14図１、図版６－１－１、第５表）
１は皿の体部下半から底部の破片である。時期は15世紀中～後半である。

759号土坑

遺　　構（第７図、第３表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］造成工事による堆積土内からの検出である。
［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸0.55ｍ／短軸0.50m／深さ５㎝。壁：掘り込みは浅く、緩やかに立ち上がる。長軸方位：Ｎ－Ｓ。
［覆　　土］３層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

Ｄ群　不整形の土坑

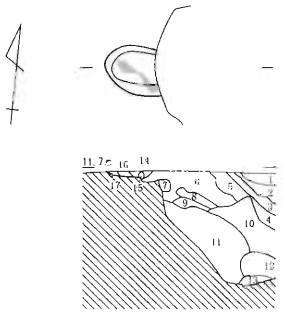
今回は該当する遺構がなかった。

Ｅ群　地下室・地下坑、地下式坑（第８～11図、第３表）

すべて中世の遺構であることから、地下式坑として、４基（751・752・760・763Ｄ）が該当する。

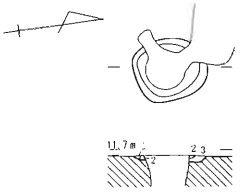
751号土坑

遺　　構（第８図、第３表）
［位　　置］（Ｃ－２）グリッド。
［検出状況］８Ｗに切られる。
［構　　造］地下式坑の形態をもつ。



1層　暗黄褐色土　ロームブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ロームブロックを含む。しまり弱。
4層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
6層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
7層　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。ブロック状。
8層　赤茶褐色土　ローム小ブロック・焼土粒子を含み、炭化物粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
9層　明茶褐色土　焼土粒子を含み、ローム小ブロック・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
10層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
11層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。
12層　黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。
13層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり弱。
750D
14層　赤褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまりやや強。
15層　暗茶褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。
16層　明茶褐色土　焼土粒子・焼土小ブロック・ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
17層　黄褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。

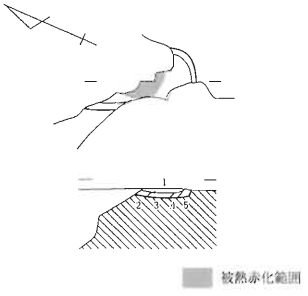
750号土坑



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含み、炭化材を僅かに含む。しまり中。
2層　ロームブロック。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子を僅かに含む。しまり中。

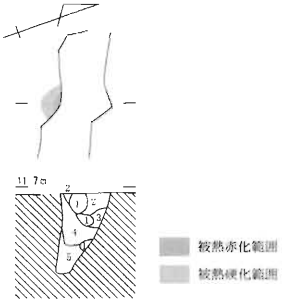
759号土坑

C群



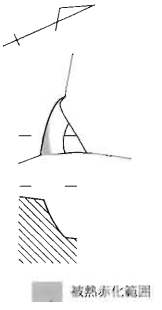
1層　明茶褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、白色粒子を含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、焼土粒子を含む。しまりやや強。
5層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり中。

754号土坑



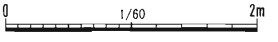
1層　ロームブロック。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。
5層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。

755号土坑

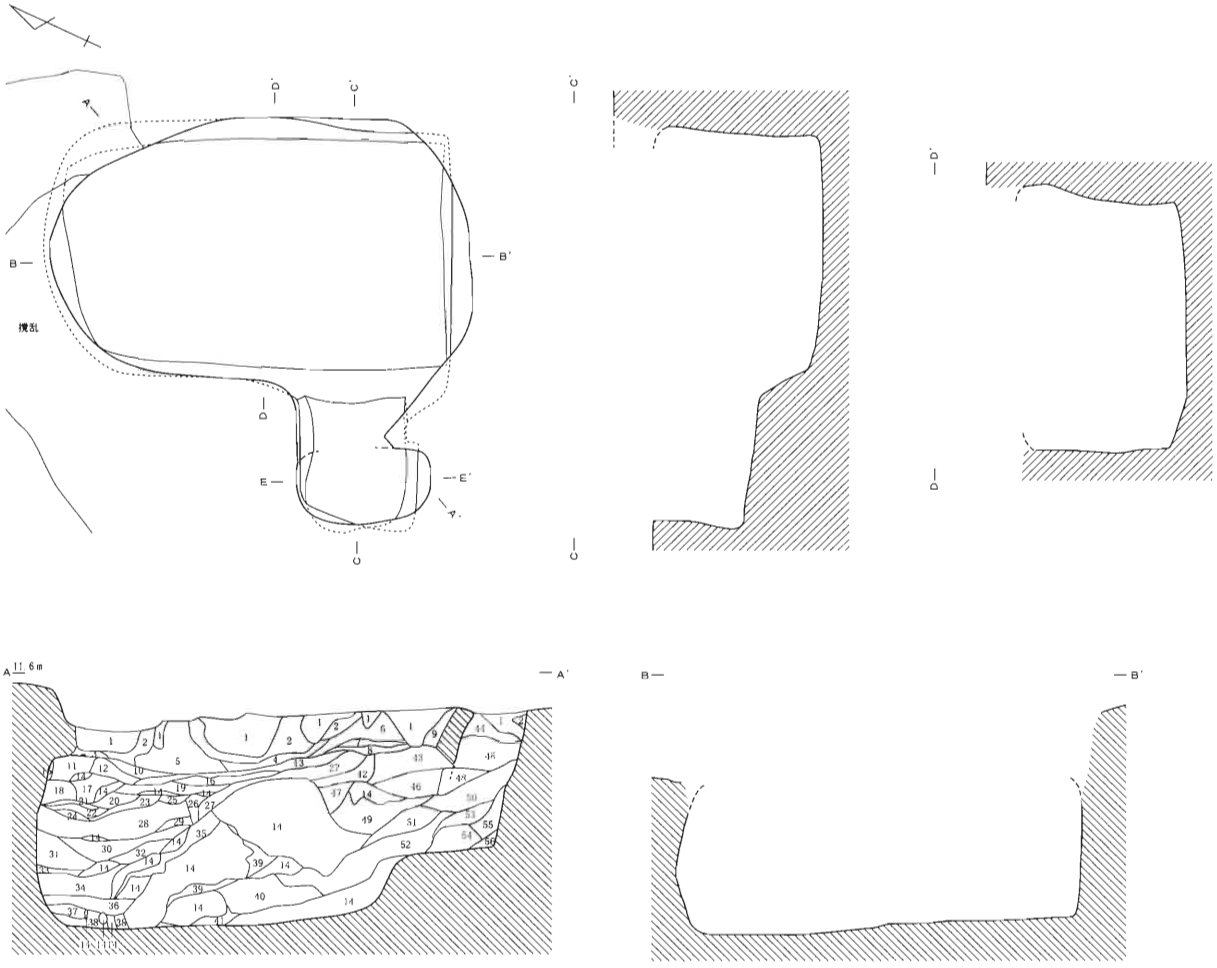


764号土坑

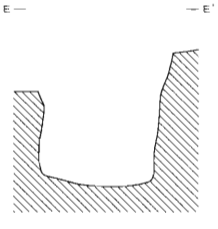
G群



第７図　土坑Ｃ群・Ｇ群（1／60）



1層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
2層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
751D
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
7層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
9層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
11層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
13層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
14層　ロームブロック。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
18層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
19層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
21層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
22層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
23層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
24層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
25層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
26層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
27層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
28層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
29層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや弱。
30層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
31層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
32層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
33層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや弱。
34層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
35層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや弱。
36層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや弱。
37層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
38層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや弱。
39層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり弱。
40層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
41層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや弱。
42層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
43層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
44層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
45層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
46層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
47層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
48層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
49層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
50層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
51層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
52層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
53層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
54層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
55層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
56層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。



751号土坑

0　1/60　2m

第８図　土坑Ｅ群１（1／60）

［入口竪坑部］平面形：開口部は主軸に対して横長の長方形と思われ、長軸1.03ｍ／短軸0.55ｍ。坑底は主軸に対し横長の長方形で、長軸0.97m／短軸0.78m。深さ1.28ｍ。平坦であり、壁はやや開きながら立ち上がる。主体部への連絡は、60°程の角度で46㎝下がっている。

［主 体 部］平面形：主軸に対し縦長の長方形。規模：長軸約3.00m／短軸1.84m／深さ／1.94ｍ。長軸方位：Ｎ－25°－Ｗ。

［覆　　土］55層に分層できた。

［遺　　物］陶器１点（碗）を出土した。

［時　　期］中世（15世紀中）。

遺　　物（第14図１、図版６－１－１、第５表）

［陶　　器］（第14図１、図版６－１－１、第５表）

１は中国製の八角碗である。時期は15世紀中である。

752号土坑

遺　　構（第９図、第３表）

［位　　置］（Ｂ－２・３）グリッド。

［検出状況］造成工事による堆積土の下からの検出である。主体部の西側は調査区域外である。

［構　　造］地下式坑の形態をもつ。

［入口竪坑部］開口部は主軸に対して横長の長方形と思われる。長軸1.44m／短軸不明。坑底は主軸に対して縦長の長方形。坑底は平坦であり、1.15ｍ×1.00ｍ。壁は緩やかに立ち上がる。深さ1.01m。主体部への連絡は、段差をもち、ほぼ垂直に50㎝程下がっている。横穴状のピットが３ヶ所検出された。

［主 体 部］平面形：主軸に対して横長の長方形と思われる。規模：長軸2.55m／短軸不明／深さ1.53m。長軸方位：Ｎ－88°－Ｗ。

［覆　　土］23層（９～31層）に分層できた。１～８層は表土及び造成工事による堆積土と思われる。

［遺　　物］陶器１点（皿）・石製品１点（硯）を出土した。その他、貝13点（タニシ３点・子９点、イシガイと思われる二枚貝３点）が出土している（図版６－１－3）。

［時　　期］中世（15世紀中）。

遺　　物（第14図１・２、図版６－１－１・２、第５表）

［陶　　器］（第14図１、図版６－１－１、第５表）

１は瀬戸焼の灰釉皿で、内外面に黒色の付着がある。分析はしていないが、タール状の付着物であるかもしれないが、漆の可能性もある。時期は15世紀中である。

［石 製 品］（第14図２、図版６－１－２）

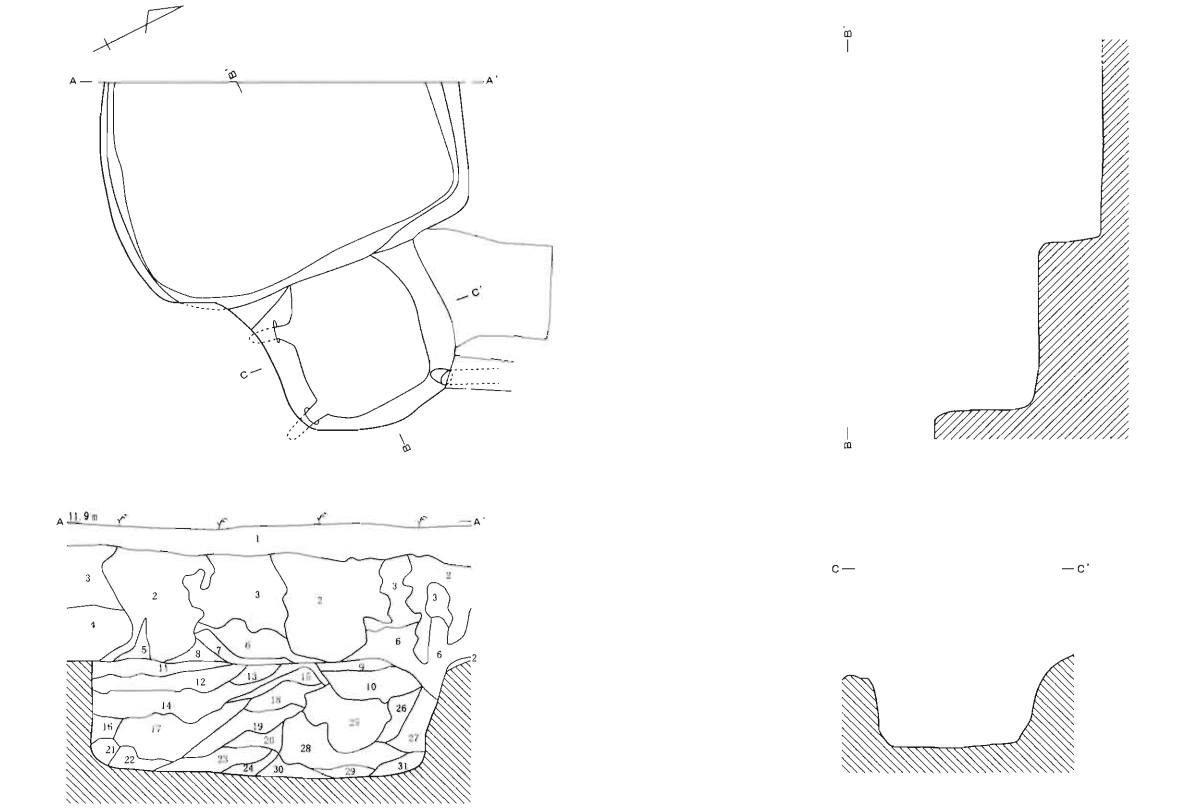
硯の小破片と思われる。長さ5.0㎝・幅2.7㎝・高さ0.8㎝・重さ13.3ｇ。

760号土坑

遺　　構（第10図、第３表）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－２）グリッド。

［検出状況］主体部の多くは西側調査区外へ伸びるため、主体部は一部のみの検出である。



752号土坑

第９図　土坑Ｅ群２（1／60）

［構　　造］地下式坑の形態をもつ。

［入口竪坑部］開口部は主軸に対し横長の長方形であると思われる。長軸1.35ｍ／短軸不明。坑底は主軸に対して縦長の長方形。長軸0.9m／短軸0.75ｍ。深さ99㎝。坑底は平坦で、硬化面が確認できた。主体部への連絡は、段差をもち、ほぼ垂直に34㎝下がる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

［主 体 部］一部しか確認できなかったため、詳細不明である。確認できた部分の深さ1.35ｍ。

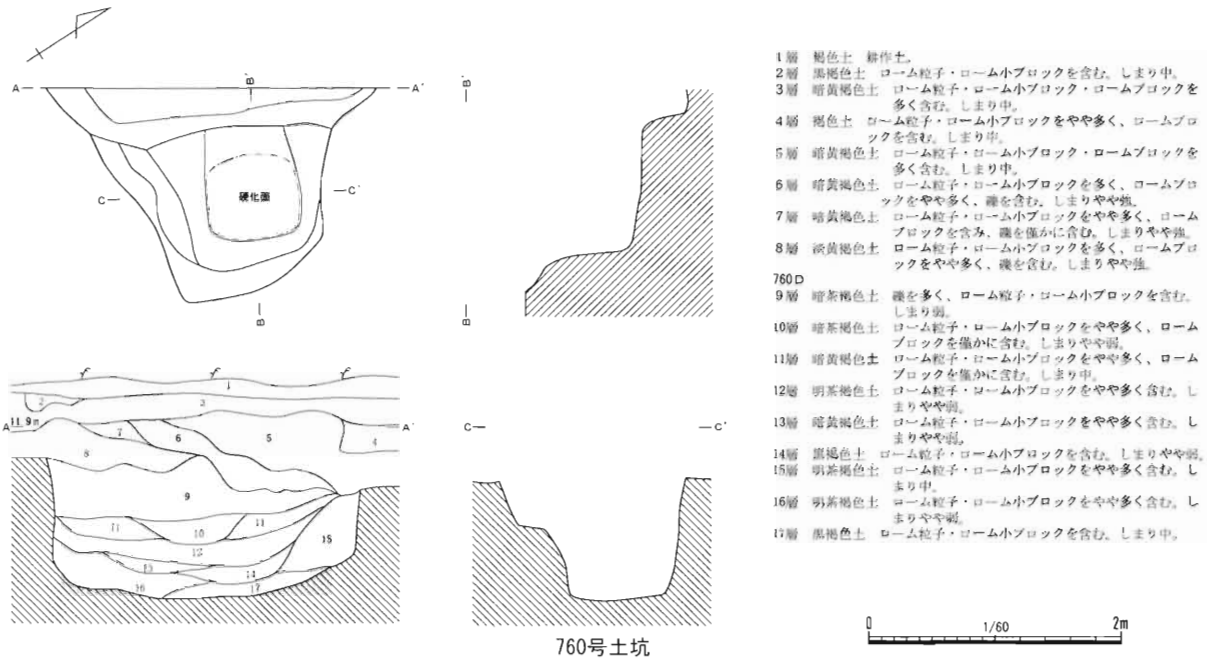
［覆　　土］９層（９～17層）に分層できた。１～８層は表土及び造成工事による堆積土と思われる。

［遺　　物］陶器１点（片口鉢）を図示できた。

［時　　期］中世（15世紀中）。

遺　　物（第14図１、図版６－１－１、第５表）

［陶　　器］（第14図１、図版６－１－１、第５表）



第10図　土坑Ｅ群３（1／60）

１は常滑の片口鉢である。時期は15世紀中である。

763号土坑

遺　　構（第11図、第３表）

［位　　置］（Ｃ－２・３）グリッド。

［検出状況］完掘することができた。

［構　　造］地下式坑の形態をもつ。

［入口竪坑部］開口部は主軸に対して横長の長方形。長軸1.40ｍ／短軸1.18ｍ／深さ2.35ｍ。坑底は主軸に対して横長の長方形。長軸0.90ｍ／短軸0.65ｍ。坑底は平坦であるが、主体部には緩やかな傾斜で20㎝程下がる。長軸方位：Ｎ－32°－Ｗ。

［主 体 部］主軸に対して横長の長方形。長軸2.27ｍ／短軸2.15ｍ／深さ2.58ｍ。長軸方位：Ｎ－23°－Ｅ。天井部はすでに陥落しているため、天井部までの高さは正確には不明であるが、坑底から135㎝程と思われる。

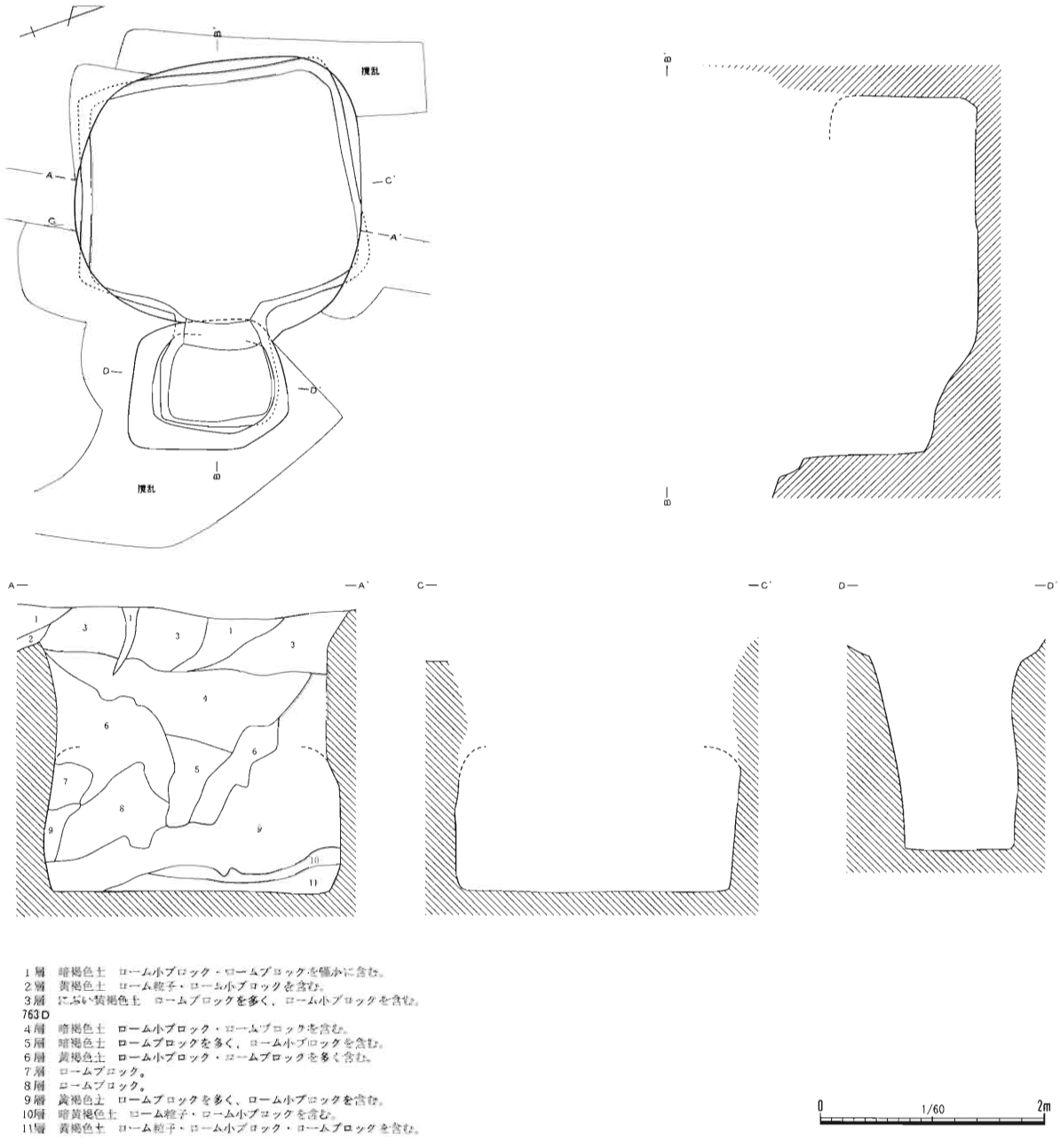
［覆　　土］８層（４～11層）に分層された。１～３層は造成工事による堆積土と思われる。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

Ｆ群　Ｔ字形の土坑

今回は該当する遺構がなかった。



763号土坑

第11図　土坑Ｅ群４（1／60）

Ｇ群　その他（第４・７図、第３表）

753号土坑

遺　　構（第４図、第３表）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］火床部のみの検出である。

［検出状況］752Ｄの入口竪坑部の覆土中から検出された。

［構　　造］平面形：楕円形か。その他すべて詳細不明である。

［覆　　土］焼土のみで覆土は確認できなかった。

［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

754号土坑

遺　　構（第７図、第３・10表）
［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。
［検出状況］大部分が破壊され、詳細不明である。
［構　　造］平面形：楕円形か。規模：不明／深さ８㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ－28°－Ｗ。坑底中央に被熱部分が確認できた。
［覆　　土］５層に分層された。
［遺　　物］鉄滓（4点：45ｇ）と骨片か（1点）が出土した。骨片は分析なし。
［時　　期］中世以降。

755号土坑

遺　　構（第７図、第３表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］火床部のみの検出であるが、大部分が破壊され、詳細不明である。
［構　　造］平面形：楕円形か。その他すべて詳細不明である。
［覆　　土］焼土のみで覆土は確認できなかった。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

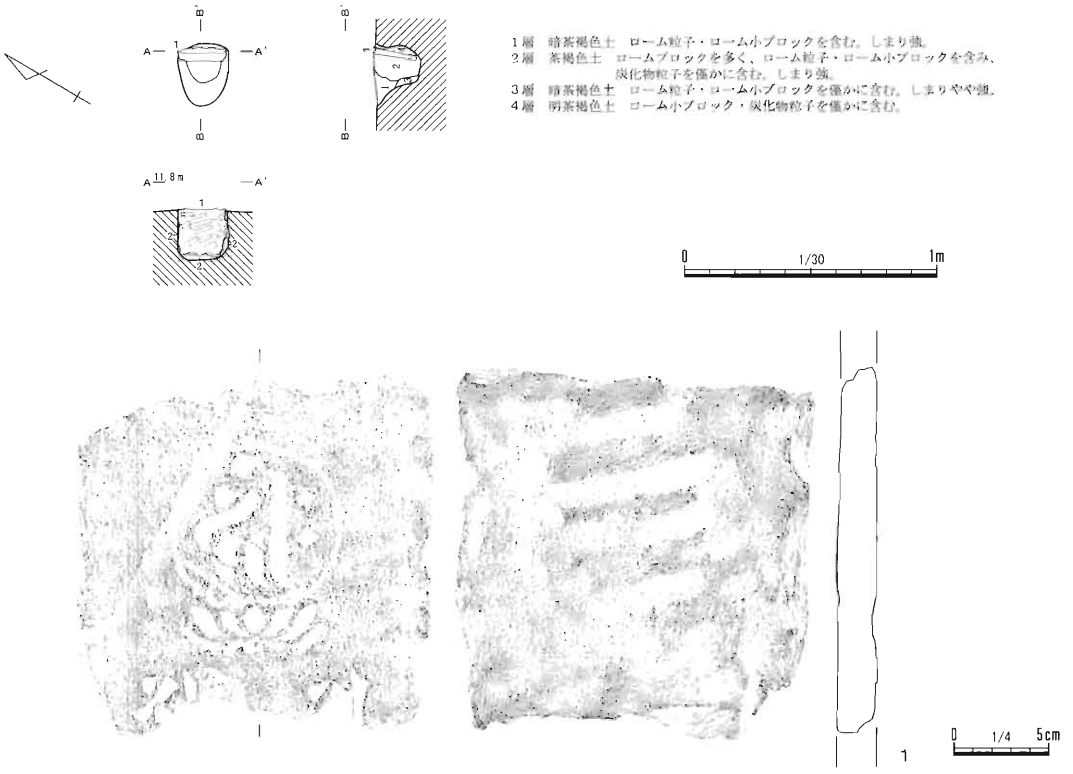
764号土坑

遺　　構（第７図、第３・10表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］火床部のみの検出であるが、大部分が破壊され、詳細不明である。
［構　　造］平面形：楕円形か。その他すべて詳細不明である。
［覆　　土］焼土のみで覆土は確認できなかった。
［遺　　物］鉄滓（2点：100ｇ）が出土した。
［時　　期］中世以降。

（４）板碑埋納遺構

１号板碑埋納遺構

遺　　構（第12図）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］撹乱により一部破壊されているが、土坑状の掘り込み内からの出土と判断した。
［構　　造］平面形：掘り込みは楕円形。規模：長軸0.27ｍ／短軸0.21ｍ。／深さ19.5㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ－55°－Ｅ。



第12図　１号板碑埋納遺構（1／30）・出土遺物（1／4）

［遺　　物］板碑１点を出土した。

［時　　期］中世。

［所　　見］土坑状の掘り込み内の出土であるが、板碑本来の基部は欠損していることから、設置されたものとは考えづらい。そのため、今回は埋納遺構と捉えることとした。

遺　　物（第12図１、図版６－２－１）

［板　　碑］（第12図１、図版６－２－１）

１は板碑である。現存長19.5㎝・幅18.9㎝・厚さ2.1㎝・重さ1,660ｇ。表面には阿弥陀三尊種子が刻まれている。三尊は阿弥陀仏：キリークを中心に左脇侍が観音：サ（向かって左）、右脇侍が勢至：サク（向かって右）である。裏面には成形痕が顕著に残っている。掘り込み内から正置の状態で埋められており、表面が北東方向に向き、約80°の角度で立っていた状態であった。

（５）井戸跡

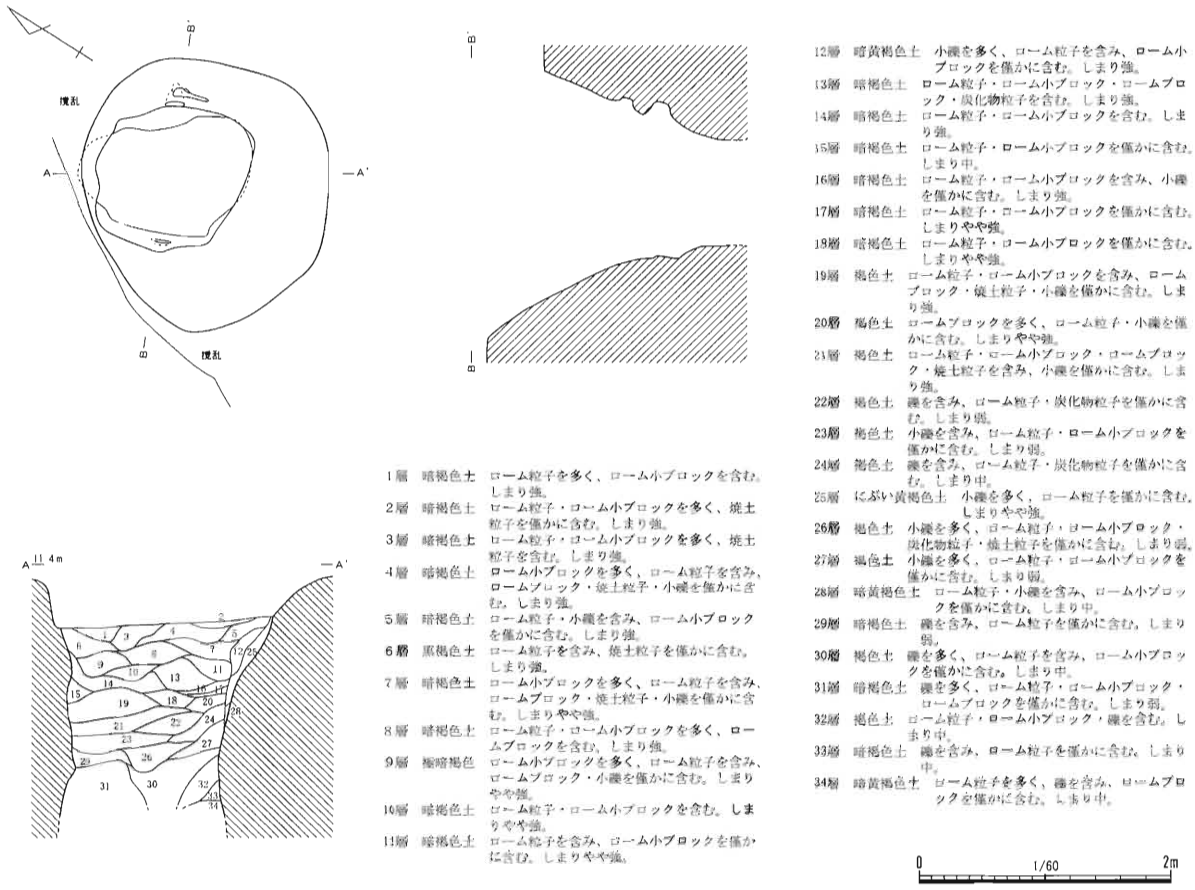
８号井戸跡

遺　　構（第13図）

［位　　置］（Ｃ－２）グリッド。

［検出状況］751Ｄを切る。

［構　　造］平面形：開口部は楕円形を呈するが、途中から方形に近い形を呈する。規模：開口部径2.15×1.95ｍ、深さ60㎝以下は1.17×1.14m。深さ200㎝まで精査を行ったが、危険を伴うため途中で精査を断念した。開口部は漏斗状に大きく広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。足掛穴は３ヶ所確認できた。壁への掘り込みは７～15㎝。



第13図　８号井戸跡（1／60）

［遺　　物］陶磁器・土器、石製品１点（砥石）、板碑２点を出土した。

［時　　期］中世（15世紀後半）

遺　　物（第15図３・５・13、図版７－１－１～15、第５表）

［陶磁器・土器］（第15図３・５、図版－７－１－１～12、第５表）

１は磁器、２～７は陶器、８～12は土器である。

［石 製 品］（第15図13、図版７－１－13）

13は砥石である。長さ7.3㎝・幅4.5㎝・厚さ3.1㎝・重さ95.5ｇ。左側面を欠損する。平面は不整長方形、断面は長方形と思われる。側面は上下両端が嘴状に窄まる。使用面は正面、右側面、裏面である。使用面にはＶ字状の刃物痕、細かな線状の擦痕が残る。石材は凝灰岩である。

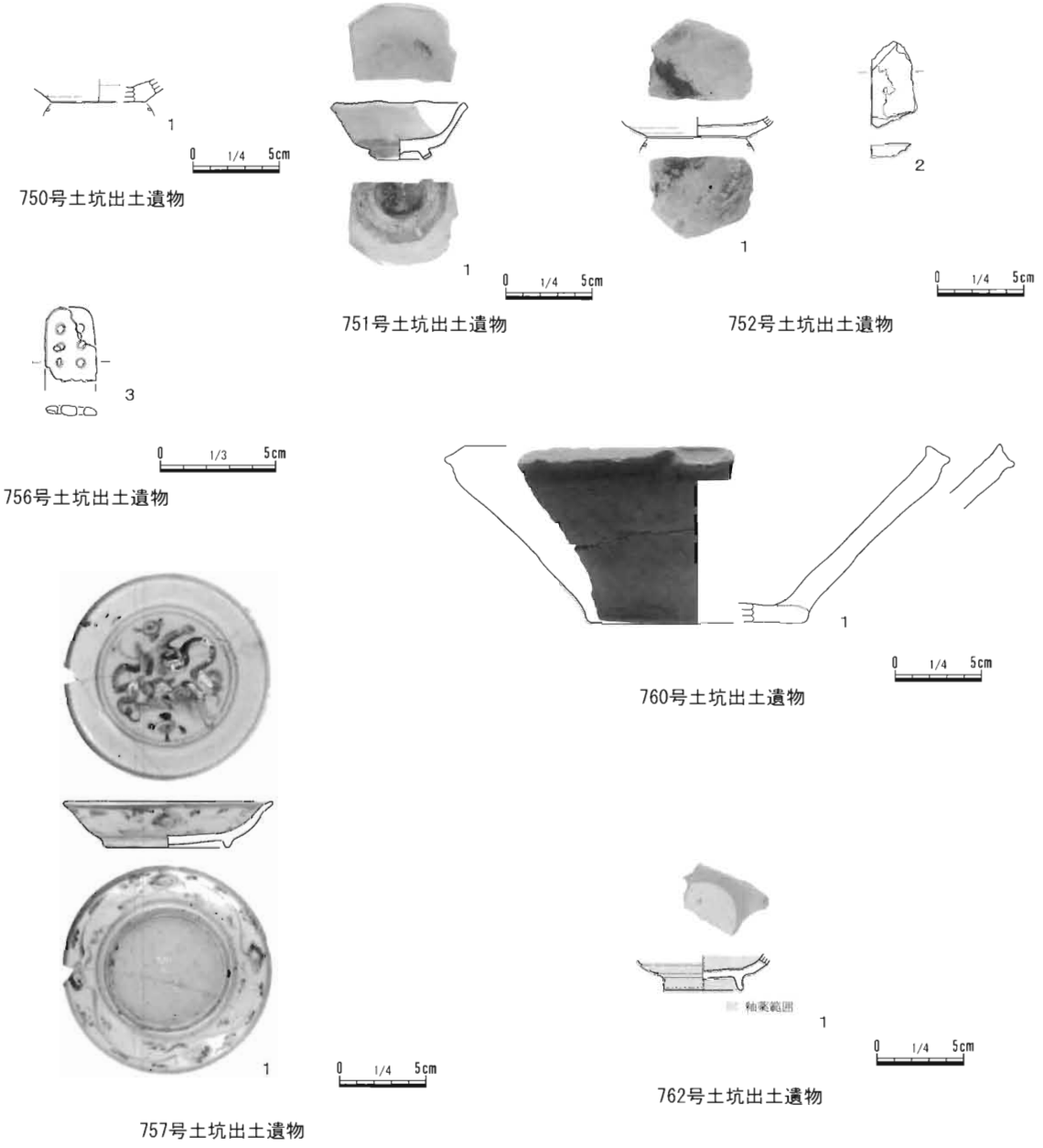
［板　　碑］（図版７－１－14・15）

14・15は板碑の小破片と思われる。14は現存長10.5㎝・幅5.3㎝・厚さ0.7㎝・重さ49.8ｇ。15は現存長9.1㎝・幅5.9㎝・厚さ0.8㎝・重さ53.3ｇ。いずれも銘はなかった。

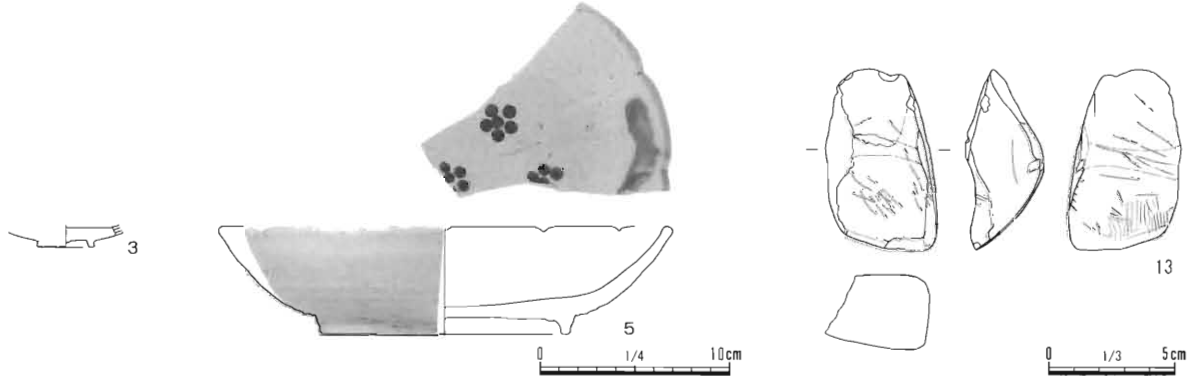
（６）ピット（第16・17図、図版７－２・第４・５表）

ピットとして捉えられた遺構は、６本（１～６Ｐ）である。そのうち遺物を出土した２・４Ｐ出土の遺物について説明することとする。その他のピットは第４表を参照。

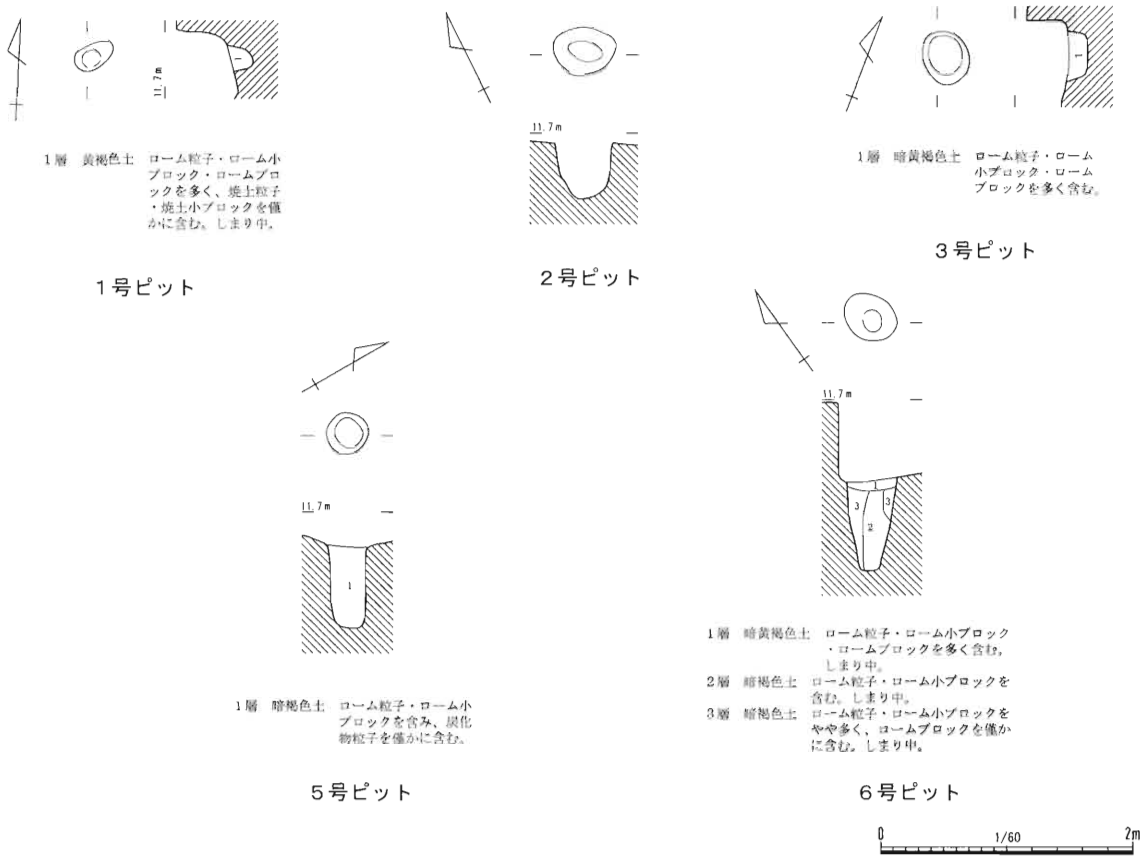
２Ｐは（Ｃ－３）グリッドで検出された。出土遺物は土器１点・石製品１点（砥石）である。土器は



第14図　土坑出土遺物（1／4・1／3）



第15図　８号井戸跡出土遺物（1／4・1／3）



第16図　ピット（1／60）

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1 P	(C-3)G	隅丸長方形	33	20	23	単層（第16図）	なし	中世以降
2 P	(C-3)G	楕円形	50	38	45	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黒褐色土	土器1点（皿）・石製品1点（砥石）	中世（15c）
3 P	(C-3)G	隅丸長方形	44	36	20	単層（第16図）	なし	中世以降
4 P	(C-4)G	隅丸長方形	34	27	98	単層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック・炭化物粒子を含む暗褐色土を基調	陶器2点（皿）	中世（15c中）
5 P	(C-4)G	隅丸方形	33	32	77	単層（第16図）	なし	中世以降
6 P	(C-4)G	隅丸方形	44	36	76	3層（第16図）	なし	中世以降

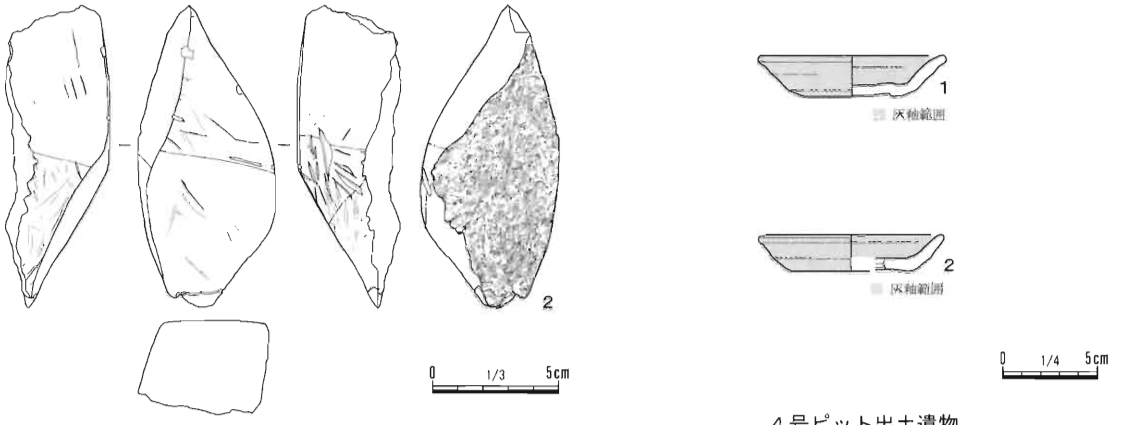
第４表　ピット一覧

皿の体部小破片である。時期は中世（15世紀）である。砥石は長さ12.1㎝・幅5.5㎝・厚さ3.8㎝・重さ220.5ｇ。完形。平面は上半が嘴状に窄まり、下半が逆台形状となる。側面は上半が長方形、下半が三角形状となる。断面は長方形である。使用面は正面、両側面である。使用面にはＶ字状の刃物痕、細かな線状擦痕が残る。裏面は剥離面だが、裏面中央と右下付近に縦方向の櫛歯状擦痕が認められる。石材は凝灰岩である。

４Ｐは（Ｃ－４）グリッドで検出された。出土遺物は瀬戸系の陶器２点（皿）である。いずれも時期は中世（15世紀中）である。

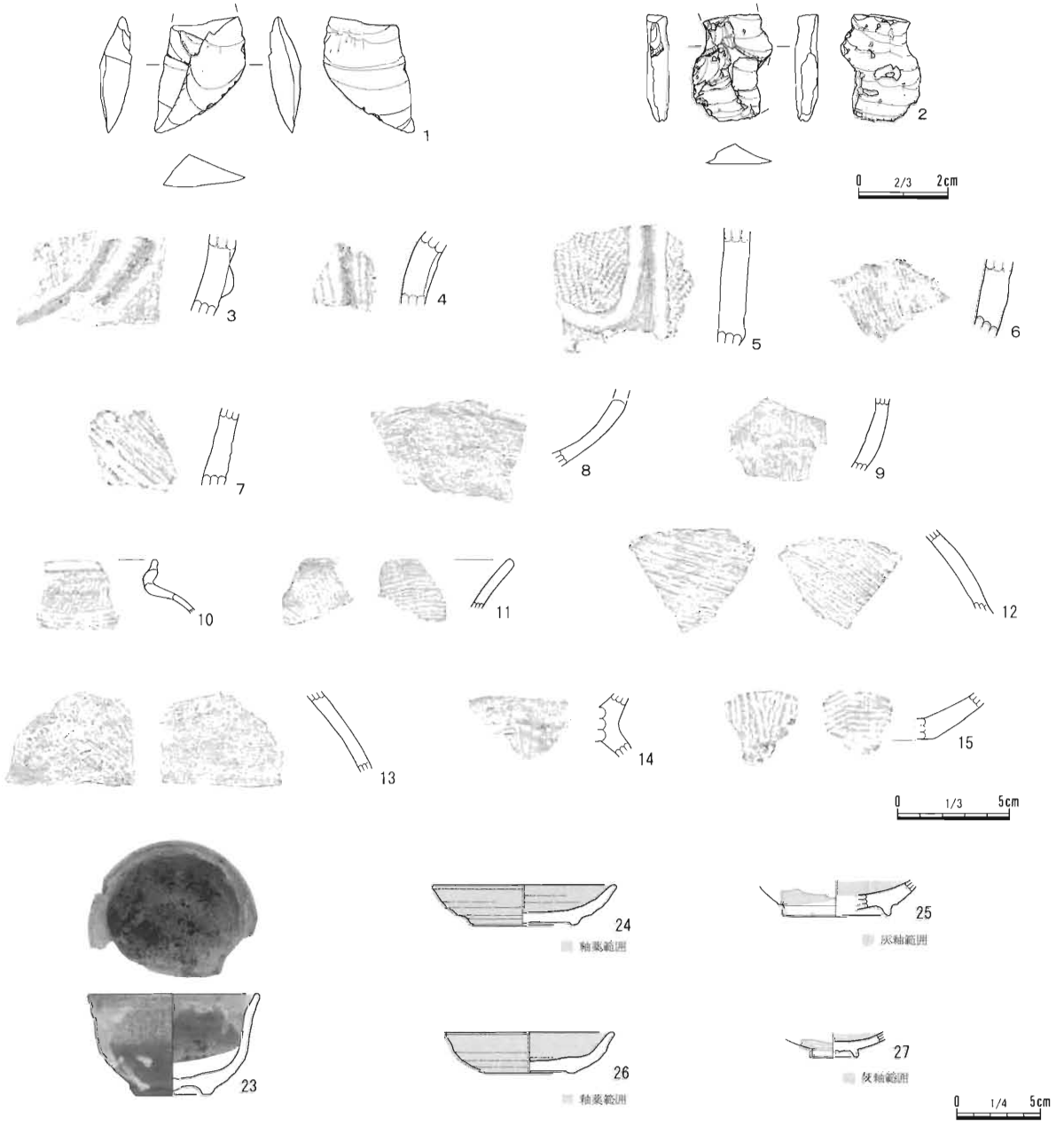
挿図番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
第14図1 図版6-1-1	750 D	土器	皿	高 [1.3]	底部破片／ロクロ成形／外面底部に回転糸切り痕あり／色調は明橙色／胎土に茶褐色粒子・砂粒を含む／底部破片／覆土中からの出土	在地系	中世 (15c中～後半)
第14図1 図版6-1-1	751 D	陶器	碗	高 3.3 口 (8.0) 底 3.7	八角碗／口唇部は面取り／高台削り／外面底部に「＋」の墨書／外面底部付近を除き白泥／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／遺存度60％／主体部上層からの出土	中国製	中世 (15c中)
第14図1 図版6-1-1	752 D	陶器	皿	高 [1.2] 底 5.6	灰釉／外面底部に回転糸切り痕／内外面に黒い付着物あり／色調は灰色／胎土に金雲母・砂粒を含む／底部破片／入口竪坑部覆土中からの出土	瀬戸	中世 (15c中)
図版6-1-1	756 D	土器	土鍋	高 5.8	口唇部は面取りされ、中央が窪んでいる／平底／色調は内外面黒色、胎土の色調は淡茶褐色／内外面ナデ／胎土に茶褐色粒子・雲母・砂粒を含む／口縁部～底部破片／覆土中からの出土	在地系	中世 (15c)
図版6-1-2	756 D	土器	土鍋	厚 0.9	平底／色調は暗茶褐色／胎土に茶褐色粒子・石英・角閃石・雲母・砂粒を含む／底部破片／覆土中からの出土	在地系	中世 (15c)
第14図1 図版6-1-1	757 D	磁器	皿	高 2.7 口 12.2 底 7.3	染付／内面：玉取獅子文、外面：宝珠唐草文／遺存度はほぼ完形品（口縁部を僅かに欠損）／坑底上からの出土	中国製	中世 (15c後半)
第14図1 図版6-1-1	760 D	陶器	片口鉢	高 10.4 口 (29.2) 底 (12.8)	注口あり／口唇部は面取り／平底／色調は明茶褐色／胎土に白色砂粒・小石を多く、茶褐色粒子・石英を含む／体部外面には指頭成形痕が残る、内面はナデ／遺存度15％程	常滑	中世 (15c中)
第14図1 図版6-1-1	762 D	陶器	碗	高 [2.1] 底 (4.6)	高台あり／内面見込みにピン留め／内面底部に白泥、その他は灰釉／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／体部下半～底部破片／覆土中からの出土	中国製	中世 (15c中)
図版7-1-1	8 W	磁器	皿	厚 0.3	染付／口縁は短く外反する／内面：圏線、外面：草花文か／口縁部小破片／覆土中からの出土	中国製	中世 (15c後半)
図版7-1-2	8 W	陶器	盤	高 [2.7]	口唇部は複合口縁状／灰釉／胎土は精錬されている／口縁部～体部上半小破片／覆土中からの出土	中国製	中世 (15c)
第15図3 図版7-1-3	8 W	陶器	碗	高 [1.2] 底 3.0	高台／外面底部を除き灰釉／内面見込みにピン留め／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／体部下半～底部60％遺存／覆土中からの出土	中国製か	中世 (15cか)
図版7-1-4	8 W	陶器	皿	厚 0.4	刷毛目皿／胎土の色調は淡茶褐色／胎土に白色砂粒を含む／体部中位～下半小破片／覆土中からの出土	中国製	中世 (15cか)
第15図5 図版7-1-5	8 W	陶器	皿	高 5.7 口 (24.0) 底 (13.2)	大皿／口縁部は菊型／内面に松・梅が描かれている／高台／胎土の色調は淡黄色／胎土に砂粒・小石を僅かに含む／遺存度は30％	瀬戸	中世 (15c後半)
図版7-1-6	8 W	陶器	皿	厚 0.6	三島手／胎土の色調は暗茶褐色／胎土は精錬されている／底部小破片／覆土中からの出土	朝鮮製	中世 (15c)
図版7-1-7	8 W	陶器	瓶	厚 0.3	外面灰釉／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／体部小破片／暗茶褐色／胎土に金雲母・白色砂粒を含む	中国製	中世 (15c)
図版7-1-8	8 W	土器	皿	高 [2.1]	ロクロ成形／口唇部は面取り／色調は明橙色／胎土に石英・雲母・砂粒を含む／口縁部小破片／覆土中からの出土	在地系	中世 (15c中)
図版7-1-9	8 W	土器	皿	高 [3.0]	ロクロ成形／口唇部外面は面取りされ尖っている／胎土の色調は暗黄褐色／胎土は精錬されている／口縁部～体部小破片／覆土中からの出土	在地系	中世 (15c)
図版7-1-10	8 W	土器	皿	高 [2.8]	ロクロ成形／外面底部に回転糸切り痕／胎土の色調は淡茶褐色／胎土は精錬されている／体部～底部小破片／覆土中からの出土	在地系	中世 (15c中)
図版7-1-11	8 W	土器	皿	厚 0.8	ロクロ成形／色調は黄褐色／胎土に茶褐色粒子・砂粒を含む／体部～底部小破片／覆土中からの出土	在地系	中世 (15c中)
図版7-1-12	8 W	土器	土鍋	厚 0.7	平底／色調は黒茶褐色／胎土に角閃石・砂粒を含む／底部小破片／覆土中からの出土	在地系	不明
図版7-2-1	2 P	土器	皿	厚 0.5	ロクロ成形／色調は明橙色／胎土に砂粒を含む／体部小破片／覆土中からの出土	在地系	中世 (15c)
第17図1 図版7-2-1	4 P	陶器	皿	高 2.2 口 (10.0) 底 5.2	口縁部は外反／碁笥底／内外面に灰釉／胎土の色調は灰白色／胎土は精錬されている／遺存度は60％	瀬戸	中世 (15c中)
第17図2 図版7-2-2	4 P	陶器	皿	高 2.0 口 (9.8) 底 (6.0)	口縁部はやや内湾／碁笥底／内面底部を除き灰釉／胎土の色調は灰白色／胎土は精錬されている／遺存度は60％	瀬戸	中世 (15c中)

第５表　中世以降の土坑・井戸跡・ピット出土陶磁器・土器一覧

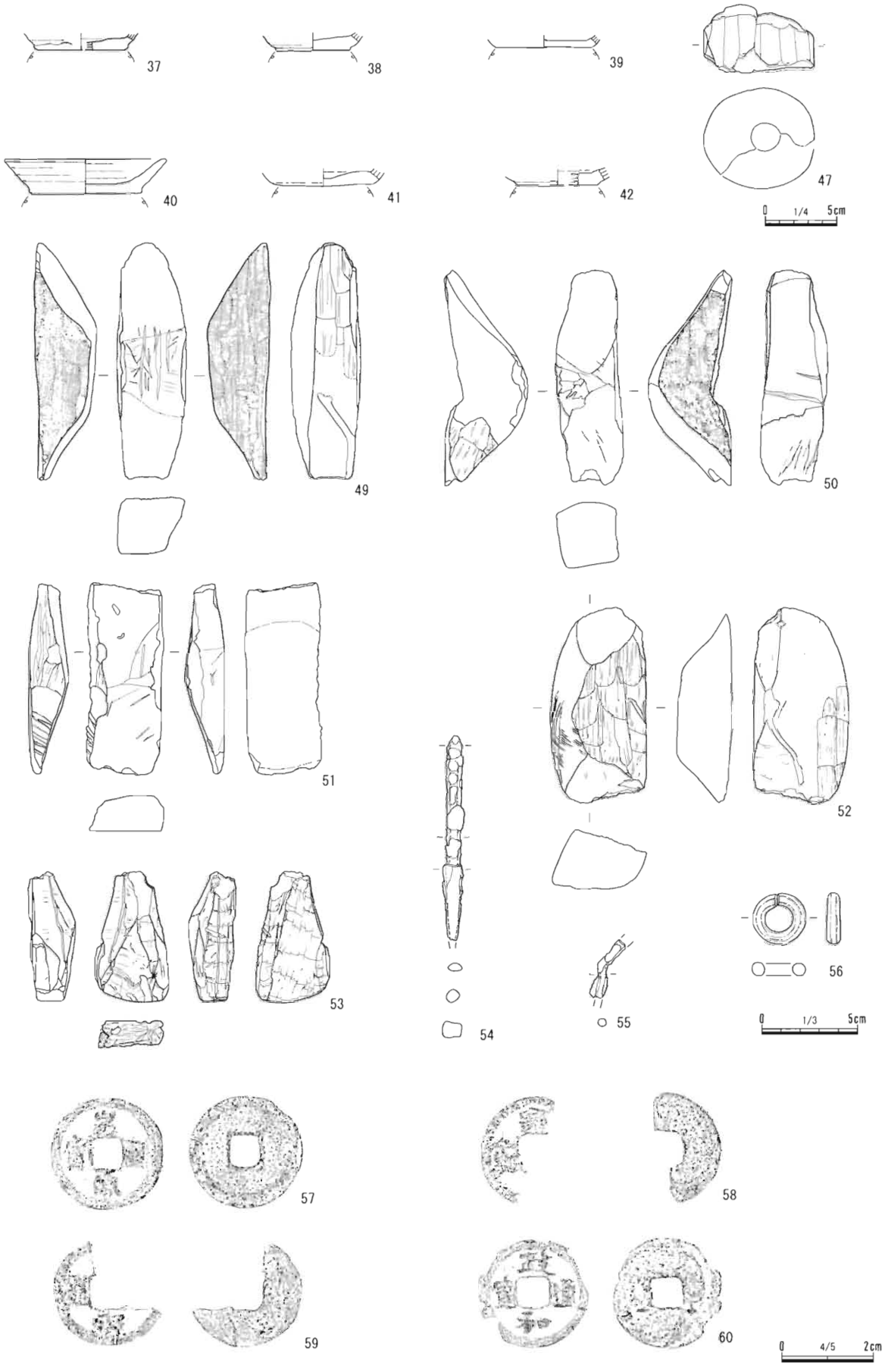


２号ピット出土遺物　　４号ピット出土遺物

第17図　ピット出土遺物（1／4・1／3）



第18図　遺構外出土遺物１（2／3・1／3）



第19図　遺構外出土遺物２（1／4・1／3・4／5）

（７）遺構外出土遺物

ここでは、表土や撹乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、中世以降の遺物に分類する。なお、中世以降の遺物については、今回、遺構外出土遺物として扱ったが、多分に近世前の造成工事に関連する遺物も含まれているものと思われる。

挿図番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第18図1 図版7-3-1	剥片	黒色頁岩	26.3	20.5	7.4	2.4	打面部を折損／背面の剥離面構成は上位方向の剥離面のみ／旧石器時代の可能性あり	遺構外
第18図2 図版7-3-2	剥片	黒曜石	24.3	18.0	5.3	2.2	上端部、右側縁の一部を欠損／背面の剥離面構成は上位、横位方向／左側縁部に縁辺を取り込む縦方向の剥離あり	(D-3)G

（単位：mm．g）

第６表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第18図3 図版7-3-3	深鉢	口縁	厚 1.3	僅かに内湾する	地文はＬの撚糸文を縦位に施文／隆帯２本により曲線文／色調は暗茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅠ式)	遺構外 (D-3)G
第18図4 図版7-3-4	深鉢	胴	厚 1.0	僅かに外反する	地文はＲの撚糸文を縦位に施文／隆帯１本により懸垂文／色調は黒茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅠ式)	763D
第18図5 図版7-3-5	深鉢	胴	厚 1.2	僅かに外反する	沈線により楕円文と懸垂文を施文／区画内はRL単節縄文が充填される／色調は暗茶褐色	石英・角閃石を含む	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅢ式)	763D 入口竪坑部
第18図6 図版7-3-6	深鉢	胴	厚 1.1	僅かに内湾する	地文は縦位の条線文／色調は内面が黒色、外面が明茶褐色	石英・白色砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曽利Ｅ式)	遺構外
第18図7 図版7-3-7	深鉢	胴	厚 0.9	僅かに内湾する	粗製土器と思われる／斜行する粗い条線文が施文される／色調は内面が黄褐色、外面が黒色	石英・砂粒を含む	縄文後期	遺構外
第18図8 図版7-3-8	壷	胴	厚 0.7	胴部下半で丸みをもつ	内面：ハケナデ／外面：ハケ目調整後ヘラ磨き調整／外面赤彩／胎土の色調は淡黄褐色	黄褐色粒子・砂粒を含む	弥生後期～ 古墳前期	752D 入口竪坑部
第18図9 図版7-3-9	壷	胴	厚 0.6	胴部中位で丸みをもつ	内面：ハケナデ／外面：ハケ目調整後ヘラ磨き調整／外面赤彩／胎土の色調は淡茶褐色	黄褐色粒子・砂粒・小石を含む	弥生後期～ 古墳前期	752D 主体部
第18図10 図版7-3-10	甕	口縁	高 [2.7]	口縁部はＳ字状	Ｓ字甕／内面：横ナデ／外面：口縁は横ナデ、以下はハケ目調整／色調は黄白色	石英・雲母・砂粒を含む	古墳前期	752D 主体部
第18図11 図版7-3-11	甕	口縁	厚 0.5	口縁は僅かに外反する	口唇部は刻みなし／内外面：ハケ目調整後口縁部は軽い横ナデ／色調は淡茶褐色	砂粒を含む	古墳前期	750D内 カクラン
第18図12 図版7-3-12	甕	胴	厚 0.6	丸みをもつ	内外面：ハケ目調整／色調は黒褐色	石英・黄褐色粒子を含む	弥生後期～ 古墳前期	752D 主体部
第18図13 図版7-3-13	甕	胴	厚 0.5	丸みをもつ	内外面：ハケ目調整／胎土の色調は淡茶褐色を基調／外面は煤けて黒色	黄褐色粒子を含む	古墳前期	752D 入口竪坑部
第18図14 図版7-3-14	甕	胴～ 脚部	高 [3.0]	「く」字状に屈曲する	台付甕／内外面：ハケ目調整／色調は暗赤褐色を基調	石英・白色砂粒をを含む	弥生後期～ 古墳前期	751D
第18図15 図版7-3-15	甕	底	高 [2.2]	底部は平底	内外面：粗いハケ目調整／色調は暗黄褐色	砂粒を僅かに含む	古墳前期	750D内 カクラン

第７表　遺構外出土土器一覧

１．縄文時代の遺物（第18図１～７、図版７－３－１～７、第６・７表）

［石　　器］（第18図１・２、図版７－３－１・２、第６表）

１・２は剥片で、石材は１が黒色頁岩、２が黒曜石である。

［土　　器］（第18図３～７、図版７－３－３～７、第７表）

３～６は中期後葉の加曽利Ｅ式土器である。３・４は加曽利ＥⅠ式、５は加曽利ＥⅢ式であろう。７は後期の粗製土器と思われる。

２．弥生時代後期～古墳時代前期の土器（第18図８～15、図版７－３－８～15、第７表）

８・９は壷形土器、10～15は甕形土器である。

３．中世以降の遺物（第18図23～27、第19図37～42・47・49～60、図版７－３－16～26、図版８－27～60、第８～10表）

［陶磁器・土器］（第18図23～27、第19図37～42、図版７－３－16～26、図版８－27～46、第８表）

16～22は磁器、23～36は陶器、37～46は土器である。時期的には中世（12世紀中）～近世（18世紀後半）と幅広いが、中でも中世（15世紀中）の遺物が安定した出土状況を示していると言える。

［土 製 品］（第19図47、図版８－47・48）

47・48は羽口と思われる。

47は破片で、円筒形を呈し、現存長4.8㎝・径7.6㎝・中心孔径2.0㎝・重さ140.5ｇ。表面調整は軽いナデが施される。色調は淡黄褐色を呈し、胎土には砂粒・茶褐色粒子を含む。（Ｃ－３）グリッドからの出土。

48は先端部の小破片で、現存長4.6㎝・幅4.0㎝・厚さ2.8㎝・重さ32.9ｇ。羽口はかなりの高熱を受け、金属酸化付着部分が見られ、内部まで暗褐色に変色している。基部の色調は明橙色を基調とし、胎土には白色砂粒を多く含む。

［石 製 品］（第19図49～53、図版８－49～53）

49～53はいずれも砥石である。

49は長さ12.4㎝・幅3.6㎝・厚さ3.1㎝・重さ150.0ｇ。下端部を一部欠損。平面は長方形である。側面は台形である。使用面は正面、裏面である。正面にはＶ字状の刃物痕、細かな線状擦痕が残る。両側面と裏面の一部には成形時の工具痕が認められる。石材は凝灰岩である。

50は長さ11.3㎝・幅3.5㎝・厚さ3.4㎝・重さ156.0ｇ。下端部を一部欠損。平面は長方形である。側面は不整の三角形である。使用面は正面、左側面、裏面である。使用面に細かな線状擦痕が残る。左側面の一部、右側面に成形時の工具痕が認められる。石材は凝灰岩である。

51は長さ10.2㎝・幅3.9㎝・厚さ2.1㎝・重さ99.0ｇ。上部を一部欠損する。平面は長方形である。側面は下半部が窄まる。使用面は正面、左側面の一部、右側面、裏面である。使用面に線状擦痕が残る。左側面の一部に成形時の工具痕が認められる。石材は凝灰岩である。

52は長さ10.3㎝・幅5.0㎝・厚さ3.1㎝・重さ165.5ｇ。下端部を一部欠損。平面は不整長方形である。側面は台形である。使用面は正面、裏面である。使用面に線状擦痕が残る。正面・裏面の一部に成形時の工具痕が認められる。石材は凝灰岩である。

53は長さ6.9㎝・幅3.9㎝・厚さ2.4㎝・重さ77.0ｇ。上端部を欠損。使用面は正面、左側面、底面

図版番号	種別	器種	法量（cm）	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
図版7-3-16	磁器	鉢	高 [1.5]	青磁／高台／胎土の色調は灰色／胎土は精錬されている／底部破片	中国製	755D内撹乱	中世（14c前半）
図版7-3-17	磁器	瓶	厚 1.1	青磁／梅瓶／外面に灰釉／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／被熱／胴部破片	中国製	遺構外 (D-3)G	中世（12c中）
図版7-3-18	磁器	碗	厚 0.5	染付／外面：草花文／体部下半小破片	肥前系	遺構外	近世（18c前半）
図版7-3-19	磁器	碗	高 [4.5]	染付／外面：不明文様／体部上半～下半破片	肥前系	756D内撹乱	近世（17c中）
図版7-3-20	磁器	皿	高 [2.3]	染付／高台／内面：草花文／外面：圏線／底部破片	肥前系	遺構外	近世（17c中）
図版7-3-21	磁器	碗	高 [1.3]	染付／高台／内面：菊花文、網目文、外面：網目文、見込みに崩し渦福／底部小破片	肥前系	遺構外	近世（18c前半）
図版7-3-22	磁器	瓶	高 [5.0]	染付／僅かに外傾する形状／外面：圏線、不明文様／体部破片	肥前系	基本土層2Tr	近世（18c前半）
第18図23 図版7-3-23	陶器	碗	高 6.1 口 10.2 底 4.7	口縁部は僅かに外反／削り出し高台／流し掛けによる白泥／胎土の色調は暗茶褐色／胎土に白色砂粒を僅かに含む／内面に黒色の付着物あり、破損後に付着、漆か／内面底部に遺存度は60％／被熱	中国製	754D内撹乱	中世（14c後半）
第18図24 図版7-3-24	陶器	皿	高 2.4 口 (11.1) 底 (6.5)	志野釉／削り高台／内面見込みにピン留め／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／遺存度は30％	瀬戸	基本土層1Tr (D-3)G	中世（16c中）
第18図25 図版7-3-25	陶器	鉢	高 [2.4] 底 (2.1)	削り高台／灰釉／内面見込みにピン留め／胎土の色調は黄白色／胎土に砂粒を僅かに含む／被熱／体部下半～底部50％遺存	瀬戸	遺構外	中世（16c中）
第18図26 図版7-3-26	陶器	皿	高 2.5 口 (5.2) 底 (5.2)	削り高台／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／遺存度20％遺存	瀬戸・美濃	基本土層1Tr (D-3)G	中世（15c中）
第18図27 図版7-3-27	陶器	碗	高 [1.6] 底 2.8	高台／灰釉／胎土の色調は灰白色／胎土は精錬されている／体部下半～底部70％遺存	中国製	遺構外	中世（15c）
図版8-28	陶器	皿	高 [2.7]	底部を除き灰釉／胎土の色調は淡灰色／胎土は精錬されている／口縁部～体部小破片	瀬戸	遺構外 (C-3)G	中世（15c中）
図版8-29	陶器	皿	厚 0.6	内外面に灰釉／胎土の色調は灰白色／胎土は精錬されている／口縁部～体部小破片	瀬戸	遺構外 (C-4)G	中世（15c中）
図版8-30	陶器	皿	高 [2.7]	高台一部あり／底部を除き灰釉／胎土の色調は灰白色／胎土は精錬されている／口縁部～底部破片	瀬戸	遺構外	中世（15c中）
図版8-31	陶器	皿	高 [2.2]	口縁部内外面に灰釉／胎土の色調は黄白色／胎土に砂粒を僅かに含む／口縁部～体部小破片	瀬戸	遺構外 (C-3)G	中世（15c中）
図版8-32	陶器	鉢	高 [2.0]	内外面に灰釉／胎土の色調は黄白色／胎土に砂粒を僅かに含む／口縁部～体部小破片	瀬戸	遺構外 (C-2)G	中世（15c中）
図版8-33	陶器	碗	高 [2.0]	げんこつ碗か／内面：灰釉／外面：鉄釉／胎土の色調は灰白色／胎土は精錬されている／体部～底部小破片	瀬戸	遺構外 (C-3)G	近世（18c後半）
図版8-34	陶器	擂鉢	高 [5.5]	櫛目14本一単位／内外面に鉄釉／胎土の色調は淡黄褐色／体部は精錬されている／体部下半～底部破片	瀬戸	遺構外 (D-2)G	中世（15c後半）
図版8-35	陶器	擂鉢	高 [4.0]	櫛目13本一単位か／内外面に鉄釉／胎土の色調は淡黄褐色／体部は精錬されている／体部下半～底部破片／内面は櫛目が消えるほどよく使われている	瀬戸	遺構外 (C-4)G	中世（15c後半）
図版8-36	陶器	擂鉢	厚 1.1	櫛目14本確認／内外面に鉄釉／胎土の色調は淡黄褐色／体部は精錬されている／体部下半破片	瀬戸	遺構外 (D-3)G	中世（15c後半）
第19図37 図版8-37	土器	皿	高 [1.2] 底 (6.6)	ロクロ成形／外面底部に回転糸切り痕／色調は淡茶褐色／胎土に角閃石・砂粒を含む／内面に黒い付着物あり、漆か／体部下半～底部50%遺存	在地系	遺構外 (D-3)G	中世（15c）
第19図38 図版8-38	土器	皿	高 [1.2] 底 5.3	ロクロ成形／外面底部に回転糸切り痕／色調は淡茶褐色／胎土に茶褐色粒子・砂粒・小石を含む／体部下半～底部50%遺存	在地系	遺構外 (D-3)G	中世（15c中）
第19図39 図版8-39	土器	皿	高 [0.9] 底 (6.8)	ロクロ成形／外面底部に回転糸切り痕／色調は暗茶褐色／胎土に砂粒を含む／内面底部に煤付着／灯明具として使用されたと思われる／底部破片	在地系	遺構外	中世（15c中）
第19図40 図版8-40	土器	皿	高 2.4 口 (11.4) 底 7.9	かわらけ／器形は全体に外傾し、口縁部はシャープな作り／平底／外面底部に回転糸切り痕／色調は淡橙色／胎土に茶褐色粒子・雲母・砂粒を含む／遺存度70%	在地系	遺構外 (D-3)G	中世（15c中）
第19図41 図版8-41	土器	皿	高 [1.4] 底 6.8	ロクロ成形／内面底部は窪む／外面底部に回転糸切り痕／色調は暗茶褐色／胎土に白色針状物質・砂粒を含む／内面全体が黒く煤けている／底部のみ遺存	在地系	755D内撹乱	中世（15c中）

第８表　遺構外出土陶磁器・土器一覧（１）

図版番号	種別	器種	法量(cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
第19図41 図版8-42	土器	皿	高 [1.2] 底 [5.7]	ロクロ成形／外面底部に回転糸切り痕／色調は明橙色／胎土に茶褐色粒子・砂粒を含む／底部のみ30％遺存す	在地系	750D内 撹乱	中世 (15c中)
図版8-43	土器	焙烙	高 [5.8]	口唇部は面取りされ、中央がやや窪んでいる／平底／色調は内外面黒色／内面に黒い付着物あり、外面全体に煤付着／内外面ナデ／胎土に雲母・砂粒を含む／口縁部～底部破片	在地系	遺構外 (C-3)G	中世 (16c後半)
図版8-44	土器	焙烙	厚 1.4	口唇部は面取りされ、平坦／胎土の色調は淡茶褐色／外面は黒色／内外面ナデ／胎土に金雲母をやや多く含み、石英・砂粒・小石を含む／口縁部～体部小破片	在地系	754D内 撹乱	中世 (16c後半)
図版8-45	土器	焙烙	厚 1.0	口唇部は面取りされ、平坦／色調は黒色／胎土の色調は淡茶褐色／内外面ナデ／胎土に茶褐色粒子・砂粒を含む／口縁部～体部小破片	在地系	755D内 撹乱	中世 (16c後半)
図版8-46	土器	焙烙	厚0.5	平底／色調は灰褐色／胎土に砂粒を僅かに含む／底部破片	在地系	遺構外 (C-3)G	中世

第８表　遺構外出土陶磁器・土器一覧（２）

挿図番号	銭貨名	外径	方孔一辺	厚さ	重量	初鋳年	遺存状態	出土位置	備　考
第19図57 図版8-57	皇宋通寶	2.6	0.6	0.2	2.8	1039年	完形品	(C-3)G	遺存状態やや不良
第19図58 図版8-58	皇宋通寶	2.5	0.6	0.2	1.2	1039年	50%	(C-3)G	遺存状態やや不良
第19図59 図版8-59	皇宋通寶	2.6	0.6	0.2	1.2	1039年	70%	(C-4)G	遺存状態やや不良
第19図60 図版8-60	政和通寶	2.5	0.6	0.1	1.3	1111年	90%	遺構外	遺存状態不良

（単位：mm．g）

第９表　銭貨一覧

	750 D	754 D	764D	(B-3)G	(C-3)G	(C-4)G	(D-2)G	(D-3)G	総合計
出土数（個）	19	4	2	4	10	10	1	3	53
出土重量(g)	205.0	45.0	100.0	30.4	111.5	224.0	22.2	177.1	915.2

第10表　鉄滓の数量

である。また、右側縁上部に曲線状に抉れた使用面が認められる。使用面に線状擦痕が残り、正面、両側面にＶ字状の刃物痕が認められる。石材は滑石である。

［金属製品］（第19図54～56、図版８－54～56）

54・55は鉄製品で、56は銅製品である。

54は鉈か、55は釘である。54は現存長10.9cm・幅1.0cm・厚さ0.8cm・重さ19.4ｇ。先端はやや尖っており、茎部との境は段をもっている。55は現存長3.4cm・幅0.8cm・厚さ0.4cm・重さ1.8ｇ。両端部は欠損している。

56は銅環である。最大径2.8cm・最大厚0.7cm・重さ15.5ｇ。完形品。

［銭　　貨］（第19図57～60、図版８－57～60、第９表）

57～59は皇宋通寶、60は政和通寶である。いずれも遺構外の出土であるが、調査当初に遺構確認面と考えていたほぼ上面からの出土であるため、近世前の造成工事に関連する遺物と思われる。

［鉄　　滓］（第10表）

鉄滓は遺構出土と遺構外出土がある。第10表は本地点出土の鉄滓の数量をまとめた表である。

第３章　中野遺跡第102地点の調査

第１節　遺跡の概要

中野遺跡は、志木市柏町１丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2㎞に位置している。本遺跡は、北側に柳瀬川を臨む台地上に位置し、標高は北端で約９ｍ、南端で約11ｍを測り、台地縁辺は緩やかに北側の低地に移行している。遺跡の西側には南北方向に谷が入り込んでおり、その谷の西側には城山遺跡が広がっている。遺跡の現況は、宅地化が急激に進んでおり、現在では畑地はほとんど見られなくなっている。

本遺跡の最初の発掘調査は、昭和59（1984）年に実施された第２地点で、これまでに108地点の調査（平成31年１月31日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代早～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡であることが判明している。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

平成29年５月、仲介業者であるJAあさか野から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。志木市柏町１丁目1489番１・３～６号（総面積895.00㎡）地内に道路設置及び分譲住宅建設とした内容の取り扱いである。

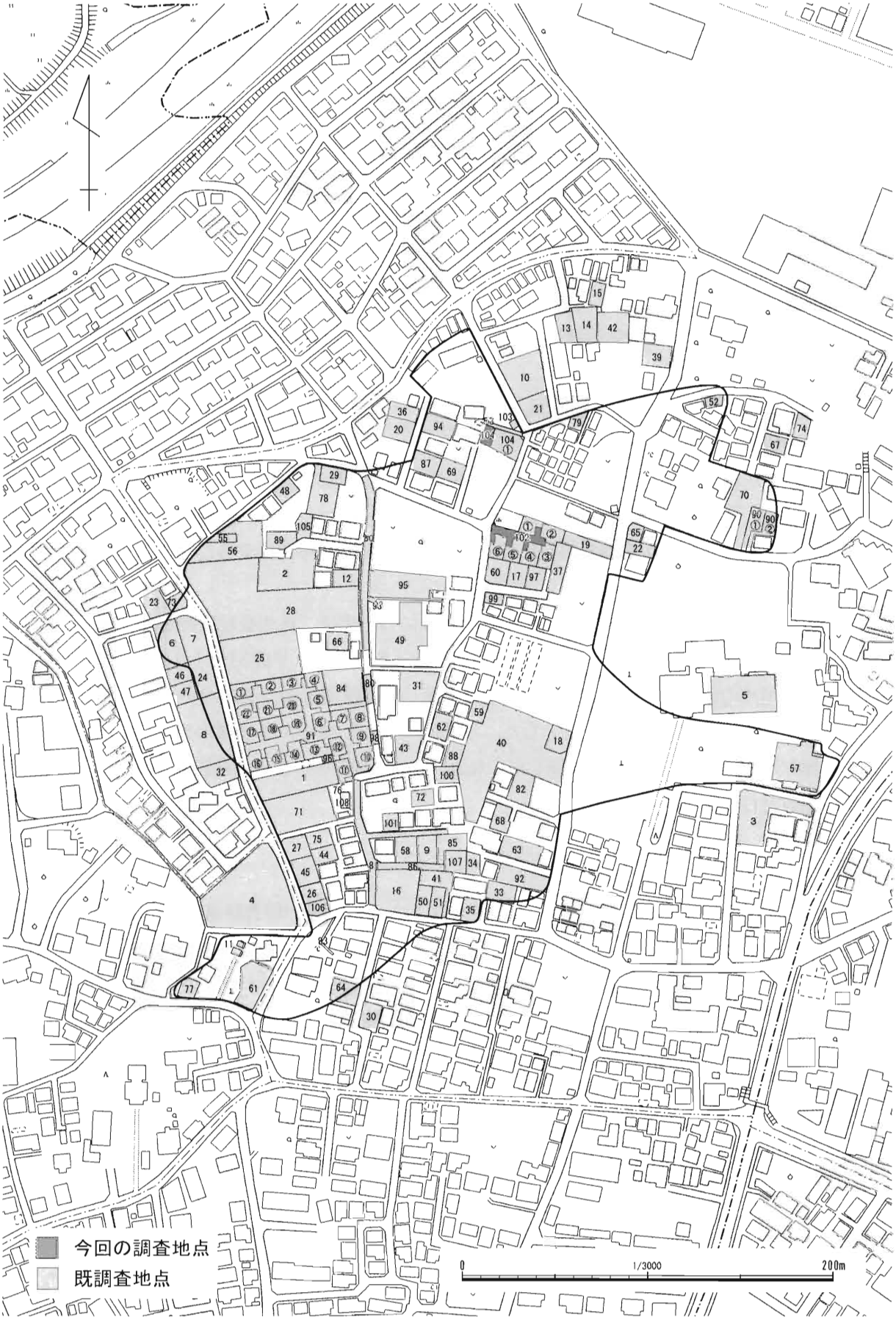
これに対し、教育委員会は当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228－09－002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．開発計画の策定を行った上で、埋蔵文化財確認調査依頼書を提出された後に埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず土地の現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。なお、道路設置部分については「埼玉県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準」に従い、発掘調査の対象となること。

５月９日、教育委員会は土木工事主体者である個人（以下、工事主体者）より確認調査依頼書を受理し、中野遺跡第102地点（総面積895.00㎡）とし、５月29～31日で確認調査を実施した。その結果、多数の遺構を検出した。確認調査の詳細については、第２節（３）を参照されたい。教育委員会はこの結果をただちに仲介業者であるJAあさか野に報告し、保存処置について検討を依頼した。

６月９日、工事主体者とJAあさか野と教育委員会の３者にて確認調査の状況説明と埋蔵文化財の保存方法の検討、発掘調査に関する手続きの流れについての事前打合せを行った。同日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、志木市埋蔵文化財保存事業申請書が工事主体者から提出され



第20図　中野遺跡の調査地点（1／3,000）

た。その後、工事計画が確定し、その内容は道路新設工事を伴う６棟の分譲住宅建設というものであった。再度、３者にて事前打合せを行い、分譲住宅６棟部分においては十分な保護層を確保できるため、盛土保存とし、道路新設部分および雨水浸透トレンチ部分については発掘調査を実施することに決定した（発掘調査面積：180.82㎡）。

９月15日、教育委員会は工事主体者とJAあさか野と発掘調査に向けた事前協議および発掘調査実施前の現地打ち合わせを実施した。９月25日、志木市は埋蔵文化財保存事業に係る協議書を工事主体者と取り交わし、10月２日、埋蔵文化財保存事業に係る協議書をもとに工事主体者と委託契約を締結した。

９月20日、教育委員会は埋蔵文化財発掘届及び埋蔵文化財発掘調査の通知を埼玉県教育委員会に提出した。これにより、教育委員会を調査主体とし、10月２日から発掘調査を実施した。

（２）住宅建設部分の取り扱いについて

今回発掘調査を実施しなかった住宅建設部分の取り扱いについては、１号棟では、個人住宅建設を行いたい旨の照会があり、個人から埋蔵文化財発掘届および設計書が提出されたため、保存措置についての協議を行った。その結果、地盤改良工事（柱状改良）を施工する計画であるため、保護層30㎝以上を確保できないことから、中野遺跡第102①地点として発掘調査を実施することとした（発掘調査期間：平成30年12月７日～平成31年１月11日）。

中野遺跡第102①地点以外の５棟分の分譲住宅建設については、株式会社康和から再度設計図を提出してもらい、保存措置についての協議を行うこととなった。現在（平成31年1月31日）、３号棟（中野遺跡第102地点の南東隅）については、協議の結果、保護層30㎝以上確保できることが可能であったため、盛土保存として取り扱うこととした。平成30年11月28日に３号棟の工事立会を実施し、正しく盛土保存が行われていたことを確認した。なお、この５棟分の分譲住宅建設については、中野遺跡第102②地点とした。

（３）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第11表の発掘調査工程表に示した。

10月２日　午前中、敷地内に雑草が生い茂っていたため、重機（バックホー）による除草作業を行う。午後から重機による表土剥ぎ作業を開始する。残土については、調査を実施しない宅地部分に置くこととした。

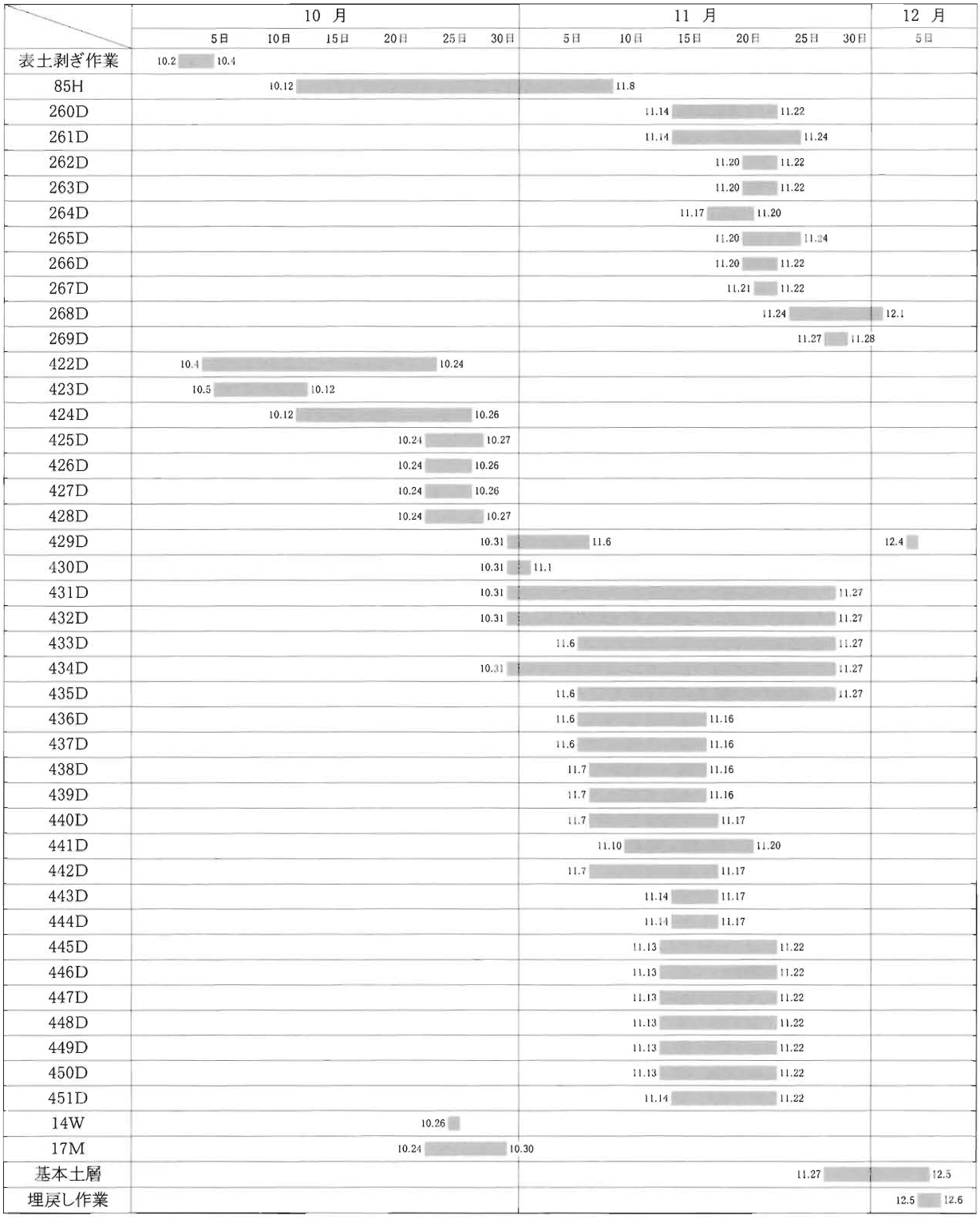
３日　表土剥ぎ作業２日目。残土の整備を行う。

４日　表土剥ぎ作業３日目。表土剥ぎ作業に併行して、人員導入による発掘調査を開始する。まず、器材の搬入と調査準備を行い、その後調査区整備と遺構確認作業、遺構検出状況の写真撮影を行った。午後からは遺構精査を開始した。中世以降の土坑（422Ｄ）の精査を開始する。また、調査区東側の段切状遺構については、調査区中央の東西方向に土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。本日で表土剥ぎ作業を終了する。

５日　基準点測量を行う。中世以降の土坑（423Ｄ）の精査を開始する。423Ｄは精査を進める過程で、地下式坑と判明した。

10月上旬　　423Dの精査を終了し、中世以降の土坑（424D）と古墳時代後期の住居跡（85H）の精査を開始する。422Dでは、西側壁際に工具痕が検出されたため、工具痕を写真・平面図に記録した。

10月中旬　　424D、85Hの精査を行う。85Hでは遺物出土状況の写真撮影を行った。この時期は台風など雨天により、調査ができない日が多かった。



第11表　中野遺跡第102地点の発掘調査工程表

10月下旬　422Dの精査を終了する。中世以降の土坑（425～428 D）、溝跡（17M）、井戸跡（14W）の精査を開始し、終了する。85Hについては、完掘写真撮影を行い、平面図を作成後、カマドの精査を開始する。中世以降の土坑（429～432・434D）の精査を開始する。

11月上旬　85Hのカマド精査を終了し、貼床を精査し、85Hの調査を終える。429Dについては、地下式坑と判明し、調査区内に主体部が残っていたため、一度精査を中断した。430Dの精査を終了する。中世以降の土坑（433・435～442D）の精査を開始する。地形面を記録するため、調査区西半部のコンター図を作成する。

11月中旬　436～442Dの精査を終了する。中世以降の土坑（260～268・443～451D）の精査を開始し、終了する。268Dでは検出時点で炭化材、人骨片が確認された。段切状遺構の地形面を記録するため、調査区東半部のコンター図を作成する。

11月下旬　431～435Dの精査を終了する。268Dは「T字形」の火葬土坑と判明した。主体部から炭化材と人骨片が出土したため、出土状況の写真撮影、微細図の作成、サンプリング、掘り下げを繰り返し行った。269Dの精査を開始し、写真、断面図、平面図で記録し精査を終了した。覆土の様子から縄文時代の土坑と考えられる。基本土層の調査を開始する。調査区東側（I-I'、G-G'）と西側（B-B'、H-H'）に２ｍ×２ｍの試掘坑を１カ所ずつ設定し、掘削を行った。掘削後、土層の観察・分層作業を行い、基本土層の写真撮影、断面図で記録した。

12月１日　268Dでは、炭化材、人骨片の取り上げを行い、横木、鉄製品の出土状況の写真撮影を行った。完掘後、完掘状況の写真撮影、平面図の作成を行い、精査を終了する。

４日　429Dの地下式坑主体部の精査を行う。完掘後、完掘状況の写真撮影、平面図の作成、エレベーション図の作成を行い、精査を終了する。これにより、すべての遺構精査を完了する。

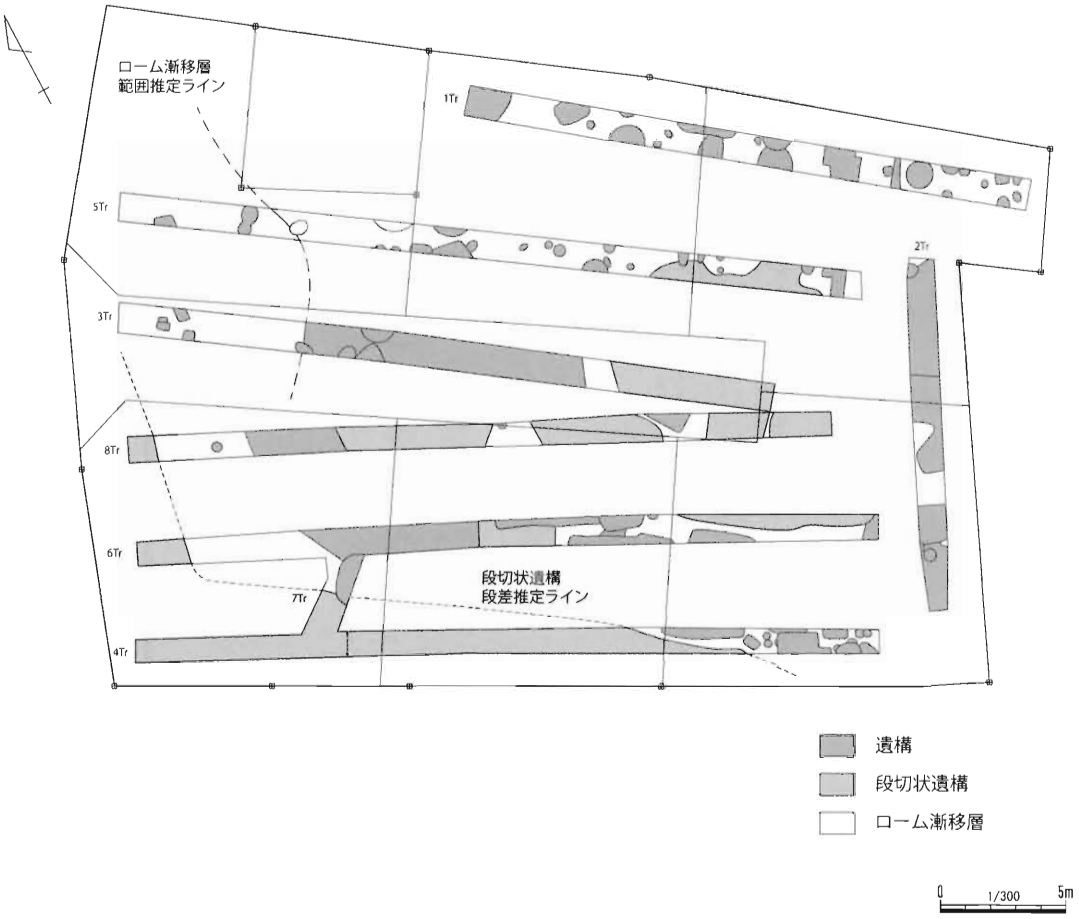
５日　429Dの壁面を利用し、ローム層の調査を行う（E-E'）。また、自然地形面の確認のため、東西方向にトレンチ状に掘削を行い、ローム層の調査を行った（D-D'、F-F'）。掘削後、土層の観察・分層作業を行い、基本土層の写真撮影、断面図で記録した。E-E'では、最下層で武蔵野礫層を確認できた。

埋め戻し作業・器材の片付け作業を開始する。

６日　埋め戻し作業を終了する。

（４）確認調査の概要

埋蔵文化財確認調査は、平成29年５月29日～31日の３日間で実施した。第21図に示すように調査区内にトレンチを８本（１～８Ｔｒ）設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の柱穴１本、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡１軒、古墳時代の住居跡３軒、平安時代の住居跡１軒、中世以降の段切状遺構１面・土坑32基・柱穴多数を確認した。特に、段切状遺構については、本地点の南西方向の第49地点（東京電力変電所）、第95地点においても調査されているが、明らかにそれらとは同平場面につながらないと考えられる。このことから、中野遺跡内において確認される段切状遺構については、北側斜面地の大部分が平場状に造成されており、それらが複



第21図　確認調査時の遺構分布（1／200）

数個所に点在し、それぞれが同時期に何らかの目的をもって共存しているものと推測される。

また、今回は確認調査において出土した遺物については、ここでトレンチ毎に掲載することにする。なお、5・7号トレンチからは出土遺物はなかった。

○１号トレンチ（第22図１～３、図版17－１－１～３、第12表）

本トレンチからは、縄文時代・古墳時代後期・平安時代の遺物が出土したが、小破片のため、図示できた遺物は、１の縄文時代早期（条痕文系）の土器１点、２の縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式）の土器１点、３の平安時代の土製品（土錘）１点である。

３の平安時代の土製品の土錘は、円筒形の形状のもので、長さ3.4㎝・最大径1.2㎝・穿孔径0.5㎝・厚さ0.3㎝・重さ3.5ｇである。表面調整は摩耗しているため、不鮮明であるが、縦方向に細長い面をもつことから、ヘラ磨き調整が施されていると思われる。色調は暗黄褐色で、粘土中には僅かに砂粒が含まれている。

○２号トレンチ（第22図４、図版17－１－４、第12表）

本トレンチからは、縄文時代・古墳時代後期・平安時代の土器が出土したが、小破片のため、図示できる遺物は、４の縄文時代後期前葉（堀之内１式か）の土器１点である。

○３号トレンチ

本トレンチからは、縄文時代・古墳時代後期の土器、中世以降の陶器・土器が出土したが、小破片の

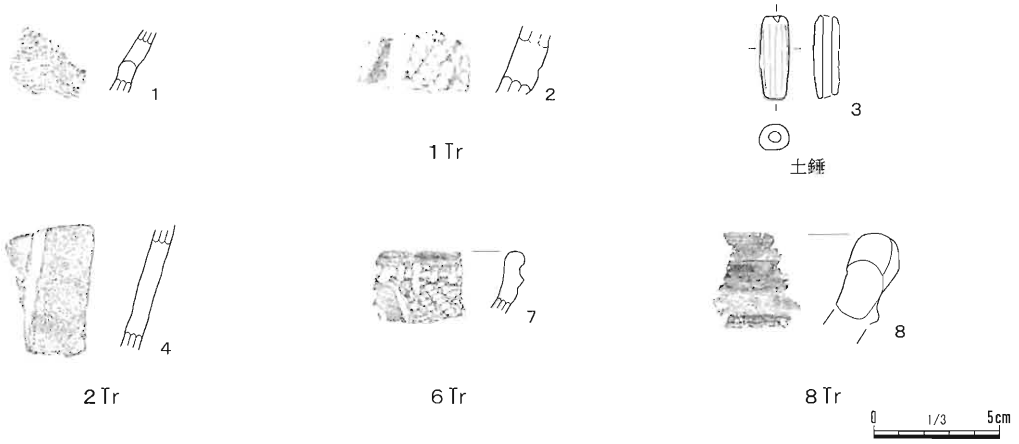
ため、図示できる遺物はなかった。

○４号トレンチ（図版 17－１－５・６、第13表）

本トレンチからは、縄文時代・古墳時代後期の土器、中世以降の陶器が出土したが、小破片のため、図示できる遺物は、５・６の中世以降の陶器２点である。

○６号トレンチ（第22図７、図版 17－１－７、第12表）

本トレンチからは、縄文時代の土器、古墳時代後期の土器が出土したが、小破片のため、図示できる遺物は、縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ～ＥⅣ式）の土器１点である。



第22図　確認調査出土遺物（１／３）

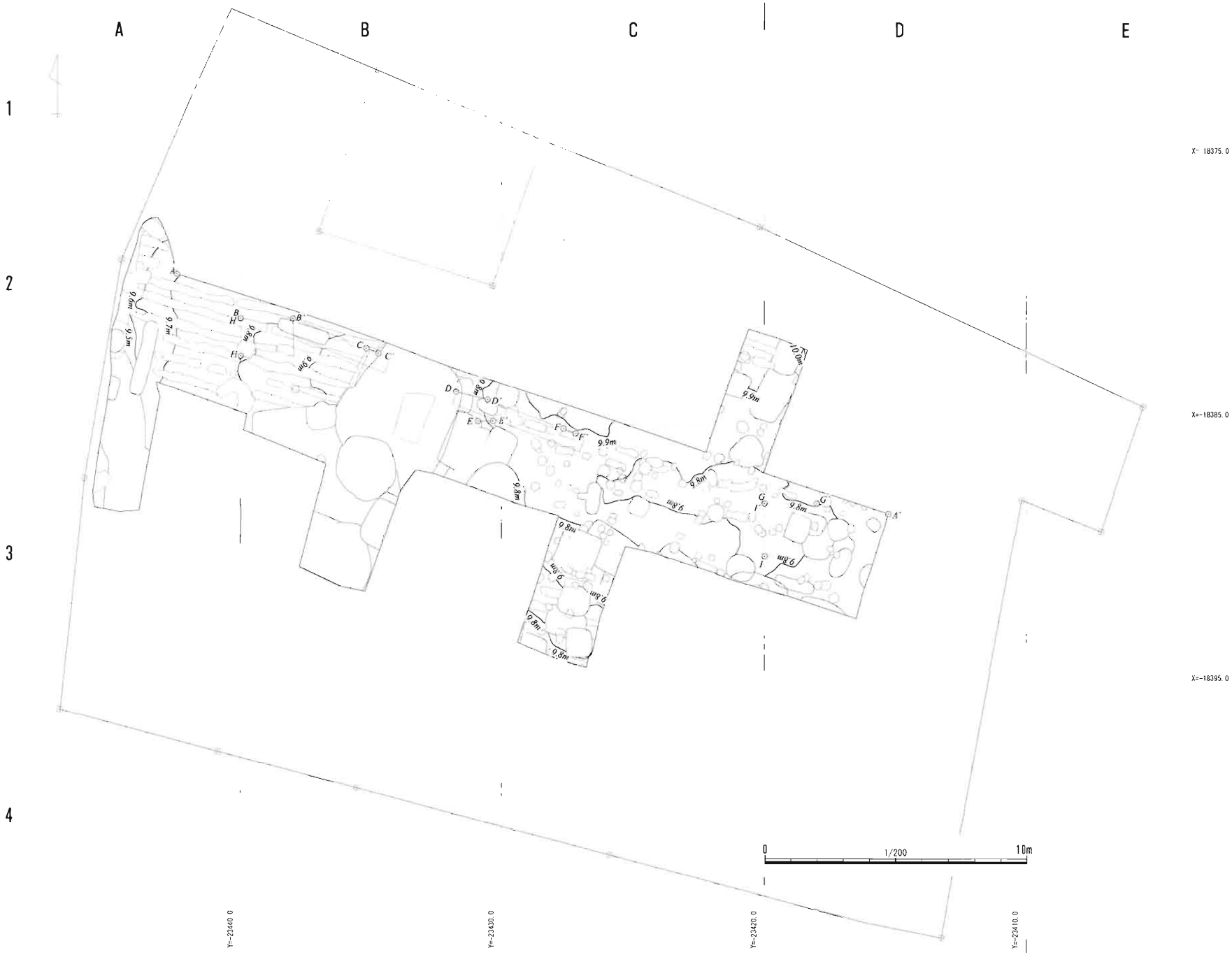
挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様　・　特　徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第22図１ 図版 17-1-1	深鉢	胴部	厚 0.6	僅かにくびれをもつ	貝殻条痕文を横位に施文／色調は明茶褐色、内面は暗茶褐色／内面縦方向に磨き	繊維・砂粒を僅かに含む	早期後葉 （条痕文系）	1Tr
第22図２ 図版 17-1-2	深鉢	胴部	厚 0.7	僅かに外傾する	磨消懸垂文／地文はLRの単節斜縄文を縦位に施文／色調は淡茶褐色	茶褐色粒子・砂粒を含む	中期後葉 （加曽利ＥⅢ式）	1Tr
第22図４ 図版 17-1-4	深鉢	胴部	厚 0.7	僅かに外傾する	沈線文を縦位に施文／色調は外面は黒色、内面は暗茶褐色	茶褐色粒子・石英・砂粒を含む	後期前葉 （堀之内１式か）	2Tr
第22図７ 図版 17-1-7	深鉢	口	厚 0.7	口縁部は内湾する	外面口唇部直下に刺突列がまわる／弧線文／地文はLRの単節斜縄文を縦位に施文／色調は暗茶褐色	角閃石・白色砂粒を含む	中期後葉（加曽利ＥⅢ～ＥⅣ式）	6Tr
第22図８ 図版 17-1-8	深鉢	口	厚 1.8	口縁部は肥厚する	口縁部直下に隆帯を横位に施文／色調は暗茶褐色	砂粒をやや多く含む	中期後葉（加曽利ＥⅢ式か）	8Tr

第12表　確認調査出土縄文土器一覧

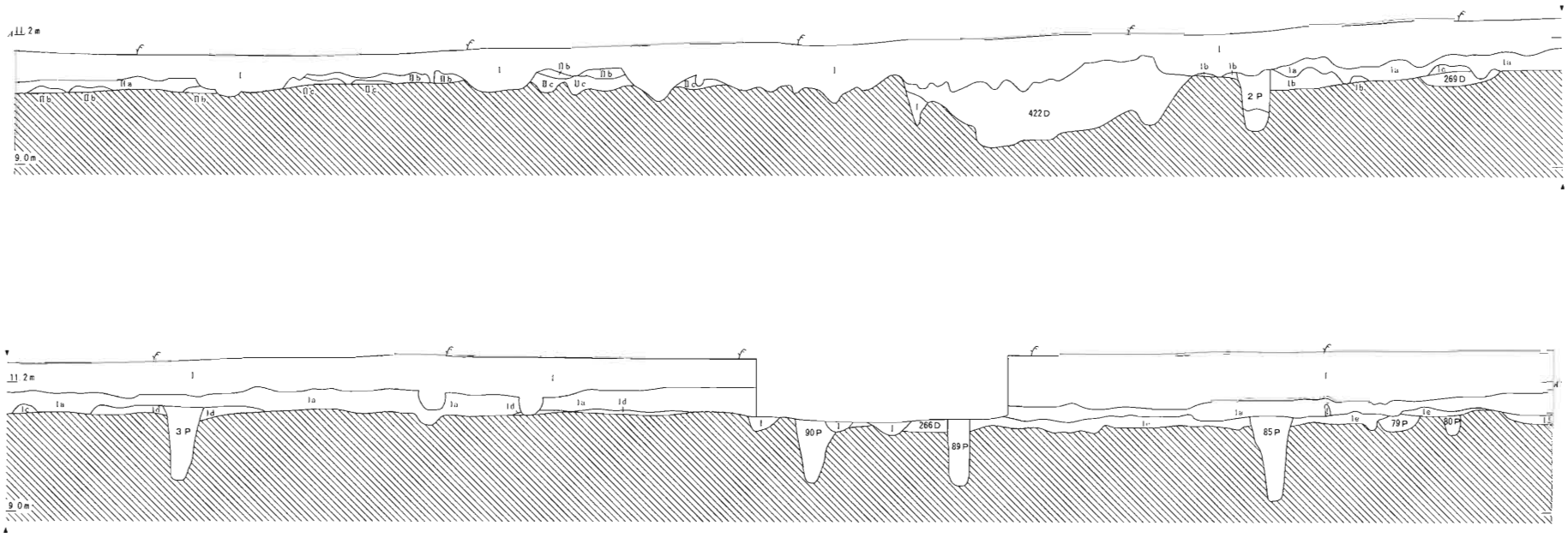
図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
図版 17-1-5	陶器	皿	高 2.6	内面及び口縁外面は灰釉／高台／胎土の色調は黄白色／高台／胎土に石英・砂粒を含む	瀬戸	4Tr	中世 （16c）
図版 17-1-6	陶器	皿	厚 0.5	内外面に灰釉／平底／胎土の色調は暗灰色／胎土は精錬されている	中国製か	4Tr	中世 （15c）

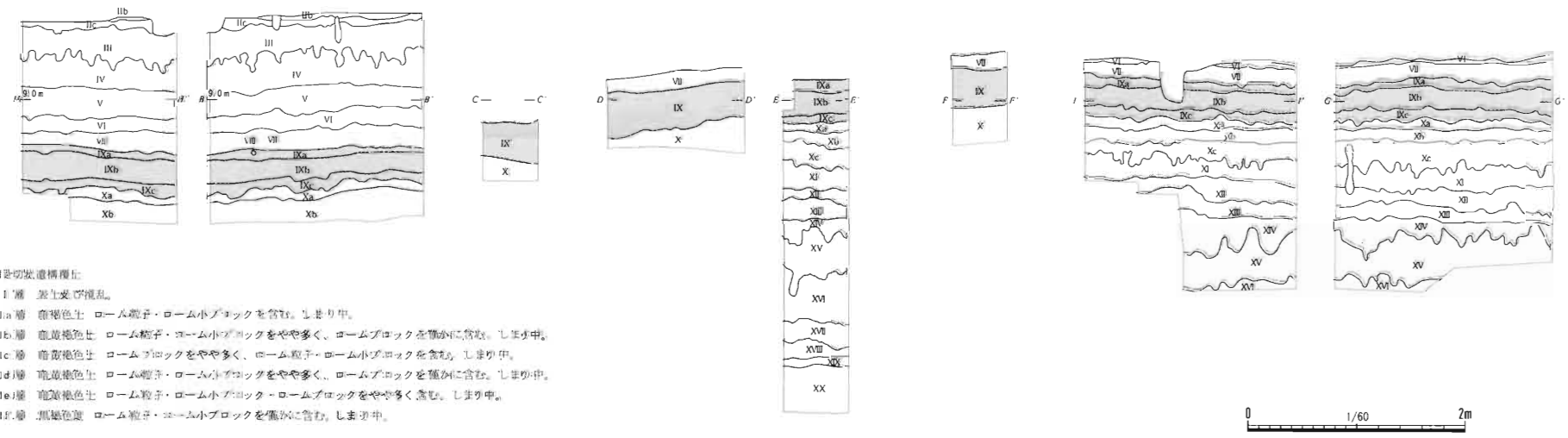
第13表　確認調査出土陶器一覧

第23図　遺構分布図（1／200）



第24図　段切状遺構土層断面・基本土層設定位置（1／200）





I段切状遺構覆土

I層　表土及び攪乱。

Ia層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

Ib層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを微かに含む。しまり中。

Ic層　暗黄褐色土　ロームブロックをやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

Id層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを微かに含む。しまり中。

Ie層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。

If層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり中。

基本層序

第IIb層　褐色土（10YR4/4）　赤色スコリア（径1mm弱）、白色粒子を含む。空隙はあり。

第IIc層　黄褐色土（10YR5/6）　赤色スコリア（径1mm弱）、白色粒子を含む。空隙はあり。黒色土とローム層との漸移層。層厚は3～12cmである。

第III層　黄褐色土（10YR6/6）　赤色スコリア（径1mm程度）を含む、白色粒子を多量含む。空隙はあり。いわゆるソフトローム層である。層厚は18～42cmである。

第IV層　明黄褐色土（10YR6/8）　赤色スコリア（径1～3mm程度）を多く含む、黒色スコリア（径1～2mm程度）をやや多く含む。白色粒子を含む。空隙はやや少ない。いわゆるハードローム層である。第III層と第IV層の境が波状を呈しているため、層厚は一定しておらず、15～38cmである。

第V層　黄褐色土（2.5Y5/6）　赤色スコリア（径1～2mm程度）を含む。黒色スコリア（径1～5mm程度）、白色粒子を多く含む。空隙はやや少ない。立川ローム層第I黒色帯である。層厚は18～32cmである。

第VI層　明黄褐色土（2.5Y6/8）　赤色スコリア（径1mm程度）、白色粒子（径1mm程度）を含む。黒色スコリア（径1～2mm程度）を多く含む。空隙はやや少ない。削ると、ややガリガリとした感触がある。いわゆるAT包含層であり、層厚は12～22cmである。

第VII層　黄褐色土（2.5Y5/6）　赤色スコリア（径1mm程度）を含む。黒色スコリア（径1～3mm程度）をやや多く含む。空隙は少ない。立川ローム層第II黒色帯上層部であり、層厚は11～22cmである。

第VIII層　明黄褐色土（10YR7/6）　第IX層の土層内にブロック状に存在する。非常に軟質であるため、検出できない場合も多い。

第IXa層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　赤色スコリア（径1mm程度）、黒色スコリア（径1～2mm程度）を含む、オレンジ色スコリア（径1mm程度）を少量含む。空隙はややあり。層厚は4～12cmである。立川ローム層第II黒色帯下半部。

第IXb層　褐色土（10YR4/4）　赤色スコリア（径1～2mm程度）を多く含む、黒色スコリア（径1mm程度）を少量含む。白色粒子を含む。空隙は少ない。層厚は13～26cmである。立川ローム層第II黒色帯下半部。

第IXc層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　赤色スコリア（径1～2mm程度）を多く含む、黒色スコリア（径1～2mm程度）を含む。白色粒子を少量含む。空隙は少ない。層厚は6～14cmである。立川ローム層第II黒色帯下半部。

第Xa層　明黄褐色土（10YR6/6）　赤色スコリア（径1～2mm程度）、黒色スコリア（径1mm程度）を含む。空隙はない。層厚は4～16cmである。

第Xb層　明黄褐色土（10YR6/8）　第Xa層に比べ若干明い色調を呈する。赤色スコリア（径1～3mm程度）を多く含み、黒色スコリア（径1～2mm程度）を含む。空隙はない。層厚は10～20cmである。

第Xc層　明黄褐色土（10YR6/8）　赤色スコリア（径1～3mm程度）を多く含む。赤色スコリア量は第Xb層より若干多い。赤色スコリアが集中してまとまりを見せる箇所も観察された。黒色スコリア（径1～2mm程度）を含む。空隙はあり。第Xc層と第XI層の境は波状を呈している。層厚は5～30cmである。

第XI層　明黄褐色土（10YR6/8）　赤色スコリア（径1mm程度）を多く含む。空隙はやしあり。第Xc層より硬い。削ると、少しガリガリとした感触

第XII層　明黄褐色土（10YR6/8）　第XI・XIII層に比べ若干暗い色調を呈する。赤色スコリア（径1mm程度）を含む。黒色スコリア（径1mm程度）を少量含む。空隙はあり。層厚は6～28cmである。

第XIII層　明黄褐色土（10YR6/8）　赤色スコリア（径1mm程度）、オレンジ色スコリア（径3mm程度）、黒灰スコリア（径2mm程度）を少量含む。第XII・XIV層よりも硬くしまる。空隙はややあり。層厚は9～22cmである。

第XIV層　黄褐色土（10YR5/6）　赤色スコリア（径1mm程度）を含む。黒灰スコリア（径1mm程度）を少量含む。白色粒子を微量含む。空隙はあり。第XIV層と第XV層の境は大きく波状をなしている。そのため、層厚は一定しておらず、3～42cmである。

第XV層　黄褐色土（10YR5/8）　赤色スコリア（径1～2mm程度）を含む。オレンジ色スコリア（径1mm程度）、黄灰スコリア（径1mm程度）を少量含む。白色粒子を微量含む。削ると、少しガリガリとした感触がある。空隙はややあり。層厚は22～49cmである。

第XVI層　明黄褐色土（10YR6/8）　赤色スコリア（径1～2mm程度）、黒灰スコリア（径1mm程度）を含む。白色粒子を少量含む。非常に硬く、削ると、ガリガリとした感触がある。空隙はほとんどない。層厚は5～30cmである。

第XVII層　明黄褐色土（10YR6/6）　黄色スコリア（径1～3mm程度）を含み、黄灰スコリア（径1mm程度）を少量含む。白色粒子を多く含む。ややサラサラを帯びており、削るとガリガリとした感触がある。小礫（径3～20mm）がやや目立ってくる。空隙はあり。層厚は17～25cmである。

第XVIII層　明黄褐色土（10YR6/6）　黄色スコリア（径2mm程度）、黄灰スコリア（径1mm程度）を少量含む。白色粒子（径～1mm程度）をやや多く含む。第XVII層よりも硬質であり、削るとガリガリとした感触がある。小礫（径5～30mm）を含む。空隙はない。層厚は9～19cmである。

第XIX層　褐色土（7.5YR6/6）　武蔵シルト層。粘性はややあり。小礫（径～20mm）、中礫（径～50mm）を含む。空隙は少ない。層厚は6～8cmである。

第XX層　砂礫層。径100mm程度の礫、砂が混ざり合う。武蔵野礫層と考えられる。

第25図　基本土層・段切状遺構土層断面（1／60）

○８号トレンチ（第22図８、図版17－１－８、第12表）

本トレンチからは、縄文時代・古墳時代後期の土器が出土したが、小破片のため、図示できる遺物は、８の縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式か）の土器１点である。

（５）基本層序と地形

基本土層記録箇所を第24図に、基本層序を第25図に示した。確認した層位は立川ローム第Ⅱｂ層～第ＸＸ層（武蔵野礫層）である。第Ⅱ層～第Ｘ層については、立川ローム層の標準層序に従い、分層を行った。また、第Ⅸ層、第Ｘ層については、a、b、cの３部層に細分した。第Ⅺ層以下については、周辺での調査事例が少なく、対比する層序がなかったため、色調やスコリアなどの含有物、土質などの違いから分層し、上から順に層位番号を付した。

基本層序記録の目的の一つは、本調査区の自然地形の復元及び地形改変の様相を把握することである。ここでは記録した基本層序をもとに、本調査区の自然地形について考察することとする。調査区内東西方向の基本層序については、B-B'、C-C'、D-D'、E-E'、F-F'、G-G'で確認した。その結果、調査区西側のB-B'では第Ⅱｂ・ｃ層（褐色土層、ローム漸移層）から第Ｘｂ層まで確認され、調査区東側のG-G'では、第Ⅵ層上層から第ＸⅥ層までを確認した。G-G'で第Ⅴ層より上位層が確認できなかったことは、段切状遺構の造成掘削によるものと考えられる。B-B'とG-G'の第Ⅸ層・第Ｘ層の境の標高を比較すると、G-G'の方が高くなっており、その標高差は約70cmである。このことから、本調査区の地形が西から東へ上り勾配の傾斜をしていることが分かる。次にどこから傾斜が始まっているかを確認するため、調査区東西方向にトレンチを設定し、掘削を行い、C-C'、D-D'、E-E'、F-F'で土層を記録した。B-B'～G-G'の第Ⅸ層・第Ｘ層の境の標高を比較すると、まず、B-B'ですでに西から東への若干の上り勾配が認められる。C-C'・D-D'で急な上り勾配となっており、D-D'東端～G-G'ではほぼ標高差がなくなっている。これらから、本調査区の自然地形は、西側ではＡグリッドで西から東へ緩やかに上り勾配となり、Ｂグリッド中央付近より西から東へ急な上り勾配となる。東側ではＣ・Ｄグリッドで傾斜が上がり切り、ほぼ平坦な地形であったと考えられる。なお、段切状遺構の掘削範囲は、急な上り勾配が始まる（Ｂ－２）グリッド東半部から東側の範囲となっている。

第３節　縄文時代の遺構・遺物

（１）概　要

本地点からは、縄文時代の土坑１基（269Ｄ）・ピット２本（45・102Ｐ）が検出された。遺物としては、45Ｐから前期末葉から中期初頭と思われる土器１点が出土した。

（２）土　坑

269号土坑

遺　　構（第26図）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－２）グリッド。

［検出状況］調査区北端に位置し、土坑北側は調査区外へ延びる。

［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸 1.0m 以上／短軸 0.87m／深さ 13㎝。壁：60°程の角度で立ち上がる。長軸方位：ほぼＮ－Ｓ。

［覆　　土］２層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と思われる。

（３）ピット

45 号ピット

遺　　構（第 23 図、第 17 表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［構　　造］平面形：円形。規模：径 35㎝／深さ 54㎝。

［覆　　土］ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調とする。

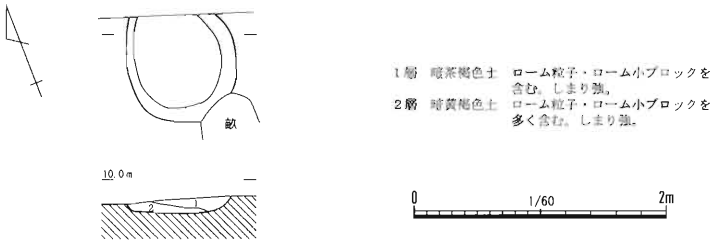
［遺　　物］土器１点が出土した。

［時　　期］前期末葉～中期初頭か。

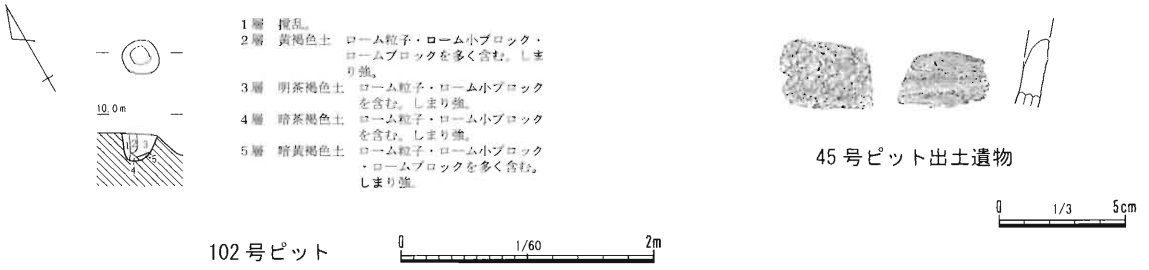
遺　　物（第 27 図１、図版 17―２―１）

［土　　器］（第 27 図１、図版 17－２－１）

１は前期末葉～中期初頭の土器片である。器厚は 0.9㎝。縄文 LR を横位に施文する。色調は外面明赤褐色（2.5YR5/6）、内面は暗赤褐色から黒色を呈する。胎土には砂粒、微細な雲母片、円磨度の低い細礫を含む。



第 26 図　269 号土坑（1／60）



第 27 図　ピット（1／60）・出土遺物（1／3）

102号ピット

遺　　構（第27図、第17表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［構　　造］平面形：円形。規模：径30㎝／深さ26㎝。

［覆　　土］４層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と思われる。

第４節　古墳時代後期の遺構・遺物

（１）概　要

古墳時代後期の遺構については、住居跡１軒（85Ｈ）が検出された。時期は出土土器から７世紀中葉と考えられる。なお、本住居跡は、中世以降の２基の地下式坑（423・424Ｄ）と土坑（422・425Ｄ）に大きく破壊されており、そのために遺物についても若干それらの土坑の覆土中に混入していたが、明らかに本住居跡に伴うものと考えられる土器については、本住居跡出土土器として取り扱うこととした。

（２）住居跡

85号住居跡

遺　　構（第28図）

［位　　置］（Ｂ－２・3）グリッド。

［検出状況］中世以降の２基の地下式坑（423・424Ｄ）と土坑（422・425Ｄ）に破壊されている。比較的に遺存状態が良い箇所は、住居北西コーナーからカマドにかけてである。

［構　　造］平面形：方形。規模：不明であるが、東西方向でおよそ5.5ｍ規模／確認面からの深さは約50㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ―４°―Ｗ。壁溝：上幅15～20㎝／下幅４～８㎝／深さ７～13㎝。床面：カマド前面からおよそ1.8ｍの幅をもち、南北方向に硬化面が広がっている。貼床は５～10㎝の厚さで施されていた。カマド：北壁のほぼ中央に位置する。東側は422Ｄに破壊されている。主軸方位はＮ－４°－Ｗ。長さ103㎝／幅111㎝／壁への掘り込み16㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと思われる。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

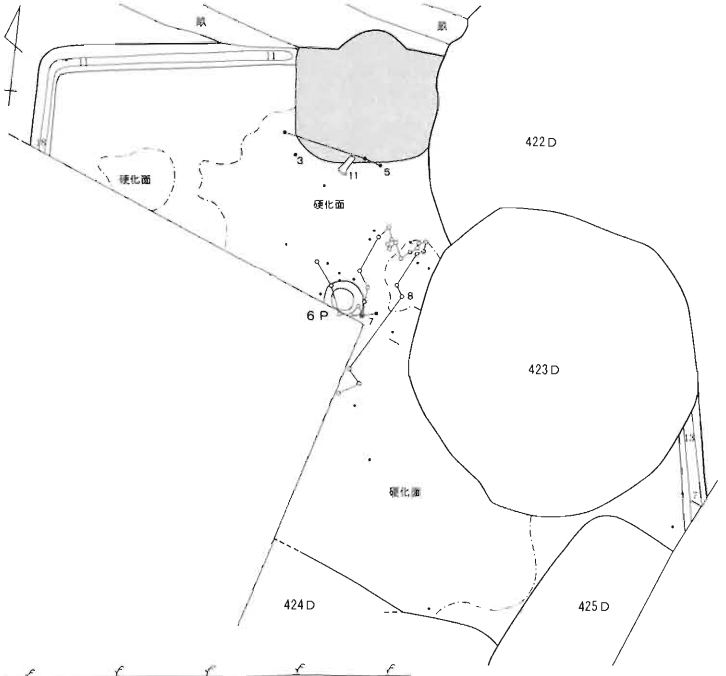
［覆　　土］27層に分層できた。

［遺　　物］土師器坏・鉢・甕形土器、須恵器は瓶・壺形土器、土製品（支脚）が出土した。４の土師器鉢形土器は422Ｄの覆土中、２の土師器坏形土器と９の須恵器瓶形土器は424Ｄの覆土中からの出土であったが、本住居跡出土として扱った。

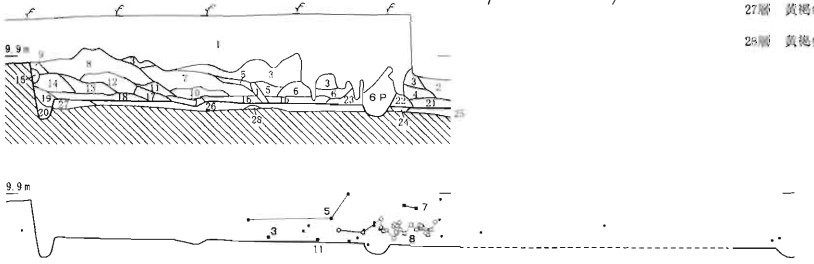
［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

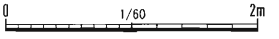
遺　　物（第29図、図版17－３、第14表）

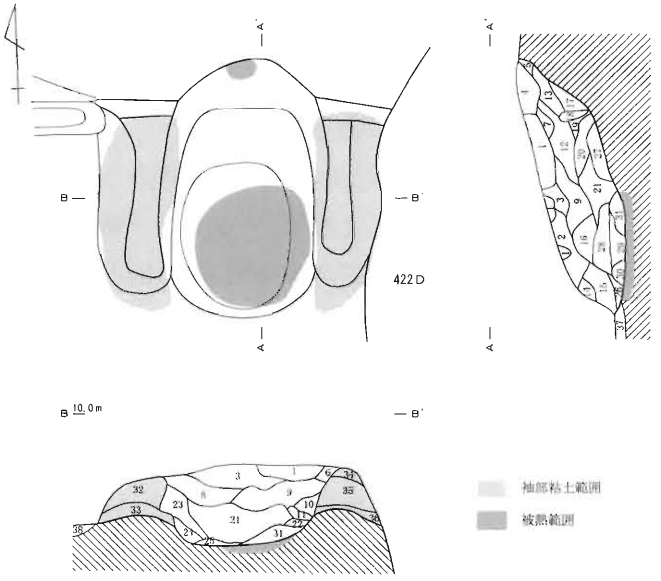
［土　　器］（第29図１～10、図版17－３－１～10、第14表）



1層　表土及び攪乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
5層　黒褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　極暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
7層　極暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
8層　黒褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
9層　灰茶褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
11層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
12層　極暗褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
13層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
14層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまり強。
15層　灰黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
16層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
18層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
19層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
20層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
21層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまり中。
22層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
23層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
24層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。貼床。
25層　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。貼床。
26層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。貼床。
27層　黄褐色土　ローム小ブロックを僅かに、ロームブロックを含む。しまり強。貼床。
28層　黄褐色土　ローム粒子を僅かに、ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。

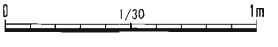




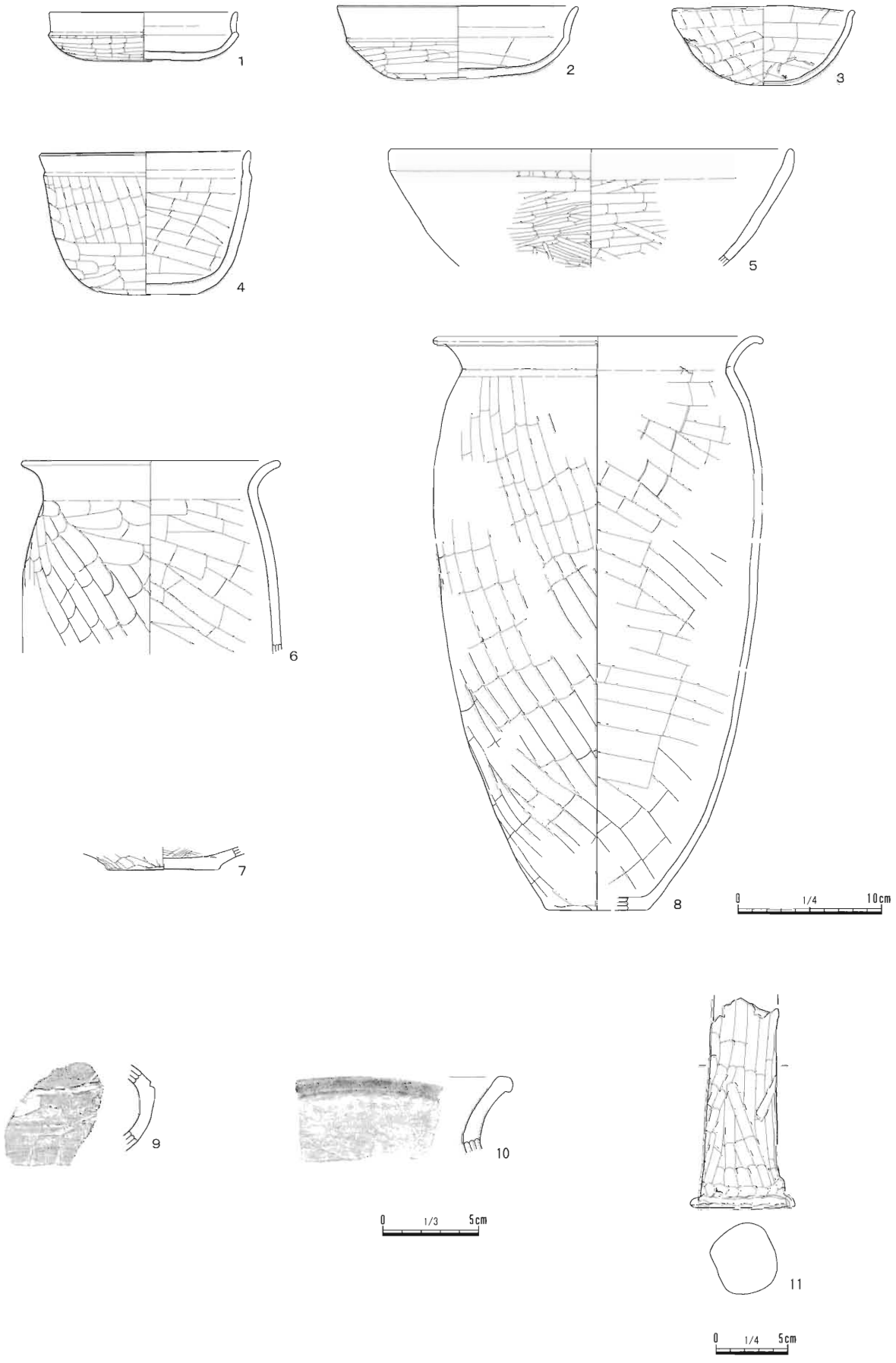


カマド

1層　黒褐色土　焼土粒子・粘土粒子を含む。しまり弱。軟。
2層　暗灰褐色土　焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子を含む。しまり強。
3層　暗灰褐色土　ローム粒子・焼土小ブロックを僅かに、焼土粒子・粘土粒子を含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　暗灰褐色土　焼土粒子を多く、粘土粒子を僅かに含む。しまり強。
7層　暗赤褐色土　焼土粒子を含む。しまり中。
8層　暗灰褐色土　焼土粒子を含み、焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
9層　灰赤褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを多く含む。しまりやや強。
10層　灰褐色土　ローム小ブロック・焼土粒子を含み、焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
11層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり強。
12層　暗赤褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを多く含む。しまり強。
13層　暗赤褐色土　焼土粒子を多く、焼土小ブロックを含む。しまりやや強。
14層　暗褐色土　焼土粒子を多く含む。しまり強。
15層　暗褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを含み、粘土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
16層　灰暗褐色土　焼土粒子を含み、焼土小ブロック・粘土粒子を僅かに含む。しまり強。
17層　暗褐色土　焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
18層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり中。
19層　暗褐色土　焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
20層　暗褐色土　焼土粒子を含み、焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
21層　灰暗褐色土　焼土粒子を多く、焼土小ブロック・粘土粒子を僅かに含む。しまり強。
22層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・粘土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
23層　暗灰褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土小ブロックを僅かに、焼土粒子を含む。しまり強。
24層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
25層　暗灰褐色土　ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
26層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
27層　暗黄褐色土　ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
28層　灰赤褐色土　焼土粒子を含み、焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
29層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
30層　暗黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
31層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
32層　灰褐色土　焼土粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
33層　灰黄褐色土　ロームブロックを多く、粘土粒子・粘土小ブロックを僅かに含む。しまり非常に強。
34層　灰暗褐色土　焼土粒子・粘土小ブロックを僅かに、粘土粒子を含む。しまり強。
35層　灰褐色土　焼土粒子・粘土粒子・粘土小ブロックを含む。しまり非常に強。
36層　灰褐色土　ローム粒子・焼土小ブロックを含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
37層　黄褐色土　ローム粒子を僅かに、ロームブロックを含む。しまり強。貼床。
38層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。



第28図　85号住居跡（1／60）・カマド（1／30）



第29図　85号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第29図1 図版17-3-1	土師器 坏	高 3.4 口 (13.0)	有段坏／口縁部は直立する／底部と口縁部の境は段をもつ／在地系土師器	暗黄褐色	砂粒を多く、茶褐色粒子・石英・角閃石を僅かに含む	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部は粗いヘラ磨き調整／外面口縁部直下には指頭による成形痕が僅かに残る	覆土中	40%
第29図2 図版17-3-2	土師器 坏	高 5.1 口 16.8	大型有段坏／口縁部は外反する／底部と口縁部の境は段をもつ／外面底部に黒斑をもつ／在地系土師器	淡茶褐色を基調	砂粒をやや多く、角閃石を僅かに含む	内面：口縁は横ナデ、底部はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部は粗いヘラ磨き調整／外面には指頭による成形痕が残る	424 D 覆土中	70%
第29図3 図版17-3-3	土師器 坏	高 5.6 口 12.6	内塊タイプ／粗雑品／口縁部は僅かに外反する／丸底／在地系土師器	暗黄褐色を基調	砂粒を多く、角閃石・金雲母を含む	内面：口縁部は横ナデ、底部はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、体部は上半部が縦方向のナデ（スリップか）、下半部はその後横方向に粗いヘラ削り	カマド前のほぼ床面上	完形品
第29図4 図版17-3-4	土師器 鉢	高 10.1 口 14.7	小型鉢／口縁部は僅かに外反する／口縁部と胴部との境に段をもつ／在地系土師器	暗赤褐色	砂粒を多く、角閃石・金雲母を含む	内面：口縁部は横ナデ、体部以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、体部以下はヘラ削り	422 D 覆土中	ほぼ完形品
第29図5 図版17-3-5	土師器 鉢	高 [8.2] 口 (28.0)	大型鉢／口縁部は直立気味／内面に黒斑あり／在地系土師器	暗茶褐色	砂粒をやや多く、雲母を僅かに含む	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下は粗いヘラ磨き調整／外面直下には指頭による成形痕が僅かに残る	カマド前の覆土中（床上16～37cm）から散在的	口縁部～胴部下半破片
第29図6 図版17-3-6	土師器 甕	高 [13.5] 口 (18.0)	長甕／口縁部は大きく外反する／口縁部と体部との境はスムーズ／在地系土師器	暗黄褐色を基調	砂粒をやや多く、茶褐色粒子・角閃石・金雲母・小石を含む	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り後ナデ（スリップか）	覆土中	口縁部～胴部中位50%
第29図7 図版17-3-7	土師器 甕	高 [1.6] 底 (7.7)	長甕／底部破片／平底／在地系土師器	暗茶褐色を基調／内面は黒色	砂粒をやや多く、石英・角閃石を僅かに含む	内面：ヘラナデ後粗いヘラ磨き調整／外面：ヘラ削り	住居中央付近の覆土中（床上30・33cm）	底部80%
第29図8 図版17-3-8	土師器 甕	高 (40.4) 口 (23.0) 底 7.1	長甕／底部破片／平底／在地系土師器／外面には広範囲に粘土が付着していることから、カマド使用の土器を考えられる	暗茶褐色	砂粒をやや多く、金雲母を僅かに含む	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り後ナデ（スリップか）	住居中央付近の覆土中（床上5～20cm）から散在的	60%
第29図9 図版17-3-9	須恵器 甕	高 [4.7]	文様は肩部に１条の横位沈線文がまわる／湖西製品と思われる	灰白色	砂粒を含む	ロクロ成形	424 D 覆土中	肩部～胴部下半破片
第29図10 図版17-3-10	須恵器 壷	高 [3.8]	口縁部は複合口縁／口頸部は外反する／ていねいな作り／湖西製品と思われる	灰白色	砂粒を含む	ロクロ成形／内外面：回転ナデ	覆土中	口頸部破片

第14表　85号住居跡出土土器一覧

１～３は土師器坏形土器、４・５は土師器鉢形土器、６～８は土師器甕形土器、９は須恵器甕形土器、10は須恵器壷形土器である。

［土 製 品］（第29図11、図版17－３－11）

11は支脚である。高さ14.7cm・最大幅7.3cm・重さ446.5ｇ。裾部下端は短いが、高坏脚台部の裾部のようにやや広がっている。色調は淡黄褐色で、粘土中には砂粒を多く、角閃石・金雲母・小石を含む。表面はナデられており、指頭による成形痕が残る。遺存度は上端部を欠損するが、70％程。カマド左脇の床面上からの出土である。

第５節　中世以降の遺構・遺物

（１）概　要

中世以降の遺構については、土坑39基・井戸跡１基・溝跡１本・ピット101本が検出された。これらの遺構については、基本的に調査区（Ｂ～Ｄ－２・３）グリッドに展開する段切状あるいは平場状に整地された遺構と関連するものと考えられる。また、（Ａ・Ｂ－2）グリッドについては、ローム上層（立川ローム第Ⅲ層）及び漸移層が遺存していたため、段切状遺構外と考えられる。そのため、（Ａ－２・３）グリッドから検出された井戸跡（14Ｗ）・溝跡（17Ｍ）などの遺構は、段切状遺構外の遺構として考えるべきであろう。

この段切状遺構については、すでに本地点西側の第49地点（尾形・深井・青木　2004）・第78地点（大久保・尾形・青木　2014）・第95地点（徳留・尾形・青木　2017）で検出されているが、その際の段切状遺構と同一遺構となるとは現時点では判断できない。しかし、本地点で検出された１基の火葬土坑（268Ｄ）と第95地点で調査された５基の火葬土坑は、「Ｔ」字形を呈し、同一形態であることから、関連性がもたれるものと考えられる。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

（２）段切状遺構

中野遺跡における段切状遺構については、すでに第49・78・95地点で検出されているが、今回の調査においても検出することができ、本遺跡における北側斜面地はかなりの範囲あるいは点在する形で段切状遺構の存在が想定できるものと考えられる。

遺　　構（第24図）

［位　　置］（Ｂ～Ｄ－２・３）グリッド。

［構　　造］**遺構の広がり**：今回の調査では、西側が（Ｂ－２・３）グリッド内に、東側が（Ｄ－２・３）グリッド内にほぼ東西方向を基本に延びる平場面が認められた。段差部分については、明確に確認できなかったが、ちょうど（Ｂ－２・３）グリッドに位置する422Ｄとして長方形の窪み部分を境に西側は段切状遺構の外側部分と考えられ、422Ｄより西側は漸移層が残存している状況である。422Ｄについては、今回調査時に土坑として扱ったためそのまま遺構名を付けたが、422Ｄの東壁部分はスロープ状（硬化面を伴う）に緩斜面であり、通常の土坑ではない観があることから、段切状遺構の西端部分の末端構造の可能性がある。**規模**：今回の調査範囲の中で422Ｄの東側はすべて段切状遺構と考えられる。南北方向14ｍ／東西方向17ｍ。**深さ**：第24図には等高線を示したが、これによると、段切状遺構の最も高い標高は、（Ｃ・Ｄ－２）グリッドで9.9ｍラインである。ただし、その他の部分でも9.8ｍを測り、最も低い標高である（Ａ－２）グリッドの9.5ｍラインは、すでに段切状遺構外であり、これは低地に向かう斜面部分に入っているため、段切状遺構内では、標高9.8～9.9ｍの中でほぼ平坦であると言える。また、第25図の基本土層から、段切状遺構の平場は、自然地形ではなく、立川ローム第Ⅵ層まで掘削が及んでいたことが理解できる。**平場の状況**：工具痕が全体に見られることから、本地点に西側に位置する第49・95地点と同様にローム掘削後何らかの工具により整地されている

ものと思われる。土層中に明確な版築面や硬化面は観察できなかった。

［時　　期］本段切状遺構内の（Ｃ－２）グリッドから１基の火葬土坑（268 D）から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行ったところ、室町時代（15世紀前半～中頃）という年代が与えられていることから、同時期のものと考えられる。

（３）土　坑

本地点の土坑については、本報告第２章第３節の分類基準に当てはめて説明することにする。検出された土坑の総数は39基で、そのうち分類不明なＧ群は、５基（265・422・427・435・441 D）である。基本構造については、第15表を参照。

Ａ群　方形の土坑　３基（１類－０基、２類－３基）
　１類　袋状の構造を呈する　０基
　２類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する　３基（436・437・439 D）
Ｂ群　長方形の土坑　19基（１類－１基、２類－３基、３類－15基、４類－０基）
　１類　溝状土坑　１基（428 D）
　２類　幅狭の長方形土坑　３基（426・430・444 D）
　３類　幅広の長方形土坑　15基（260・262・263・267・425・431・432・434・438・440・442・443・445・448・449 D）
　４類　火床部を有する土坑　０基
Ｃ群　円形・楕円形の土坑　６基（264・433・446・447・450・451 D）
Ｄ群　不整形の土坑　１基（266 D）
Ｅ群　地下室・地下坑、地下式坑　４基（１類－４基、２類－０基）
　１類　１竪坑１主体部タイプ　４基（261・423・424・429 D）
　２類　特殊タイプ　０基
Ｆ群　Ｔ字形の土坑　１基（268 D）
Ｇ群　その他　５基（265・422・427・435 D・441 D）

Ａ群　方形の土坑（第30図、第15表）

２類のみが３基（436・437・439 D）該当する。すべて（Ｃ－３）グリッドに分布し、段切状遺構内からの検出である。

２類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する（第30図、第15表）

436号土坑

遺　　構（第30図、第15表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。438D・47Pを切る。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸1.09m／短軸0.98m／深さ33㎝。壁：80°の角度で立ち上がる。長軸方位：Ｎ－Ｓ。

［覆　　土］10層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

437号土坑

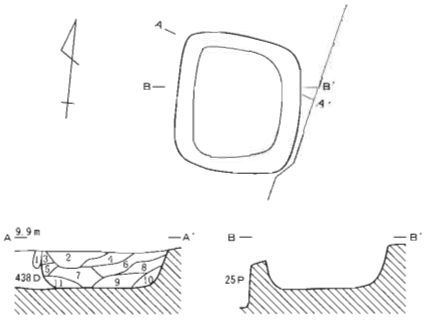
遺　　構（第30図、第15表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。48Ｐと重複し、７・27Ｐ・438Ｄを切る。

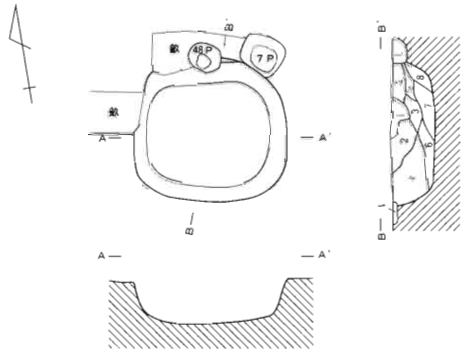
［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸1.21m／短軸1.12m／深さ35㎝。**壁**：70°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－80°－Ｗ。

［覆　　土］７層に分層される。



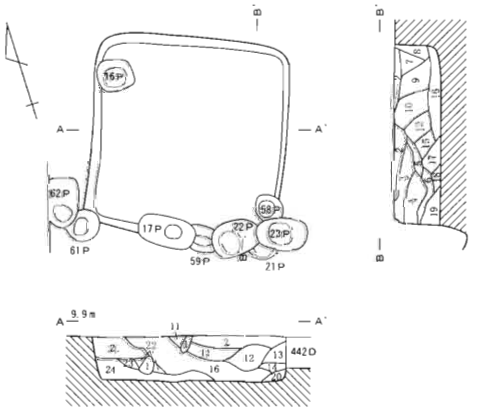
1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
9層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
11層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。

436号土坑（２類）



1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子・炭化材小片を僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

437号土坑（２類）



1層　撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
11層　暗褐色土　ローム粒子含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
12層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
13層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。
15層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
18層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
19層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
19層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
20層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
27層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
22層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
23層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
24層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。

439号土坑（２類）

0　1/60　2m

第30図　土坑Ａ群（1／60）

［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

439号土坑

遺　　構（第30図、第15表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。16・58・61・68Pと重複し、440・442D、70Pを切り、17・21～23・59Pに切られる。
［構　　造］平面形：方形。規模：長軸1.60m／短軸1.55m／深さ38㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ－25°－Ｅ。
［覆　　土］23層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

Ｂ群　長方形の土坑（第31～33図、第15表）

19基検出された。今回の調査では、最も多く検出された群である。さらに１類は１基、２類は３基、３類は15基、４類は０基に分類された。

１類　溝状土坑（第31図）

428Ｄの１基が該当する。検出位置は、（Ａ－２）グリッド内におよそ北方向に走向軸をもち、基本的に段切状遺構外の検出である。

428号土坑

遺　　構（第31図、第15表）
［位　　置］（Ａ－2）グリッド。
［検出状況］段切状遺構外からの検出である。17Ｍを切る。
［構　　造］平面形：溝状の長方形。規模：長軸2.85m／短軸0.60m／深さ23㎝。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：Ｎ－14°－Ｅ。
［覆　　土］単層。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

２類　幅狭の長方形土坑（第31図、第15表）

426・430・444Ｄの３基が該当する。本類は１類よりやや長軸が短いという特徴に過ぎないため、１類と混同して扱われやすいものであろう。

426号土坑

遺　　構（第31図、第15表）
［位　　置］（Ｂ－2）グリッド。
［検出状況］段切状遺構外からの検出である。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸2.02m／短軸0.51m／深さ30㎝。壁：80°の角度で立ち上

がる。長軸方位：N－72°－W。

［覆　　土］４層に分層される。

［遺　　物］磁器（碗）が１点出土した。

［時　　期］中世（14世紀）。

遺　　物（図版18－１－１、第16表）

［磁　　器］（図版18－１－１、第16表）

１は中国製の白磁碗である。時期は14世紀である。

430号土坑

遺　　構（第31図、第15表）

［位　　置］（B－2）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。422Ｄに切られる。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸1.34m／短軸不明／深さ15㎝。壁：60°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－15°－E。

［覆　　土］６層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

444号土坑

遺　　構（第31図、第15表）

［位　　置］（D－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。265Ｄ・93・94Ｐを切る。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸1.55m／短軸0.45m／深さ14㎝。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N－72°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

３類　幅広の長方形土坑（第31・32図）

260・262・263・267・425・431・432・434・438・440・442・443・445・448・449Ｄの15基が該当する。今回の調査では最も多く検出された土坑である。検出位置は（B～D－２・３）グリッドと調査区のほぼ西半分にあり、すべて段切状遺構内の検出である。

260号土坑

遺　　構（第31図、第15表）

［位　　置］（D－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸0.52m／短軸0.44m／深さ６㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－45°－W。

［覆　　土］単層。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

262号土坑

遺　　構（第31図、第15表）
［位　　置］（Ｄ－２）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。263 Ｄを切る。
［構　　造］**平面形**：長方形か。**規模**：長軸1.20m以上／短軸0.99m／深さ18㎝。**壁**：75°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－23°－Ｅ。
［覆　　土］９層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

263号土坑

遺　　構（第31図、第15表）
［位　　置］（Ｃ・Ｄ－２）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。262 Ｄ・95 Ｐに切られる。
［構　　造］**平面形**：長方形か。**規模**：長軸2.25m／短軸1.23m／深さ21㎝。**壁**：65°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－29°－Ｅ。
［覆　　土］９層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

267号土坑

遺　　構（第32図、第15表）
［位　　置］（Ｃ－２）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。西側は調査区外にあると思われる。
［構　　造］**平面形**：長方形か。**規模**：長軸0.96m／短軸0.85m以上／深さ26㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－25°－Ｅ。
［覆　　土］８層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

425号土坑

遺　　構（第32図、第15表）
［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。東側は調査区外にあると思われる。

［構　　造］平面形：長方形か。規模：長軸1.80m／短軸0.90m以上／深さ30㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－26°－E。
［覆　　土］６層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

431号土坑

遺　　構（第32図、第15表）
［位　　置］（B－２・３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。432 Dに切られる。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸2.12m／短軸1.10m／深さ58㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－25°－E。
［覆　　土］13層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

432号土坑

遺　　構（第32図、第15表）
［位　　置］（B－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。429・434 Dに切られ、431 Dを切る。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸2.30m以上／短軸1.10m以上／深さ67㎝。壁：80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－28°－E。
［覆　　土］４層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

434号土坑

遺　　構（第32図、第15表）
［位　　置］（B・C－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。429 Dに切られ、432 Dを切る。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸1.40m以上／短軸1.13m／深さ65㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－28°－E。
［覆　　土］17層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

438号土坑

遺　　構（第33図、第15表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。436・437 Ｄ、4・18・19・26・27 Ｐに切られる。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 1.55m／短軸 1.09m／深さ 32㎝。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：Ｎ－72°－Ｗ。
［覆　　土］８層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

440 号土坑

遺　　構（第 33 図、第 15 表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内の検出。70・71・83Pを切り、439・442 Ｄ、13～15・28 Ｐに切られる。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 1.90m 以上／短軸不明／深さ 31㎝。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：Ｎ－55°－Ｗ。
［覆　　土］４層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

442 号土坑

遺　　構（第 33 図、第 15 表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。439 Ｄに切られ、440・443 Ｄを切る。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 0.90m 以上／短軸 0.85m／深さ 31㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ－63°－Ｗ。
［覆　　土］３層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

443 号土坑

遺　　構（第 33 図、第 15 表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。69 Ｐと重複し、442 Ｄ、82 Ｐに切られる。
［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸不明／短軸不明／深さ 26㎝。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：不明。
［覆　　土］３層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

445号土坑

遺　　構（第33図、第15表）

［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。448・449Ｄを切る。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸1.04m／短軸0.88m／深さ21㎝。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：Ｎ－25°－Ｅ。

［覆　　土］10層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

448号土坑

遺　　構（第33図、第15表）

［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。54Ｐと重複し、445Ｄに切られ、449Ｄを切る。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸1.33m／短軸0.80m／深さ23㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ－74°－Ｗ。

［覆　　土］５層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

449号土坑

遺　　構（第33図、第15表）

［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内の検出である。55Ｐと重複し、445・446・448Ｄに切られ、447Ｄを切る。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸1.40m／短軸1.17m／深さ14㎝。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：Ｎ－５°－Ｅ。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

Ｃ群　円形・楕円形の土坑（第34図、第15表）

264・433・446・447・450・451Ｄの６基が該当する。分布状況は、433Ｄを除き、（Ｃ・Ｄ－３）グリッドからの検出で、調査区東端にまとまっており、すべて段切状遺構内の検出である。

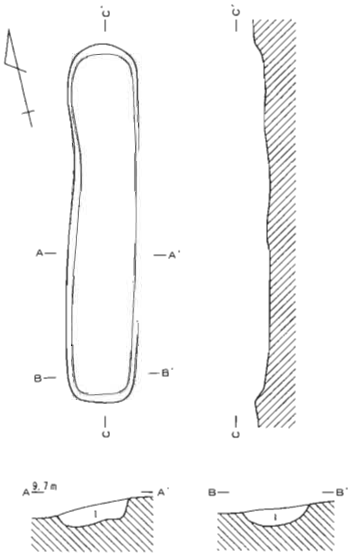
264号土坑

遺　　構（第34図、第15表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

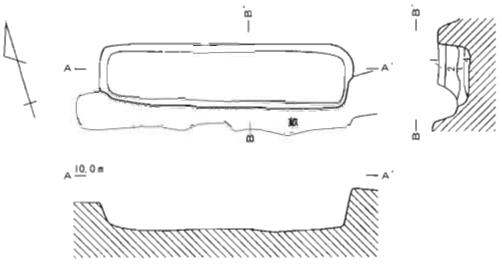
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。265Ｄを切る。

［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸1.10m／短軸0.97m／深さ32㎝。壁：65°の角度で立ち上



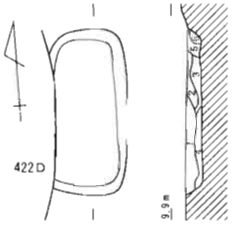
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

428号土坑（１類）



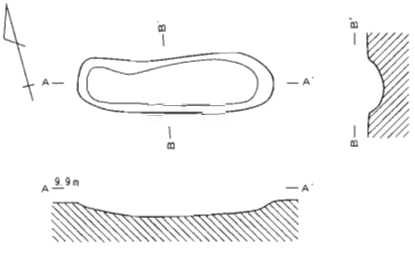
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。

426号土坑（２類）



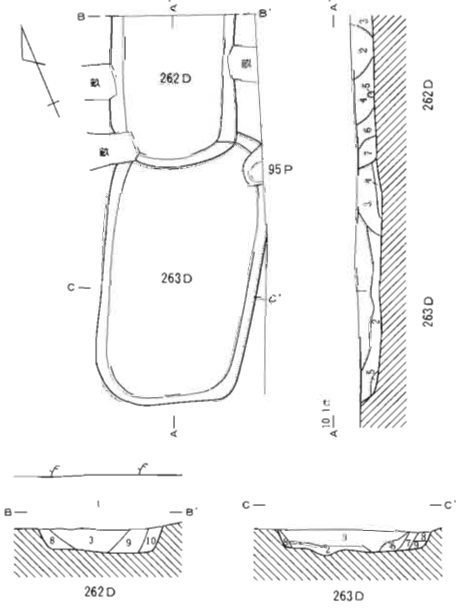
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　極暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。
4層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
6層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり中。

430号土坑（２類）



444号土坑（２類）

260号土坑（３類）



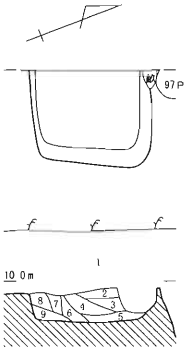
262D
1層　表土。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　ロームブロック。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。

263D
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・焼成粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

262・263号土坑（３類）

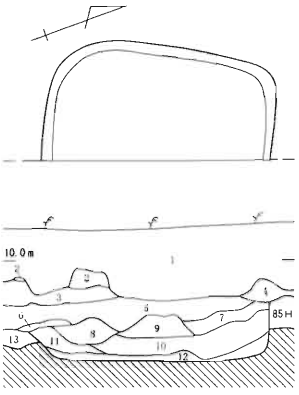
0　1/60　2m

第31図　土坑Ｂ群１（1／60）



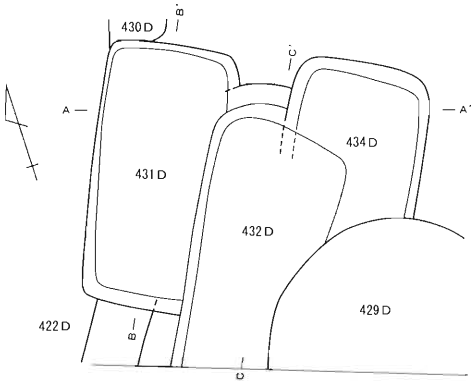
1層　表土。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。

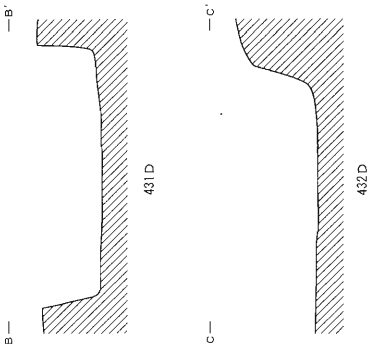
267号土坑（３類）

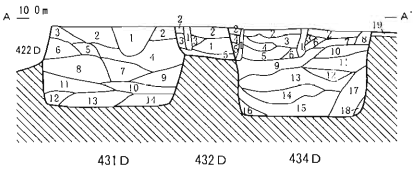


1層　表土。
段切状遺構
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
425D
7層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
11層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
12層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
段切状遺構
13層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

425号土坑（３類）







431D
1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
5層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
6層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
13層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。

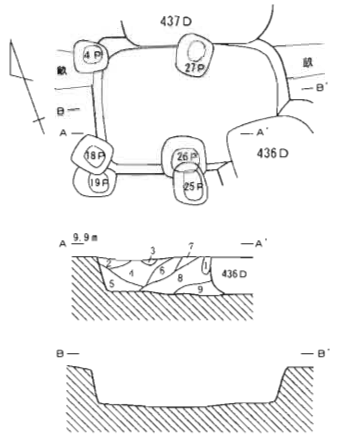
432D
1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。

434D
1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
13層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
15層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや多く。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
17層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
18層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
段切状遺構
19層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

431・432・434号土坑（３類）

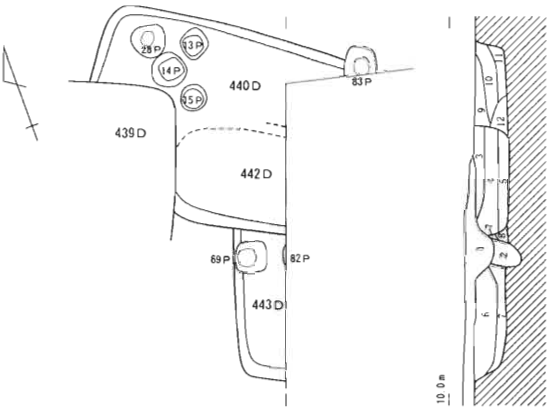
0　1/60　2m

第32図　土坑Ｂ群２（1／60）



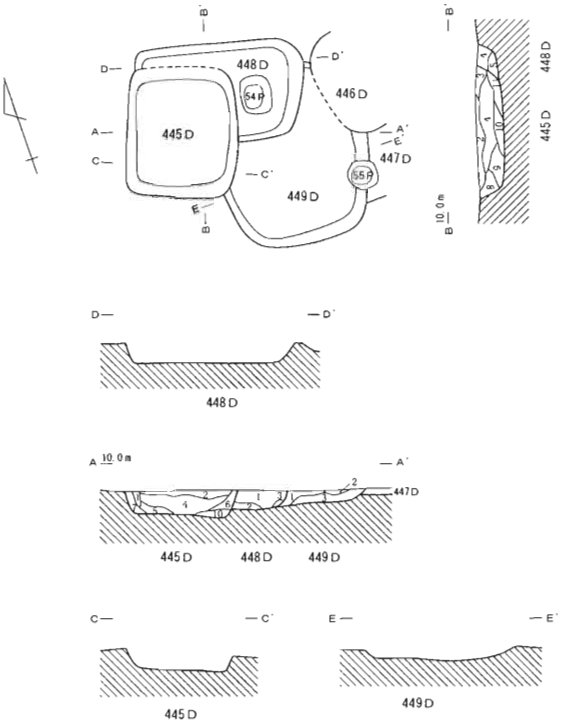
1層　攪乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　極暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム小ブロックを僅かに、ロームブロックを含む。しまり中。
6層　極暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。

438号土坑（３類）



1層　表土。
2層　82P覆土。
442D
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック含む。しまりやや強。
443D
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。
7層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
440D
9層　暗褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック含む。しまり中。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
12層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

440・442・443号土坑（３類）



445D　A－A'・B－B'
1層　攪乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

448D　A－A'・B－B'
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

449D　A－A'
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。

445・448・449号土坑（３類）

0　1/60　2m

第33図　土坑Ｂ群３（1／60）

がる。長軸方位：N－65°－W。

［覆　　土］６層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

433号土坑

遺　　構（第34図、第15表）

［位　　置］（B－２）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。

［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸0.83m／短軸0.48m／深さ14㎝。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N－50°－W。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

446号土坑

遺　　構（第34図、第15表）

［位　　置］（D－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。56Ｐと重複し、447・449Ｄを切る。

［構　　造］平面形：不整円形。規模：長軸0.86m／短軸0.84m／深さ17㎝。壁：60°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－20°－W。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

447号土坑

遺　　構（第34図、第15表）

［位　　置］（D－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。55・74Ｐと重複し、446・449・450Ｄに切られる。

［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸0.90m以上／短軸不明／深さ９㎝。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N－80°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

450号土坑

遺　　構（第34図、第15表）

［位　　置］（D－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。74 P と重複し、447 D を切る。
［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸 1.18m／短軸 0.67m／深さ 22㎝。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－33°－E。
［覆　　土］4 層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

451 号土坑

遺　　構（第 34 図、第 15 表）
［位　　置］（D－3）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。東側は調査区外にあると思われる。
［構　　造］平面形：楕円形か。規模：不明／深さ 11㎝。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：不明。
［覆　　土］単層。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

D 群　不整形の土坑（第 34 図・第 15 表）

266 D の 1 基が該当する。検出位置は（C－3）グリッドで、段切状遺構内の検出である。

266 号土坑

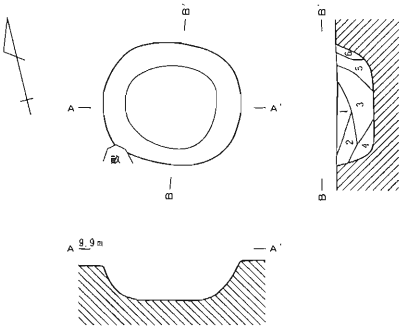
遺　　構（第 34 図、第 15 表）
［位　　置］（C－3）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。89 P に切られる。
［構　　造］平面形：不整形。規模：長軸 1.25m／短軸 1.25m／深さ 9㎝。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：不明。
［覆　　土］単層。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

E 群　地下室・地下坑、地下式坑（第 35 ～ 37 図、第 15 表）

全体プランが調査区内では未確認であったため、1 類・2 類として分類はできなかった。今回検出された遺構は、すべて中世であることから、地下式坑として、261・423・424・429 D の 4 基が該当する。

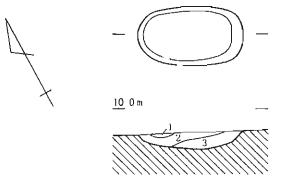
261 号土坑

遺　　構（第 35 図、第 15 表）
［位　　置］（D－3）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。南側の調査区外に大部分があると思われ、詳細不明である。検出部分は主体部と思われる。
［構　　造］地下式坑の形態をもつ。
［主 体 部］平面形：方形か。天井部が陥落している状況である。調査区の崩落の恐れがあるため、



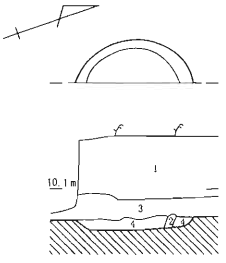
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり弱。
6層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。

264号土坑



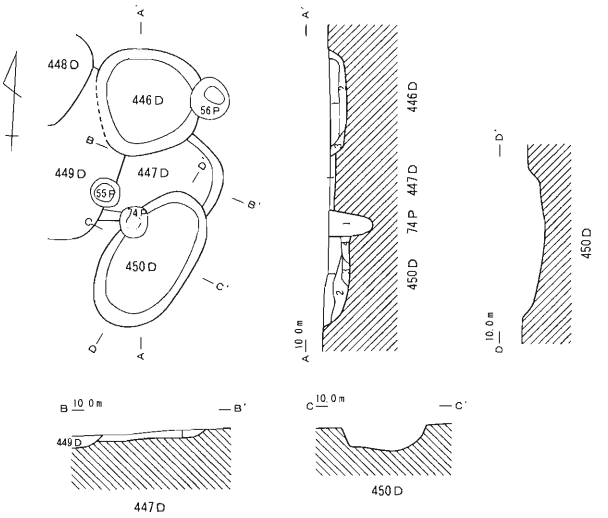
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

433号土坑



1層　表土。
2層　根撹乱。
段切状遺構
3層　極暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
451D
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

451号土坑



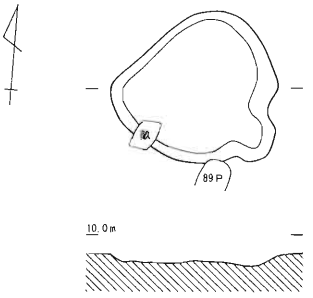
446D　A－A'
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

447D　A－A'　B－B'
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

450D　A－A'
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。

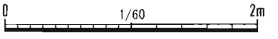
446・447・450号土坑

C群



266号土坑

D群



第34図　土坑C群・D群（1／60）

深さ160㎝程で調査を断念した。

［覆　　土］主体部：20層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

423号土坑

遺　　構（第36図、第15表）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。主体部のみ検出で、入口竪坑部は調査区外にあると思われる。422Ｄと重複するが新旧関係は不明である。

［構　　造］地下式坑の形態をもつ。

［主 体 部］平面形：方形：長軸2.32ｍ／短軸2.20m／深さ／294cm。長軸方位：Ｎ－65°－Ｗ。天井部はすでに陥落していた。

［覆　　土］主体部：42層に分層したが、深さ140㎝までしか測量は行えなかった。

［遺　　物］陶器１点（捏鉢）・石製品１点（砥石）が出土した。

［時　　期］中世（16世紀中）。

遺　　物（第43図２、図版18－１－１・２、第16表）

［陶　　器］（図版18－１－１、第19表）

１は常滑の捏鉢である。時期は16世紀中である。

［石 製 品］（第43図２、図版18－１－２）

２は凝灰岩製の砥石である。現存長7.1㎝・最大幅2.3㎝・厚さ2.1㎝・重さ55.8ｇ。上端部を欠損。平面形は長方形である。使用面は正面、側面、裏面であり、使用面にＶ字状の刃物痕が認められる。

424号土坑

遺　　構（第35図、第15表）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］検出された部分は入口竪坑部と思われるが、大部分が調査区外にあると思われるため、詳細不明である。

［構　　造］地下式坑と思われる。主体部は北西側調査区外へ延びると思われる。

［入口竪坑部］平面形：不明。規模：不明／深さ：確認面から150cm程下げたが、坑底まで達することができなかった。また、調査区壁の崩落の危険があったため、調査を中断した。上部は漏斗状に広がる。長軸方位：不明。

［覆　　土］26層に分層された。

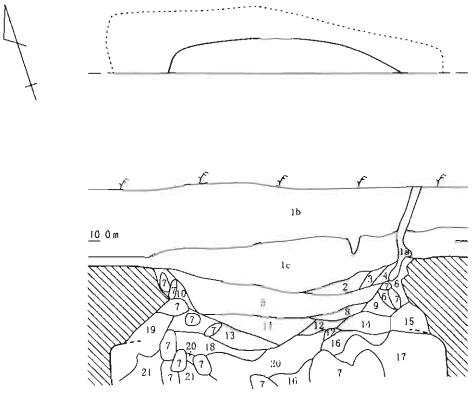
［遺　　物］陶器３点（皿・甕・鉢）・土器１点（焙烙）を出土した。

［時　　期］中世（15世紀）。

遺　　物（第43図１・２、図版18－１－１～４、第15表）

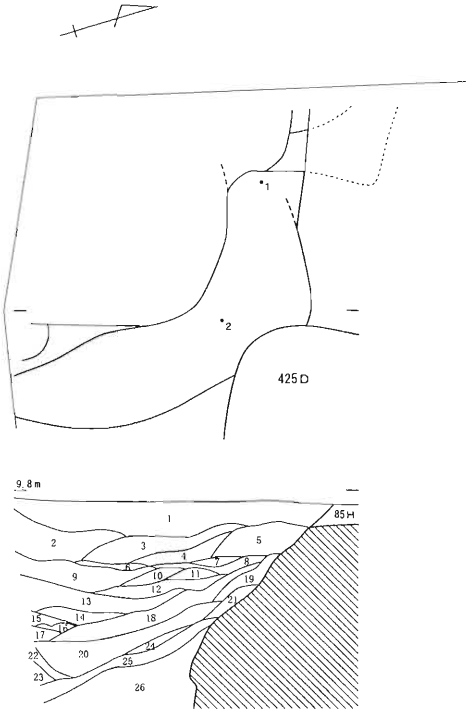
［陶器・土器］（第43図１・２、図版18－１－１～４、第15表）

１～３は陶器、４は土器（焙烙）の破片である。時期は１～３が15世紀、４は不明である。



1a層　撹乱。
1b層　表土。
1c層　段切状遺構の覆土。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　ローム小ブロック。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
13層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり中。
15層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり中。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
18層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
19層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり中。
20層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
21層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを多く含む。しまり中。

261号土坑

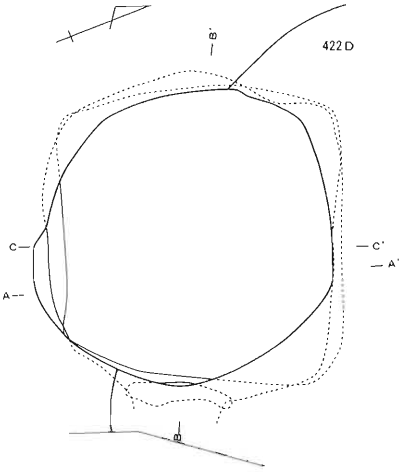


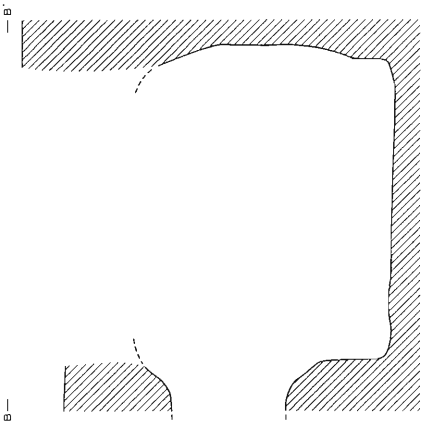
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
8層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
13層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
18層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
19層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
21層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
22層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
23層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
24層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
25層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
26層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

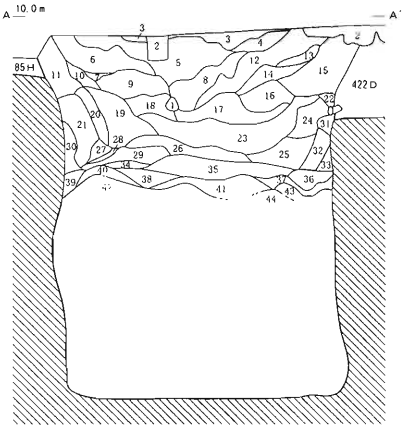
0　1/60　2m

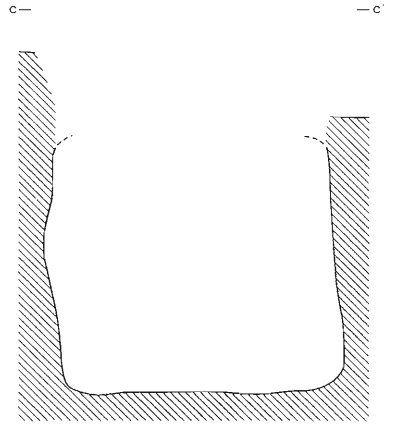
424号土坑

第35図　土坑Ｅ群１（１／60）







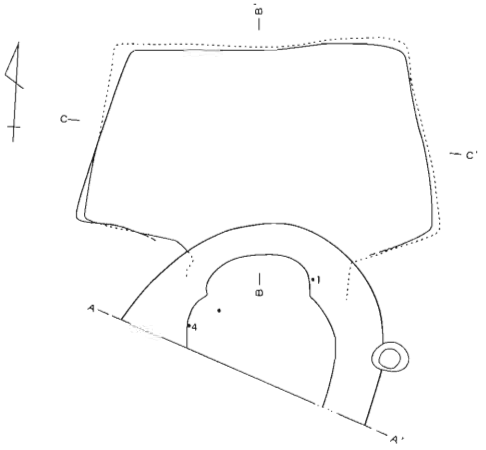


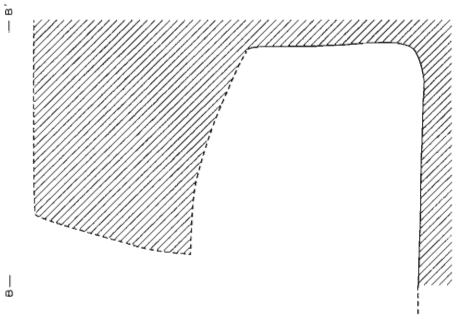
1層　根攪乱。
2層　攪乱。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・粘土粒子を含み、ローム小ブロック・粘土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
7層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含み、粘土小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
8層　黒褐色土　ローム粒子・粘土小ブロックを含み、ローム小ブロック・粘土粒子を多く含む。しまり弱。
9層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子・粘土粒子・粘土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
11層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
12層　暗褐色土　ローム小ブロックを多く、粘土粒子を含む。しまり弱。
13層　灰暗褐色土　ローム粒子を僅かに、粘土粒子を多く、粘土小ブロックを含む。しまり中。
14層　暗褐色土　ローム粒子を含み、粘土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
15層　灰暗褐色土　粘土粒子・粘土小ブロックを含む。しまり中。
16層　暗褐色土　ローム小ブロックを僅かに、粘土粒子・粘土小ブロックを含む。しまり弱。
17層　暗灰褐色土　ローム小ブロックを僅かに、粘土粒子・粘土小ブロックを多く含む。しまり中。
18層　灰黄褐色土　ローム粒子・粘土粒子を僅かに、粘土小ブロックを含む。しまりやや強。
19層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロックを含み、粘土粒子を僅かに含む。しまり中。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
21層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。
22層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまり強。
23層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く、焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
24層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロックを僅かに、ロームブロックを含む。しまり中。
25層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
26層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
27層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり弱。
28層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
29層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
30層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
31層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり強。
32層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
33層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
34層　黒褐色土　ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
35層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
36層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
37層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
38層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや強。
39層　黒褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
40層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含み、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
41層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
42層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり強。
43層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
44層　黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。

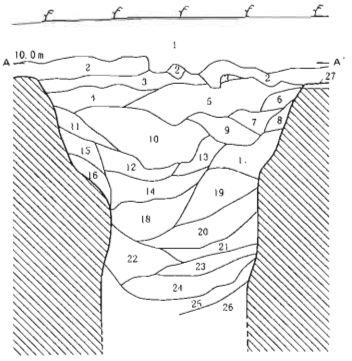
423号土坑

0　1/60　2m

第36図　土坑Ｅ群２（1／60）







1層　表土。

段切状遺構

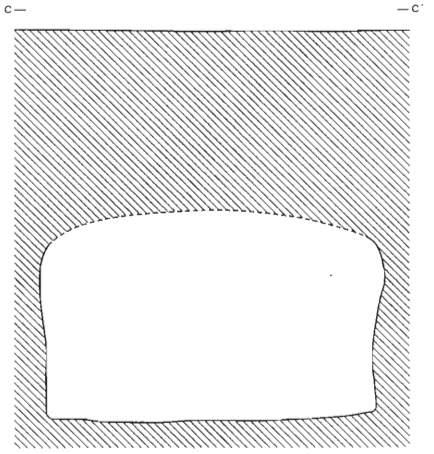
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

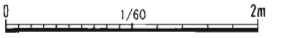
429D

3層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
7層　極暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
12層　暗褐色土　ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
13層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
14層　極暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
15層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
16層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
17層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
18層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
19層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
20層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
21層　極暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを多く含む。しまり中。
22層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。しまり中。
23層　極暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。
24層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。しまり中。
25層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
26層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。

段切状遺構

27層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。





429号土坑

第37図　土坑Ｅ群３（1／60）

429号土坑

遺　　構（第37図、第15表）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－３）グリッド。

［検出状況］主体部は天井部が陥落しておらず空洞であったため、431～434Ｄの調査終了後に精査を行った。101Pと重複し、432・434Ｄを切る。

［構　　造］地下式坑と思われる。入口竪坑部は南側調査区外に一部延びると思われる。

［主 体 部］平面形：長方形：前壁2.80ｍ／奥壁2.20ｍ／奥行1.80m／天井部までの高さ1.60ｍ／深さ：ローム確認面から3.09cm。長軸方位：Ｎ－87°－Ｅ。

［入口竪坑部］平面形：楕円形か。規模：開口部径2.04m／深さ：200cmまで掘り下げたが、坑底はまで達することができなかった。また、調査区壁の崩落の危険があったため、調査を中断した。

［覆　　土］入口竪坑部：24層に分層したが、深さ200㎝までしか測量は行えなかった。

［遺　　物］陶器２点（皿・片口鉢）・土器１点土（鍋）、鉄製品１点（釘）が出土した。

［時　　期］中世（15世紀中～後半）。

遺　　物（第43図２・4、図版18－１－１～4、第16表）

［陶器・土器］（第43図２、図版18－１－１～3、第16表）

１・２は陶器で、１は皿２は片口鉢である。３は土器で、土鍋である。

［鉄 製 品］（第43図4、図版18－１－4）

4は釘である。長さ6.5㎝・幅1.1㎝・厚さ0.5㎝・重さ9.7ｇ。ほぼ完形品である。

Ｆ群　Ｔ字形の土坑（第38図、第15表）

268Ｄの１基が該当する。このＴ字形土坑は、多くの人骨片と炭化材を出土し、土坑内部には被熱痕が確認されることから火葬土坑と考えられる。形態的には主体部と張出部に区分できるが、ここでは、遺体を安置したと推定される「主体部」と主体部に向かって張り出される「吸気坑」、主体部中央の窪み「通気溝」の名称を使用した（林田　1993、小倉・柳田他　2001a・2001b）。

268号土坑

遺　　構（第38図、第15表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［構　　造］Ｔ字形の形態をもつ。

［主 体 部］平面形：長方形。規模：長軸1.23m／短軸0.53m／深さ24㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がり、主体部と吸気坑の屈曲部と吸気坑奥の主体部周辺は焼けて赤化している。通気溝：幅55㎝／深さ13㎝。主体部中央の窪みで、不整形を呈し吸気坑に至る。底面には工具痕が認められる。長軸方位：Ｎ－6°－Ｅ。

［吸 気 坑］主体部通気溝から続き、主体部西側に溝状に張り出す。規模：長軸0.35／短軸0.26m／深さ主体部接続部分で13㎝。西に向かって浅くなる。長軸方位：Ｎ－78°－Ｗ。底面には工具痕が認められる。

［人骨の状況］人骨は小破片もしくは粉状のものが多かった。全体に主体部通気溝の位置を中心に炭化材の上層から出土している。大きめのものは外部へ運び出された可能性が指摘されている。

［炭化材の状況］炭化材は主体部全体から出土した。通気溝の両側には横位に設置された丸太状の横

木が敷かれ、その上に主体部の主軸方向に太めのエノキ属の丸木・割材が置かれた状態であった。一部には竹材も見られた。

［覆　　土］主体部・吸気坑ともに埋戻された様相である。28層に分層された。

［遺　　物］鉄製品１点（雁股矢か）と炭化材・人骨片が出土した。出土した人骨・炭化材の自然科学分析は付編111～116ページを参照。

［時　　期］中世（15世紀前半～中）。

遺　　物（第43図１、図版18－１－１）

［鉄 製 品］（第43図１、図版18－１－１）

１は雁股矢と思われる。長さ6.9㎝・最大幅20.㎝・厚さ0.5㎝・重さ10.0ｇ。細い部分は茎部で、太い部分は鏃身であろうか。主体部北端のほぼ坑底上からの出土である。

Ｇ群　その他（第39・40図、第15表）

分類不明な土坑をＧ群とした。265・422・427・435・441Ｄの５基が該当する。

265号土坑

遺　　構（第39図、第15表）

［位　　置］（Ｃ・Ｄ－３）グリッド。

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。南側の大部分は調査区外にあると思われるため、詳細不明である。264・444Ｄに切られる。

［構　　造］平面形：長方形。規模：不明／深さ51㎝。壁：60°の角度で立ち上がる。長軸方位：Ｎ－75°－Ｗ。

［覆　　土］27層に分層された。特に、覆土中及び坑底面には、目立って炭化物粒子・焼土・白色灰・赤化灰が多く含まれていた。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

［所　　見］大部分が調査区外にあり、詳細不明である。今回は分類不明のＧ群にしたが、覆土中及び坑底面には、炭化物粒子・焼土・灰が堆積している特殊な遺構であり、方形の竪穴状遺構になる可能性がある。検出されたピット（Ｐ１）についても２本柱うちの１本かもしれない。

422号土坑

遺　　構（第39図、第15表）

［位　　置］（Ｂ－２・３）グリッド。

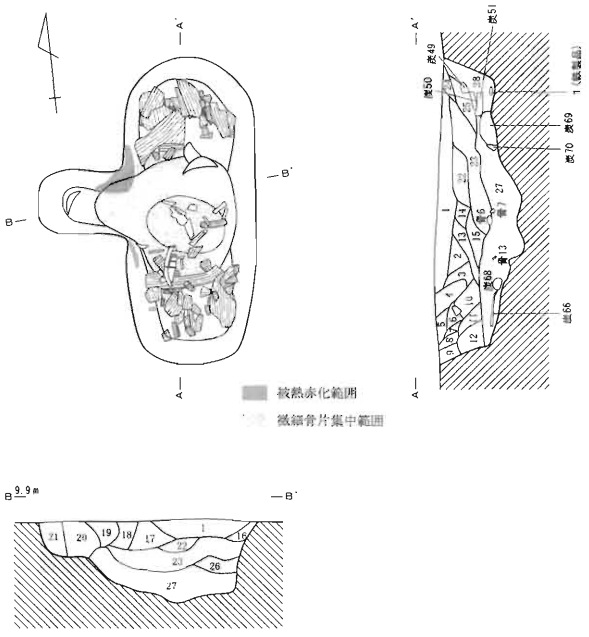
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。430・431Ｄを切る。423Ｄとの新旧関係は不明である。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸5.30m以上／短軸4.45m／深さ82㎝。壁：西壁は60°の角度をもち、東壁は13°の角度で立ち上がる。特に東壁は壁というより、スロープ状を呈し、さらに硬化面を伴っていた。長軸方位：Ｎ－30°－Ｅ。工具痕：北壁・西壁の立ち上がりに特に顕著に観察された。

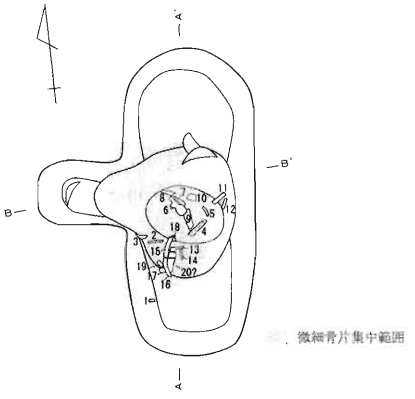
［覆　　土］16層に分層された。

［遺　　物］85Ｈからの土器の流れ込みがあったが、当該期の資料の出土はなかった。

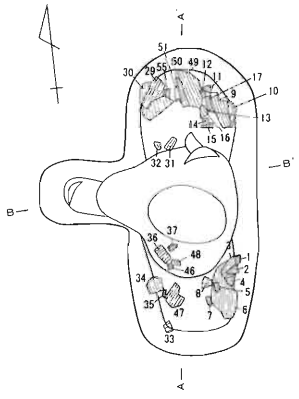
［時　　期］中世以降。



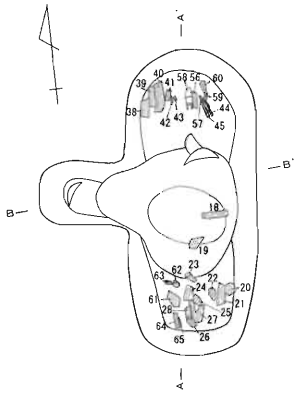
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、炭化材を僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含み、炭化材・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや弱。
4層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を含み、炭化材を僅かに含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を含む。しまり中。
6層　明茶褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
8層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を含む。しまり中。
9層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
11層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・炭化材を僅かに含む。しまりやや弱。
12層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・炭化材を含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまりやや弱。
13層　明茶褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・炭化材を含む。しまり中。
14層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
15層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を含む。しまり中。
16層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
17層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
18層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
19層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
20層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
21層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
22層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を含む。しまり中。
23層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。
24層　暗黄褐色土　ローム粒子、ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
25層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
26層　真黒色土　炭化物粒子・炭化材を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや弱。
27層　黒褐色土　炭化物粒子・炭化材を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
28層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。



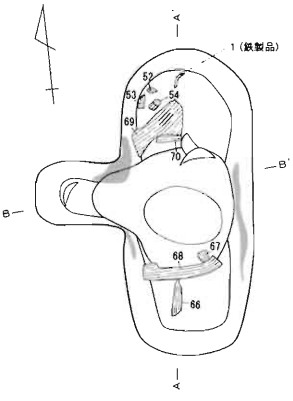
人骨出土状態



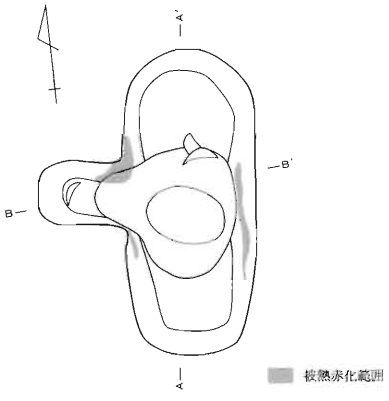
炭化材出土状態（上層）



炭化材出土状態（中層）

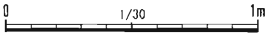


炭化材出土状態（下層）

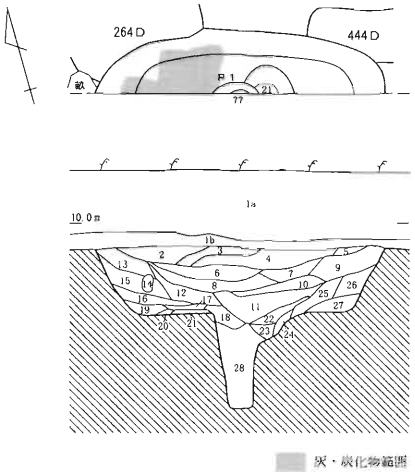


掘り方

268号土坑

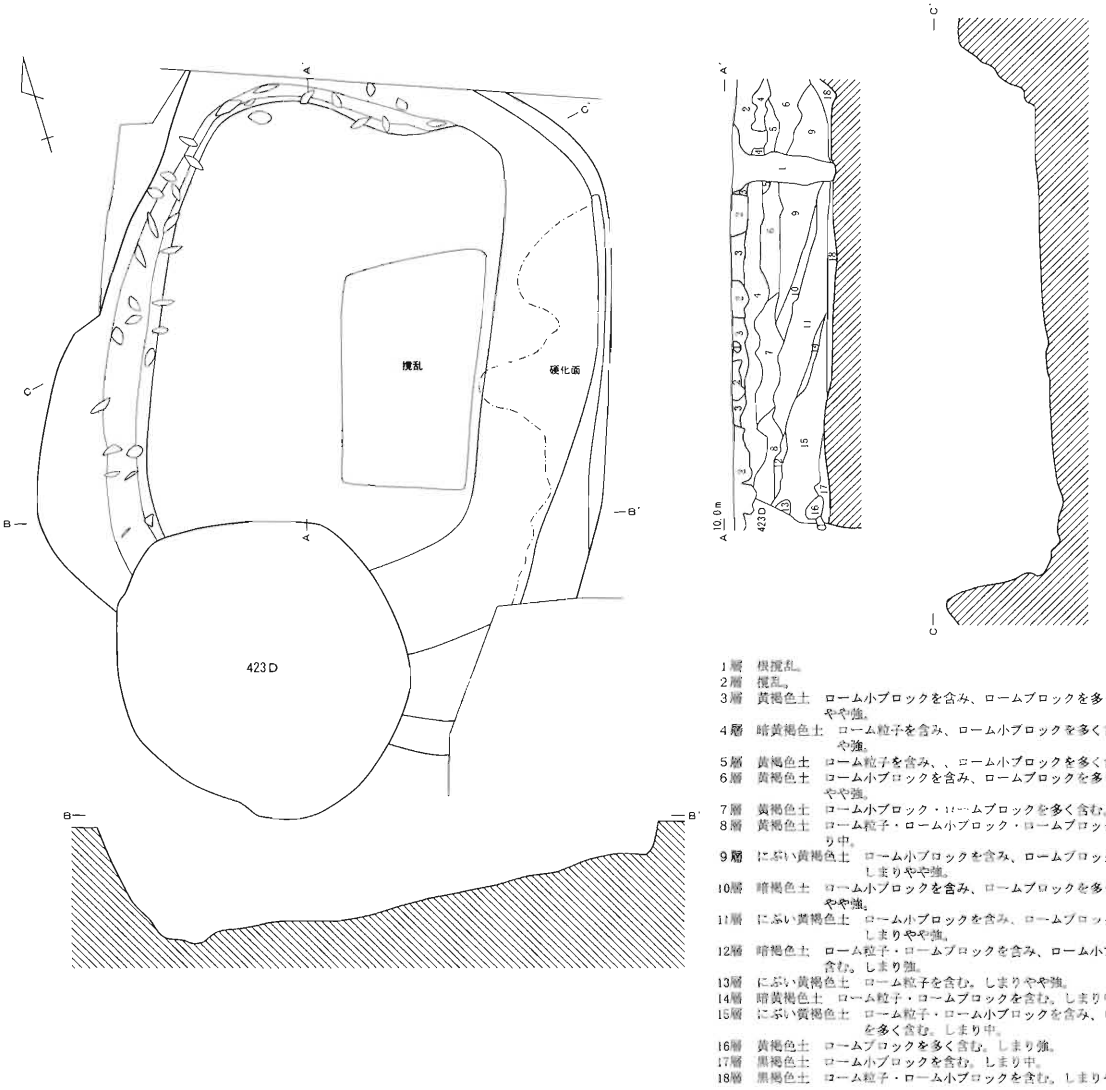


第38図　土坑Ｆ群（1／60）



1a層　表土。
1b層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む（段切状遺構の覆土）。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。まりやや強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
9層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
10層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
13層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
14層　ロームブロック。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
17層　暗赤褐色灰層　炭化物粒子を含む。赤化した灰か？　しまり弱。
18層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子・赤化灰・白色灰を含む。しまり中。
19層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・赤化灰・白色灰を含む。しまり中。
20層　白色灰層　炭化物粒子を含む。しまり弱。
21層　灰白色灰層　ローム粒子・ローム小ブロック・赤化灰・白色灰を含み、炭化物粒子を多く含む。しまり弱。
22層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
23層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。
24層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
25層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
26層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
27層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
28層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。

265号土坑

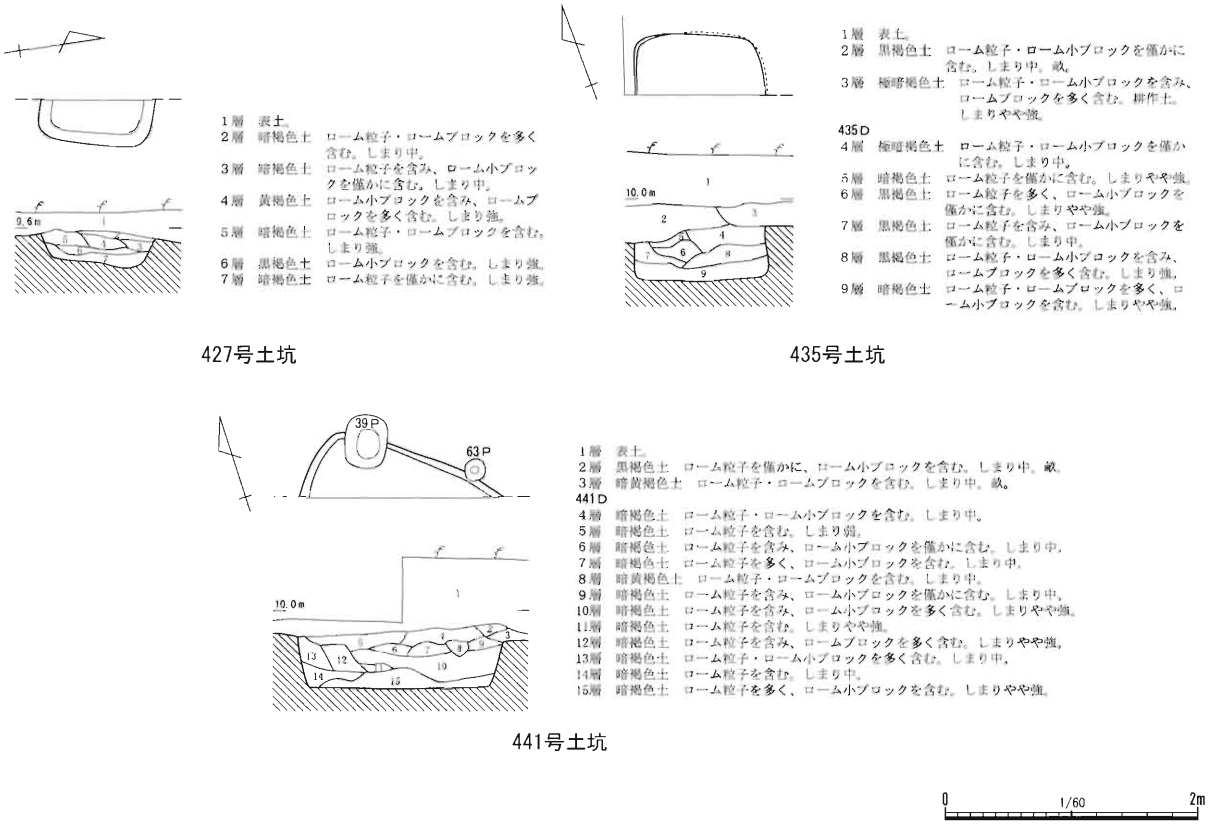


1層　根撹乱。
2層　撹乱。
3層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
5層　黄褐色土　ローム粒子を含み、、ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
6層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
7層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
9層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
10層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
11層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
13層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。
15層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり中。
16層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
17層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。
18層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

422号土坑

0　1/60　2m

第39図　土坑Ｇ群１（1／60）



第40図　土坑Ｇ群２（1／60）

［所　　見］平面形では長方形を呈するが、今回、通常の土坑のタイプでは分類が難しかったため、Ｇ群に分類した。本遺構については、東側の壁面がスロープ状を呈し硬化面を有し、坑底の立ち上がり部分には顕著に工具痕が観察できることから、土坑ではなく、東側に展開する段切状遺構の西端末端構造の形状である可能性がある。

427号土坑

遺　　構（第40図、第15表）

［位　　置］（Ａ－２）グリッド。

［検出状況］段切状遺構外からの検出である。17Ｍを切る。

［構　　造］平面形：長方形と思われるが、全体の平面形は不明である。規模：長軸0.89m／短軸0.40m以上／深さ29㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：Ｎ－14°－Ｅ。

［覆　　土］６層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

435号土坑

遺　　構（第40図、第15表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

遺構名	位　置	平面形		分類	規模(m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時　期
					長軸	短軸	深さ				
260D	(D-3)G	長方形		B群３類	0.52	0.44	0.06	N-45°-W	単層／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
261D	(D-3)G	地下式坑	主体部：方形か	E群	不明	不明	不明	不明	主体部:20層(第35図)／大部分が調査区外のため詳細不明	遺物なし	中世以降
			竪坑部：不明		不明	不明	不明	不明			
262D	(D-2)G	長方形か		B群３類	1.20以上	0.99	0.18	N-23°-E	9層(第31図)／263Dを切る	遺物なし	中世以降
263D	(C・D-2)G	長方形か		B群３類	2.25	1.23	0.21	N-29°-E	9層(第31図)／262D・95Pに切られる	遺物なし	中世以降
264D	(C-3)G	楕円形		C群	1.10	0.97	0.32	N-65°-W	6層(第34図)／265Dを切る	遺物なし	中世以降
265D	(C・D-3)G	不明		G群	不明	不明	0.51	N-75°-W	27層(第39図)／覆土中及び坑底面から炭化物粒子・焼土・白色灰・赤色灰が出土／264・444Dに切られる	遺物なし	中世以降
266D	(C-3)G	不整形		D群	1.25	1.25	0.09	不明	単層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを多く含む暗褐色土／89Pに切られる	遺物なし	中世以降
267D	(C-2)G	長方形か		B群３類	0.96	0.85以上	0.26	N-25°-E	8層(第32図)／西側は調査区外	遺物なし	中世以降
268D	(C-3)G	T字状	主体部：隅丸長方形	F群	1.23	0.53	0.24	N-6°-E	28層(第38図)／火葬土坑	鉄製品１点(雁股矢か)、炭化材、人骨	中世(15c前～中)
			吸気坑:隅丸長方形か		0.35	0.26	0.13	N-78°-W			
422D	(B-2・3)G	長方形		G群	5.30以上	4.45	0.82	N-30°-E	16層(第39図)／超大型の掘り込み状で、段切状遺構の西端部分か／工具痕が顕著／423Dと重複し、430・431Dを切る	遺物なし	中世以降
423D	(B-3)G	地下式坑	主体部：方形	E群	2.32	2.20	2.94	N-65°-W	主体部:42層(第36図)／竪坑部は不明／422Dと重複する	陶器１点(捏鉢)、石製品１点(砥石)	中世(16c中)
			竪坑部：不明		不明	不明	不明	不明			
424D	(B-3)G	地下式坑	主体部：不明	E群	不明	不明	不明	不明	竪坑部:26層(第35図)／大部分が調査区外のため詳細不明／危険を伴うため精査は途中で断念	陶器3点(皿・甕・鉢)、土器１点(焙烙)	中世(15c)
			竪坑部：不明		不明	不明	不明	不明			
425D	(B-3)G	長方形か		B群３類	1.80	0.90以上	0.30	N-26°-E	6層(第32図)／東側は調査区外	遺物なし	中世以降
426D	(B-2)G	長方形		B群２類	2.02	0.51	0.30	N-72°-W	4層(第31図)	中国製磁器１点(碗)	中世(14c)
427D	(A-2)G	不明（長方形か）		G群	0.89	0.40以上	0.29	N-14°-E	6層(第40図)／17Mを切る／西側は調査区外	遺物なし	中世以降
428D	(A-2)G	溝状土坑		B群１類	2.85	0.60	0.23	N-14°-E	単層(第31図)／17Mを切る	遺物なし	中世以降
429D	(B・C-3)G	地下式坑	主体部：長方形	E群	2.80	1.80	3.09	N-87°-E	竪坑部:24層(第37図)／危険を伴うため竪坑部の精査は途中で断念／101Pと重複し、432・434Dを切る	陶器２点(皿・片口鉢)、土器１点(土鍋)、鉄製品１点(釘)	中世(15c中～後半)
			竪坑部：楕円形か		2.04	不明	不明	不明			
430D	(B-2)G	長方形		B群２類	1.34	不明	0.15	N-15°-E	6層(第31図)／422Dに切られ、431Dを切る	遺物なし	中世以降
431D	(B-2・3)G	長方形		B群３類	2.12	1.10	0.58	N-25°-E	13層(第32図)／422・430・432Dに切られる	遺物なし	中世以降
432D	(B-3)G	長方形		B群３類	2.30以上	1.10以上	0.67	N-28°-E	4層(第32図)／429・434Dに切られ、431Dを切る／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
433D	(B-2)G	楕円形		C群	0.83	0.48	0.14	N-50°-W	3層(第34図)	遺物なし	中世以降
434D	(B・C-3)G	長方形		B群３類	1.40以上	1.13	0.65	N-28°-E	17層(第32図)／429Dに切られ、432Dを切る／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
435D	(C-3)G	不明（長方形か）		G群	1.03	0.5以上	0.43	不明	6層(第40図)／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
436D	(C-3)G	長方形		A群２類	1.09	0.98	0.33	N-S	10層(第30図)／438D・47Pを切る	遺物なし	中世以降
437D	(C-3)G	長方形		A群２類	1.21	1.12	0.35	N-80°-W	7層(第30図)／48Pと重複し、7・27P・438Dを切る	遺物なし	中世以降
438D	(C-3)G	長方形		B群３類	1.55	1.09	0.32	N-72°-W	8層(第33図)／436・437D、4・18・19・26・27Pに切られる	遺物なし	中世以降
439D	(C-3)G	方形		A群２類	1.60	1.55	0.38	N-25°-E	23層(第30図)／16・58・61・68Pと重複し、440・442D、70Pを切り、17・21～23・59Pに切られる	遺物なし	中世以降
440D	(C-3)G	長方形		B群３類	1.90以上	不明	0.31	N-55°-W	4層(第33図)／70・71・83Pを切り、439・442D、13～15・28Pに切られる	遺物なし	中世以降
441D	(C-3)G	不明（長方形か）		G群	不明	不明	0.43	不明	12層(第40図)／63Pと重複し、84Pを切り、39Pに切られる	遺物なし	中世以降
442D	(C-3)G	長方形		B群３類	0.90以上	0.85	0.31	N-63°-W	3層(第33図)／439Dに切られ、440・443Dを切る	遺物なし	中世以降
443D	(C-3)G	長方形		B群３類	不明	不明	0.26	不明	3層(第33図)／69Pと重複し、442D・82Pに切られる	遺物なし	中世以降
444D	(D-3)G	長方形		B群２類	1.55	0.45	0.14	N-72°-W	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／265D・93・94Pを切る	遺物なし	中世以降
445D	(D-3)G	長方形		B群３類	1.04	0.88	0.21	N-25°-E	10層(第33図)／448・449Dを切る	遺物なし	中世以降
446D	(D-3)G	不整円形		C群	0.86	0.84	0.17	N-20°-W	3層(第34図)／56Pと重複し、447・449Dを切る	遺物なし	中世以降
447D	(D-3)G	楕円形		C群	0.90以上	不明	0.09	N-80°-W	単層(第34図)／55・74Pと重複し、446・449・450Dに切られる	遺物なし	中世以降
448D	(D-3)G	長方形		B群３類	1.33	0.80	0.23	N-74°-W	5層(第33図)／54Pと重複し、445Dに切られ、449Dを切る	遺物なし	中世以降
449D	(D-3)G	長方形		B群３類	1.40	1.17	0.14	N-5°-E	3層(第33図)／55Pと重複し、445・446・448Dに切られ、447Dを切る	遺物なし	中世以降
450D	(D-3)G	楕円形		C群	1.18	0.67	0.22	N-33°-E	4層(第34図)／74Pと重複し、447Dを切る	遺物なし	中世以降
451D	(D-3)G	楕円形か		C群	不明	不明	0.11	不明	単層(第34図)／東側は調査区外	遺物なし	中世以降

第15表　中世以降の土坑一覧

［検出状況］段切状遺構内からの検出である。南側は調査区外にあるものと思われる。
［構　　造］平面形：長方形と思われるが、全体の平面形は不明である。規模：長軸 1.03m／短軸不明／深さ 43㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：不明。
［覆　　土］６層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

441 号土坑

遺　　構（第 40 図、第 15 表）
［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。
［検出状況］段切状遺構内からの検出である。南側は調査区外にあるものと思われる。63P と重複し、84P を切り、39P に切られる。
［構　　造］平面形：長方形と思われるが、全体の平面形は不明である。規模：長軸不明／短軸不明／深さ 43㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：不明。
［覆　　土］12 層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］中世以降。

（４）井戸跡

14 号井戸跡

遺　　構（第 41 図）
［位　　置］（Ａ－２）グリッド。
［検出状況］段切状遺構外からの検出である。西側は調査区外にあると思われる。
［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸 0.88 ｍ／短軸不明。危険を伴うため、深さ 100㎝までのみの精査で終了した。壁はほぼ垂直に立ち上がる。足掛け穴は確認できなかった。
［覆　　土］図示できなかった。
［遺　　物］陶器２点（碗）・瓦１点が出土した。
［時　　期］近世以降（18 世紀中～後半）
遺　　物（図版 18－２、第 16 表）
［陶　　器］（図版 18－２－１・２、第 16 表）
　１・２は陶器碗で、１は瀬戸・美濃系で、２は唐津の刷毛目碗である。
［　瓦　］（図版 18－２－３）
　３は中世瓦の小破片である。現存長 5.0㎝・幅 4.8㎝・厚さ 2.2㎝・重さ 56.5 ｇ。

（５）溝　跡

17号溝跡

遺　　構（第42図）

［位　　置］（Ａ－２・３）グリッド。

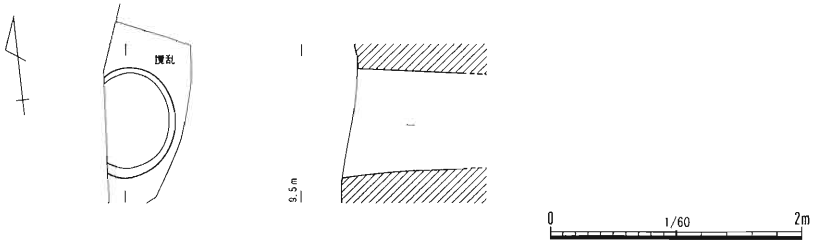
［検出状況］段切状遺構外からの検出である。427・428Ｄに切られる。

［構　　造］規模：検出長6.0ｍ／検出最大上幅1.8ｍ／下幅８～15㎝／深さ42～50㎝。溝底は凹凸で、平坦ではない。断面形は開口部がダラダラと浅く、中央はそこから30㎝程の幅で、20㎝程深く下がっている。走向方位：ほぼＮ－Ｓ。

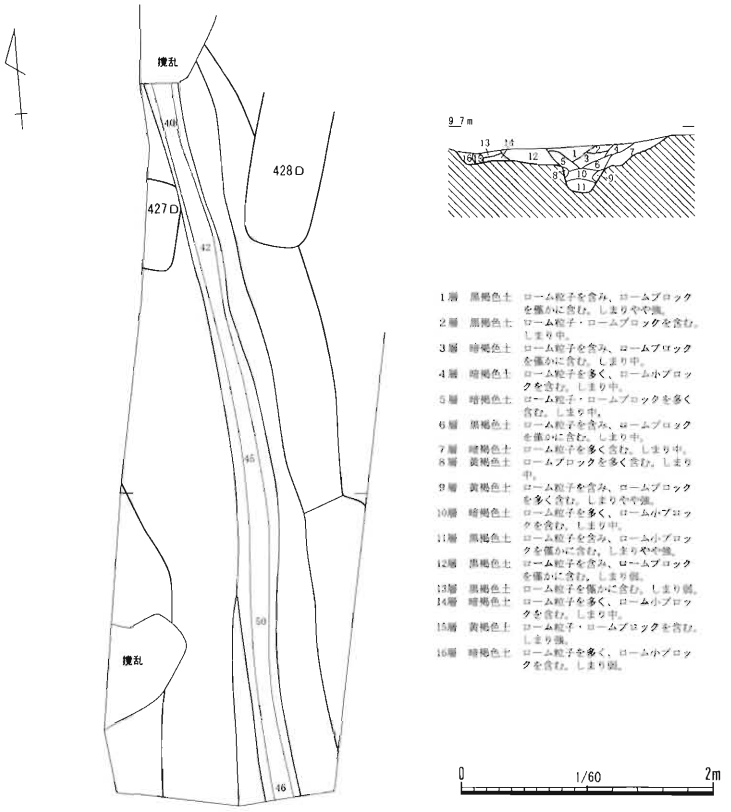
［覆　　土］16層に分層された。

［遺　　物］陶器１点（擂鉢）、石製品（砥石）１点が出土した。

［時　　期］中世（15世紀中）。

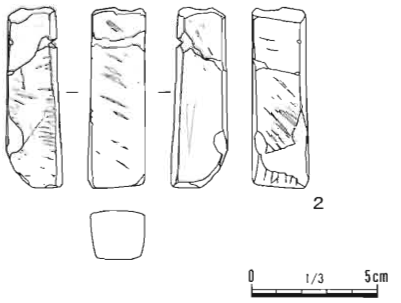


第41図　14号井戸跡（1／60）



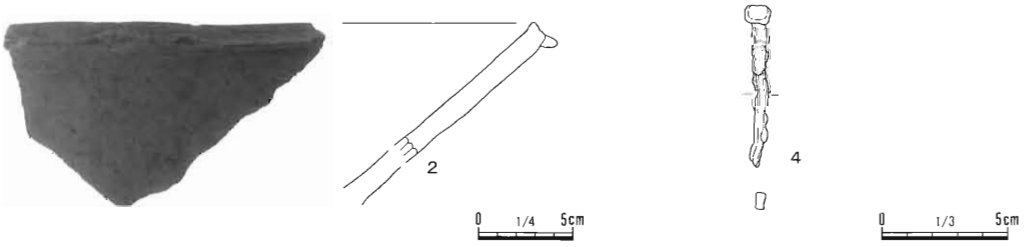
第42図　17$\frac{1}{2}\frac{3}{3}$溝跡（1／60）

268号土坑出土遺物



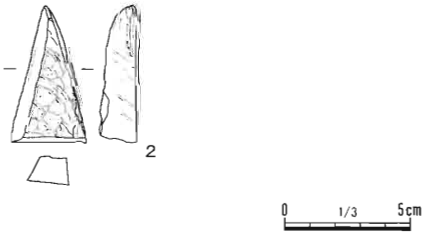
423号土坑出土遺物

424号土坑出土遺物



429号土坑出土遺物

第43図　土坑出土遺物（1／3・1／4）



第44図　17号溝跡出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版18-1-1	423 D	陶器	捏鉢	高 [7.0]	口唇部は面取り／口縁部は鍔状／色調は暗茶褐色／胎土に石英・白色砂粒・小石を含む／外面に指頭成形痕あり、内面はナデ／口縁部～体部上半破片	常滑	中世 (16c中)
第43図1 図版18-1-1	424 D	陶器	皿	高 2.4 口 10.3 底 5.5	口縁部は外傾する／平底／口縁部内外面に灰釉／底部に回転糸切り痕が残る／胎土の色調は黄白色／胎土に黒色粒子・白色砂粒を含む／遺存度80％	瀬戸	中世 (15c中)
第43図2 図版18-1-2	424 D	陶器	甕	高 [2.4] 底 (11.3)	平底／色調は黄白色／胎土に石英・砂粒・小石を含む／外面に指頭成形痕あり、内面はナデ／底部に静止糸切り痕あり／胴部下半～底部30％	瀬戸	中世 (15c)
図版18-1-3	424 D	陶器	鉢	厚 1.3	胎土の色調は暗橙色／胎土に砂粒を僅かに含む／胴部小破片	在地系	中世 (15c)
図版18-1-4	424 D	土器	焙烙	厚 0.5	内耳あり／色調は黒色、胎土の色調は暗灰褐色／胎土に白色砂粒を含む／外面は剥離で欠損している／体部小破片	在地系	不明
図版18-1-1	426 D	磁器	小碗	高 [3.2]	白磁／胎土の色調は白色／胎土は精錬されている／体部破片	中国製	中世 (14c)
図版18-1-1	429 D	陶器	皿	厚 0.6	口縁部は外傾する／口縁部内外面に灰釉／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／口縁部小破片	瀬戸	中世 (15c中)
第43図2 図版18-1-2	429 D	陶器	片口鉢	高 [14.1]	口唇部は面取り／口縁部は鍔状／色調は赤褐色／胎土に石英・白色砂粒・小石を含む／外面に指頭成形痕あり、内面はナデ／口縁部～体部下半破片	常滑	中世 (15c後半)
図版18-1-3	429 D	土器	土鍋	厚 0.8	胎土の色調は暗灰褐色／胎土に石英・白色砂粒・小石を含む／内外面ナデ／外面に煤付着／胴部中位破片	在地系	中世 (15c中)
図版18-2-1	14 W	陶器	碗	高 [4.5]	口縁部は僅かに内湾する／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／口縁部～体部下半破片	瀬戸・美濃	近世 (18c後半)
図版18-2-2	14 W	陶器	碗	厚 0.3	刷毛目碗／口縁部は内湾する／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／口縁部～体部中位小破片	唐津	近世 (18c中)
図版18-3-1	17 M	陶器	擂鉢	高 [3.7]	口縁部は有段状／内外面に鉄釉／櫛目６本一単位／胎土の色調は黄白色／胎土は精錬されている／口縁部～体部上半破片	瀬戸	中世 (15c中)

第16表　中世以降の土坑・井戸跡・溝跡出土陶磁器・土器一覧

遺　物（第44図２、図版18－３、第16表）

[陶　器]（図版18－３－１、第16表）

１は瀬戸の擂鉢の破片である。時期は15世紀中である。

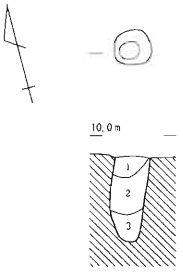
[石 製 品]（第44図２、図版18－３－２）

２は砥石である。現存長5.6㎝・現存幅3.0㎝・厚さ2.0㎝・重さ24.6ｇ。平面は三角形、断面は台形である。使用面は右側面である。石材は凝灰岩である。

（６）ピット（第45～49図、第17表）

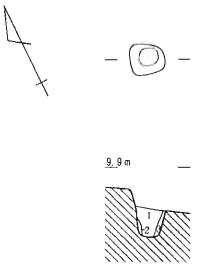
調査区域内から検出されたピットは、全部で103本と数多くのピットが存在するが、45・102Ｐの縄文時代の２本を除き、101本が中世以降のピットに比定される。さらに今回検出された段切状遺構に関連するものであれば、中世のピットと考えられるであろう。

ここでは、ピットについての記述はしなかったが、ピットの基本内容は、縄文時代の45・102Ｐを含め、すべてのピットについて、第17表に示した。



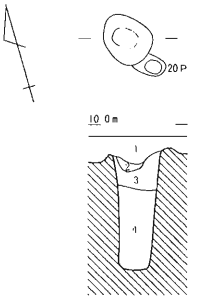
1層　極暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。

１号ピット



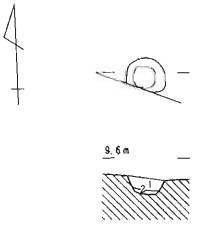
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。

４号ピット



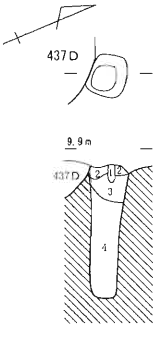
1層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。岩。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。岩。
3層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
4層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり中。

５号ピット



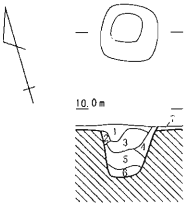
1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
2層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや強。

６号ピット



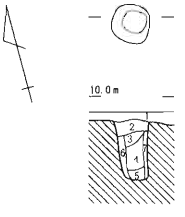
1層　根撹乱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

７号ピット



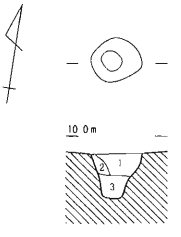
1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。岩。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。段切状遺構の覆土。

８号ピット



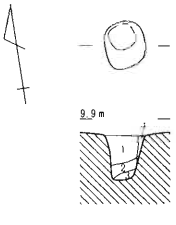
1層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。段切状遺構の覆土。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。

９号ピット



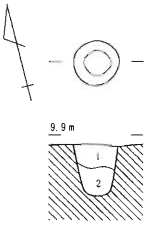
1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり中。

10号ピット



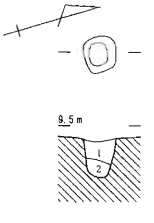
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
3層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

11号ピット



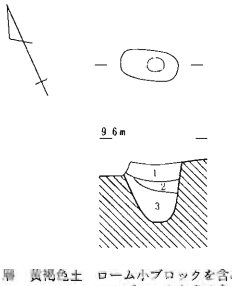
1層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

12号ピット



1層　極暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

16号ピット

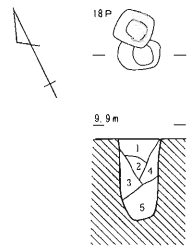


1層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを多く。しまり中。

17号ピット

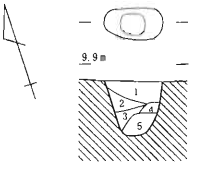
0　1/60　2m

第45図　ピット１（1／60）



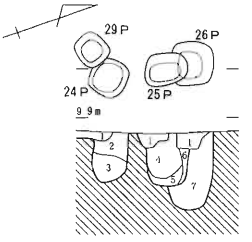
1層　暗褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。

19号ピット



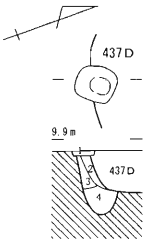
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含み、ロームブロックを含む。しまり中。
2層　暗黄色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。

23号ピット



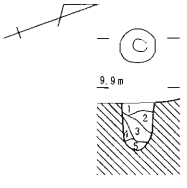
1層　撹乱。
24P
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
25P
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
6層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
26P
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

24～26号ピット



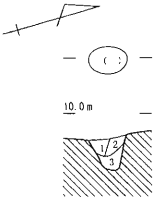
1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

27号ピット



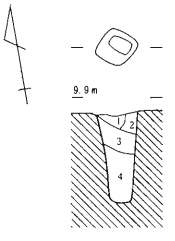
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

28号ピット



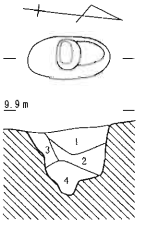
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

31号ピット



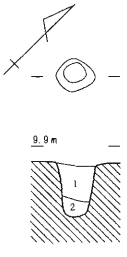
1層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり中。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

32号ピット



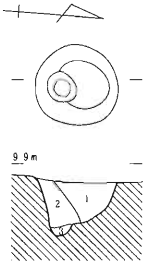
1層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。

33号ピット



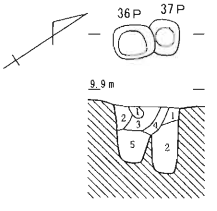
1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

34号ピット



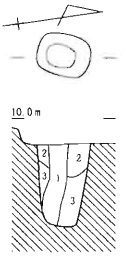
1層　暗褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　極暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

35号ピット



36P
1層　ロームブロック。
2層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ロームブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
37P
1層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

36・37号ピット

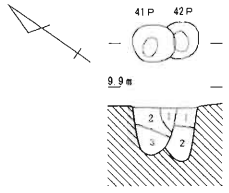


1層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを僅かに、ロームブロックを含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに、含む。しまり弱。

39号ピット

0　1/60　2m

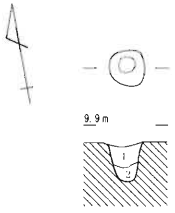
第46図　ピット２（1／60）



41P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

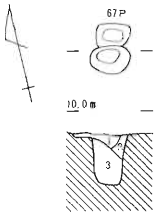
42P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

41・42号ピット



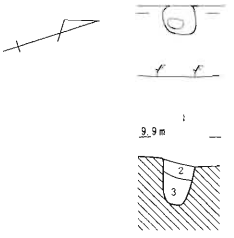
1層　極暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

43号ピット



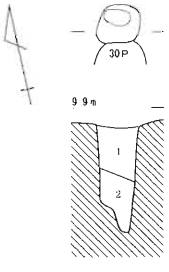
1層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。畝。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり中。

46号ピット



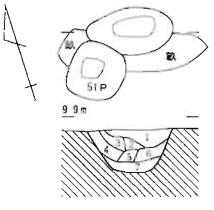
1層　表土及び撹乱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。

49号ピット



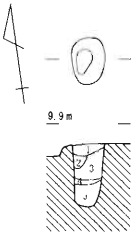
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

50号ピット



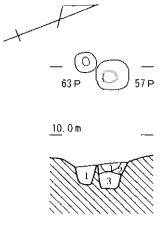
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
6層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。

52号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
2層　ロームブロック。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

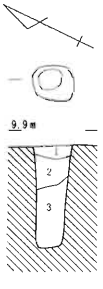
53号ピット



57P
1層　ロームブロック。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

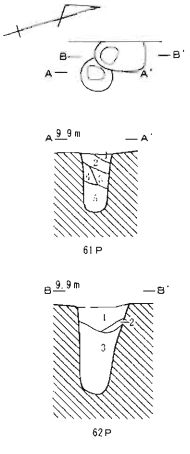
63P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

57・63号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック含む。しまり中。

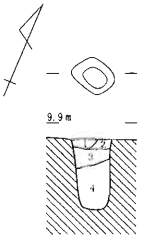
60号ピット



A－A'　61P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多くを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや弱。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

B－B'　62P
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多くを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。

61・62号ピット

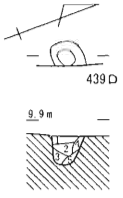


1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

66号ピット

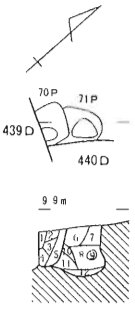
0　1/60　2m

第47図　ピット３（1／60）



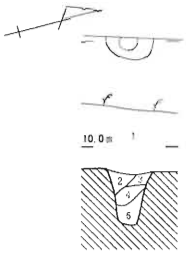
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。

68号ピット



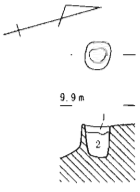
70P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多くを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
71P
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
8層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
9層　ロームブロック。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。

70・71号ピット



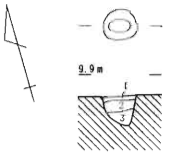
1層　表土。
2層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多くを含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。

72号ピット



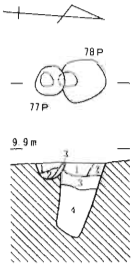
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　極暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

75号ピット



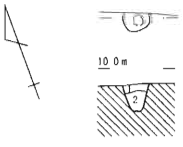
1層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまり中。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。

76号ピット



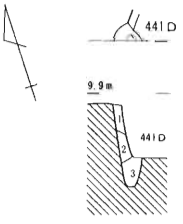
77P
1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を多く含む。しまりやや強。
3層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
78P
1層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ロームブロックを多く含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。

77・78号ピット



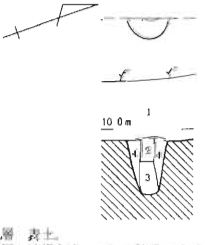
1層　極暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。

80号ピット



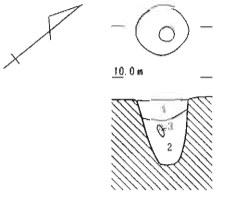
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。

84号ピット



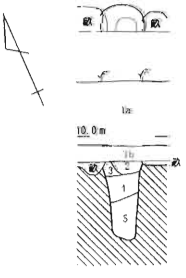
1層　表土。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。

86号ピット



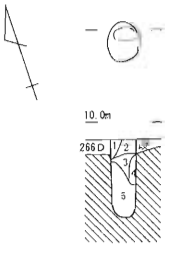
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　ロームブロック。

87号ピット



1a層　表土。
1b層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。表土。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

88号ピット

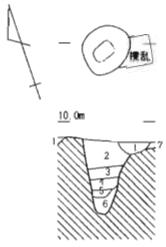


1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

89号ピット

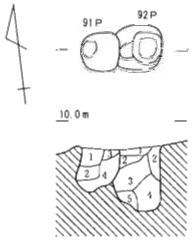
0　1/60　2m

第48図　ピット４（1／60）



1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　段階状遺構覆土。

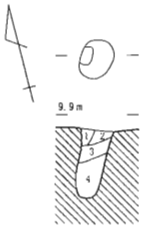
90号ピット



91P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。

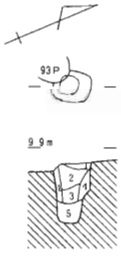
92P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

91・92号ピット



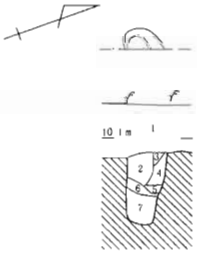
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

93号ピット



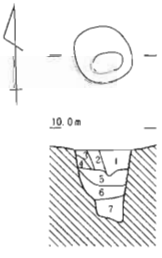
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

94号ピット



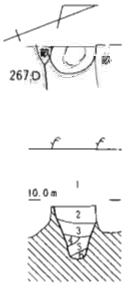
1層　表土。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　ロームブロック。
6層　暗黄色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

95号ピット



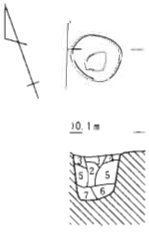
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

96号ピット



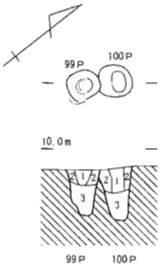
1層　表土。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

97号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

98号ピット



99P
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

100P
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

99・100号ピット

0　1/60　2m

第49図　ピット５（1／60）

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1 P	(B-2)G	隅丸方形	29	27	71.5	3層（第45図）	なし	中世以降
2 P	(B-2)G	隅丸方形	34	23	37	土層注記なし	なし	中世以降
3 P	(C-2)G	隅丸長方形	28	21	35	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	なし	中世以降
4 P	(C-3)G	隅丸方形	28	25	54	3層（第45図）／438Dを切る	なし	中世以降
5 P	(C-3)G	隅丸長方形	42	35	96	2層（第45図）／20Pを切る	なし	中世以降
6 P	(B-3)G	隅丸方形	31	不明	16.5	2層（第45図）	なし	中世以降
7 P	(C-3)G	隅丸長方形	35	32	108.5	3層（第45図）／437Dに切られる	なし	中世以降
8 P	(C-3)G	隅丸方形	45	45	38	5層（第45図）	なし	中世以降
9 P	(C-3)G	隅丸長方形	30	30	48	6層（第45図）	スラッグ1点／図示できなかった	中世以降
10 P	(C-3)G	隅丸長方形	38	34	39	3層（第45図）	なし	中世以降
11 P	(C-3)G	隅丸方形	37	33	42.5	4層（第45図）	なし	中世以降
12 P	(C-3)G	隅丸方形	径36		43	2層（第45図）	なし	中世以降
13 P	(C-3)G	隅丸方形	20	20	12.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／440Dを切る	なし	中世以降
14 P	(C-3)G	隅丸方形	27	26	16	単層／ローム小ブロックを含み、ローム粒子を多く含む暗褐色土／しまり中／440Dを切る	なし	中世以降
15 P	(C-3)G	隅丸方形	22	20	12	単層／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／440Dを切る	なし	中世以降
16 P	(C-3)G	隅丸長方形	29	26	35	2層（第45図）／439Dと重複	なし	中世以降
17 P	(C-3)G	隅丸長方形	46	24	50	3層（第45図）／439D・59Pと重複	なし	中世以降
18 P	(C-3)G	隅丸方形	北30	28	75.5	土層注記なし／438D・19Pを切る	なし	中世以降
19 P	(C-3)G	隅丸方形	33	不明	66.5	5層（第46図）／18Pに切られる	なし	中世以降
20 P	(C-3)G	隅丸長方形	不明	16	56.5	単層／ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土／5Pに切られる	なし	中世以降
21 P	(C-3)G	隅丸長方形	不明	不明	62.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む暗黄褐色土／22・23Pに切られる	なし	中世以降
22 P	(C-3)G	隅丸長方形	不明	29	83.5	3層／439Dと重複し、23Pに切られ、21・59Pを切る	なし	中世以降
23 P	(C-3)G	隅丸長方形	47	26	44	5層（第46図）／21・22・58Pを切る	なし	中世以降
24 P	(C-3)G	隅丸方形	30	30	37.5	2層（第46図）／29Pに切られる	なし	中世以降
25 P	(C-3)G	隅丸長方形	34	27	42.5	3層（第46図）／26Pを切る	なし	中世以降
26 P	(C-3)G	隅丸長方形	35	33	63	単層（第46図）／25Pに切られ、438Dを切る	なし	中世以降
27 P	(C-3)G	隅丸方形	32	29	51.5	3層（第46図）／437Dに切られ、438Dを切る	なし	中世以降
28 P	(C-3)G	隅丸方形	径29		39.5	5層（第46図）／440Dを切る	なし	中世以降
29 P	(C-3)G	隅丸方形	26	24	19	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／24Pを切る	なし	中世以降
30 P	(C-3)G	隅丸長方形	47	42	76	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土を基調／50Pと重複する	なし	中世以降
31 P	(C-3)G	隅丸方形	31	22	30	3層（第46図）	なし	中世以降
32 P	(C-3)G	隅丸方形	28	27	73	4層（第46図）	なし	中世以降
33 P	(C-3)G	隅丸長方形	65	33	56.5	4層（第46図）	なし	中世以降
34 P	(C-3)G	隅丸方形	27	26	43	2層（第46図）	なし	中世以降
35 P	(C-3)G	隅丸方形	径65		49	3層（第46図）	なし	中世以降
36 P	(C-3)G	隅丸長方形	33	27	53	5層（第46図）／37Pを切る	なし	中世以降

第17表　ピット一覧（1）

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
37 P	(C-3)G	隅丸長方形	28	25	57	2層（第46図）／36Pに切られる	なし	中世以降
38 P	(C-3)G	隅丸長方形	35	22	35.5	単層／ローム小ブロック・ロームブロックを含む黄褐色土	なし	中世以降
39 P	(C-3)G	隅丸長方形	43	34	66	3層（第46図）／441Dを切る	なし	中世以降
40 P	(C-3)G	隅丸方形	23	20	42.5	単層／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	なし	中世以降
41 P	(C-3)G	隅丸方形	34	30	44.5	3層（第47図）／42Pを切る	なし	中世以降
42 P	(C-3)G	隅丸方形	30	不明	47.5	2層（第47図）／41Pに切られる	なし	中世以降
43 P	(C-3)G	隅丸方形	28	27	32	2層（第47図）	なし	中世以降
44 P	(D-3)G	隅丸長方形	23	17	15	単層／ローム粒子、ローム小ブロックを含む暗褐色土	なし	中世以降
45 P	(C-3)G	隅丸方形	34	31	64.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土	土器１点	縄文前期末～中期初頭
46 P	(C-3)G	隅丸長方形	32	23	41	2層（第47図）／67Pを切る	なし	中世以降
47 P	(C-3)G	不明	不明	不明	20	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／436Dに切られる	なし	中世以降
48 P	(C-3)G	隅丸方形	25	23	37.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土／437Dと重複する	なし	中世以降
49 P	(C-3)G	隅丸長方形か	不明	不明	37	2層（第47図）	なし	中世以降
50 P	(C-3)G	隅丸方形	33	32	93.5	2層（第47図）／30Pと重複する	なし	中世以降
51 P	(C-3)G	隅丸方形	45	44	116	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土／52Pと重複する	なし	中世以降
52 P	(C-3)G	隅丸長方形	69	38	30	7層（第47図）／51Pと重複する	なし	中世以降
53 P	(C-3)G	隅丸長方形	37	26	50	5層（第47図）	なし	中世以降
54 P	(D-3)G	隅丸長方形	30	24	24.5	単層／ローム粒子、ローム小ブロックを含む黒褐色土／448Dと重複する	なし	中世以降
55 P	(D-3)G	隅丸方形	24	21	38.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／447・449Dと重複する	なし	中世以降
56 P	(D-3)G	隅丸方形	34	30	33	単層／ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含み、炭化物粒子・焼土小ブロックを僅かに含む黒褐色土／446Dと重複する	なし	中世以降
57 P	(C-3)G	隅丸方形	26	24	39	3層（第47図）	なし	中世以降
58 P	(C-3)G	隅丸方形	23	不明	42	土層注記なし／439Dと重複し、23Pに切られる	なし	中世以降
59 P	(C-3)G	隅丸方形か	不明	20	67	土層注記なし／439D・17Pと重複し、22Pに切られる	なし	中世以降
60 P	(C-3)G	隅丸方形	33	28	83.5	3層（第47図）	なし	中世以降
61 P	(C-3)G	隅丸方形	27	25	49	5層（第47図）／439Dと重複し、62Pに切られる	なし	中世以降
62 P	(C-3)G	隅丸長方形	40	24	71	3層（第47図）／61Pを切る	なし	中世以降
63 P	(C-3)G	隅丸方形	17	16	17.5	単層（第47図）／441Dと重複する	なし	中世以降
64 P	(C-3)G	隅丸方形	23	21	19	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黒褐色土	なし	中世以降
65 P	(C-3)G	隅丸方形	24	20	27	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
66 P	(C-3)G	隅丸長方形	31	25	58	4層（第47図）	なし	中世以降
67 P	(C-3)G	隅丸方形	北28	19	37	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土／46 Pに切られる	なし	中世以降
68 P	(C-3)G	隅丸方形	25	24	26	5層（第48図）／439Dと重複する	なし	中世以降
69 P	(C-3)G	隅丸方形	25	22	91.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含み、ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土／443Dと重複する	なし	中世以降

第17表　ピット一覧（２）

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
70 P	(C-3)G	隅丸方形	32	不明	33.5	5層（第48図）／71Pを切り、439・440Dに切られる	なし	中世以降
71 P	(C-3)G	隅丸方形	不明	不明	45	7層（第48図）／440D・70Pに切られる	なし	中世以降
72 P	(C-3)G	隅丸方形か	37	不明	43	4層（第48図）／西側は調査区外	なし	中世以降
73 P	(C-3)G	隅丸方形	20	17	24	単層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土	なし	中世以降
74 P	(D-3)G	隅丸方形	27	20	35.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土／447・450Dと重複する	なし	中世以降
75 P	(C-3)G	隅丸方形	22	20	26	2層（第48図）	なし	中世以降
76 P	(D-3)G	隅丸方形	27	24	24	3層（第48図）	なし	中世以降
77 P	(D-3)G	隅丸方形	23	23	15.5	3層（第48図）／78 Pを切る	なし	中世以降
78 P	(D-3)G	隅丸長方形	35	33	67.5	4層（第48図）／77 Pに切られる	なし	中世以降
79 P	(D-3)G	不明	不明	不明	15.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含み、ロームブロックを含む暗黄褐色土／大部分が北側調査区外	なし	中世以降
80 P	(D-3)G	隅丸方形か	20	不明	21.5	2層（第48図）／北側が調査区外	なし	中世以降
81 P	(C-3)G	隅丸方形か	不明	不明	18.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／南側が調査区外	なし	中世以降
82 P	(C-3)G	不明	不明	不明	不明	単層／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／大部分が東側調査区外／443Dを切る	なし	中世以降
83 P	(C-3)G	隅丸方形か	不明	26	34.5	単層／ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土／南側が調査区外／440Dを切る	なし	中世以降
84 P	(C-3)G	隅丸方形か	不明	不明	68	3層（第48図）／南側が調査区外／441Dに切られる	なし	中世以降
85 P	(D-3)G	隅丸長方形か	不明	不明	74.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土／北側が調査区外	なし	中世以降
86 P	(C-2)G	隅丸方形か	不明	不明	40.5	3層（第48図）／西側が調査区外	なし	中世以降
87 P	(D-3)G	隅丸方形	39	39	53	3層（第48図）	なし	中世以降
88 P	(C-3)G	不明	不明	不明	62	4層（第48図）／大部分が南側調査区外	なし	中世以降
89 P	(C-3)G	隅丸長方形	31	25	61	5層（第48図）／266Dを切る	なし	中世以降
90 P	(C-3)G	隅丸方形	35	30	57.5	5層（第49図）	土器1点(焙烙)/図示できなかった	中世以降
91 P	(D-3)G	隅丸方形	31	30	38	4層（第49図）／92Pを切る	なし	中世以降
92 P	(D-3)G	隅丸方形	37	36	52	5層（第49図）／91Pに切られる	なし	中世以降
93 P	(D-3)G	隅丸方形	32	25	54.5	4層（第49図）／444Dに切られ、94Pを切る	なし	中世以降
94 P	(D-3)G	隅丸方形	30	25	51	5層（第49図）／444D・93Pに切られる	なし	中世以降
95 P	(D-2)G	隅丸方形か	不明	不明	53.5	6層（第49図）／東側が調査区外／263Dを切る	なし	中世以降
96 P	(C-2・3)G	隅丸方形	46	44	63.5	7層（第49図）	なし	中世以降
97 P	(C-2)G	隅丸方形か	36	不明	43.5	5層（第49図）／西側が調査区外	なし	中世以降
98 P	(C-2)G	隅丸方形	34	32	50	7層（第49図）	なし	中世以降
99 P	(C-3)G	隅丸方形	26	24	38.5	3層（第49図）／100Pを切る	なし	中世以降
100 P	(C・D-3)G	隅丸方形	27	25	45.5	3層（第49図）／99Pに切られる	なし	中世以降
101 P	(C-3)G	隅丸方形	30	24	20.5	単層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土／429Dと重複する	なし	中世以降
102 P	(C-3)G	隅丸方形	29	28	26	4層（第27図）	なし	縄文
103 P	(C-3)G	隅丸方形	34	30	85	単層／ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗黄褐色土	なし	中世以降

第17表　ピット一覧（3）

第６節　遺構外出土遺物

ここでは、表土や撹乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。さらに今回は、段切状遺構内において検出される遺構以外で出土した遺物についても遺構外出土遺物と扱ったが、特に中世以降の遺物については、多分に段切状遺構に伴う遺物であるかもしれない。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物、平安時代の土器、中世以降の遺物に分類する。

（１）縄文時代の遺物（第50図１～34、第51図35～41、図版19－１～41、第18・19表）

［石　　器］（第50図１～４、図版19－１～４、第18表）

１は石鏃、２はスクレイパー、３は剥片、４は石皿の破片である。

［土　　器］（第50図５～34、第51図35～41、図版19－５～41、第19表）

５～11は早期後葉の条痕文系土器である。いずれも破片資料で、明確に型式を判断する特徴をもつものはない。しかし、８～11は胎土に繊維と白色針状物質を含む。打越式もしくは下吉井式と思われる。

12～23は前期の土器である。そのうち23は前期後葉の諸磯ｃ式であるが、その他は前～中葉の羽状縄文系土器である。12は折り返し状の口縁部をもち、14～19は貝殻背圧痕をもつ花積下層式である。

24～36は中期の土器で、24・25は初頭の五領ヶ台式、26・27は前～中葉の阿玉台式、28は中葉の土器と思われるが型式の比定には至っていない。29～36は加曽利Ｅ式である。

37～41は後期の土器で、37・38は中葉の加曽利Ｂ式、その他は前葉の称名寺式もしくは堀之内式と思われる。

（２）平安時代の土器（第51図42・43、図版19－42・43）

42は須恵器坏形土器である。現存高1.7㎝・推定底径5.2㎝。ロクロ回転は右回転である。色調は灰色を呈し、胎土に白色砂粒を含む。底部に回転糸切り痕を残す。体部下半から底部を40％遺存する。424Ｄからの出土である。東金子窯製品と思われる。

43は須恵器甕形土器の肩部破片である。内面は当て道具痕が顕著に残っているが、その後ナデられている。外面は回転ナデがていねいに施される。頸部との接合部には粘土が剥落した様子が観察できる。色調は暗灰色を呈し、胎土に白色砂粒・小石を含む。東金子窯製品と思われる。

（３）中世以降の遺物第51図47・48、図版19－44～49、第20表）

［陶　　器］（図版19－44～46、第20表）

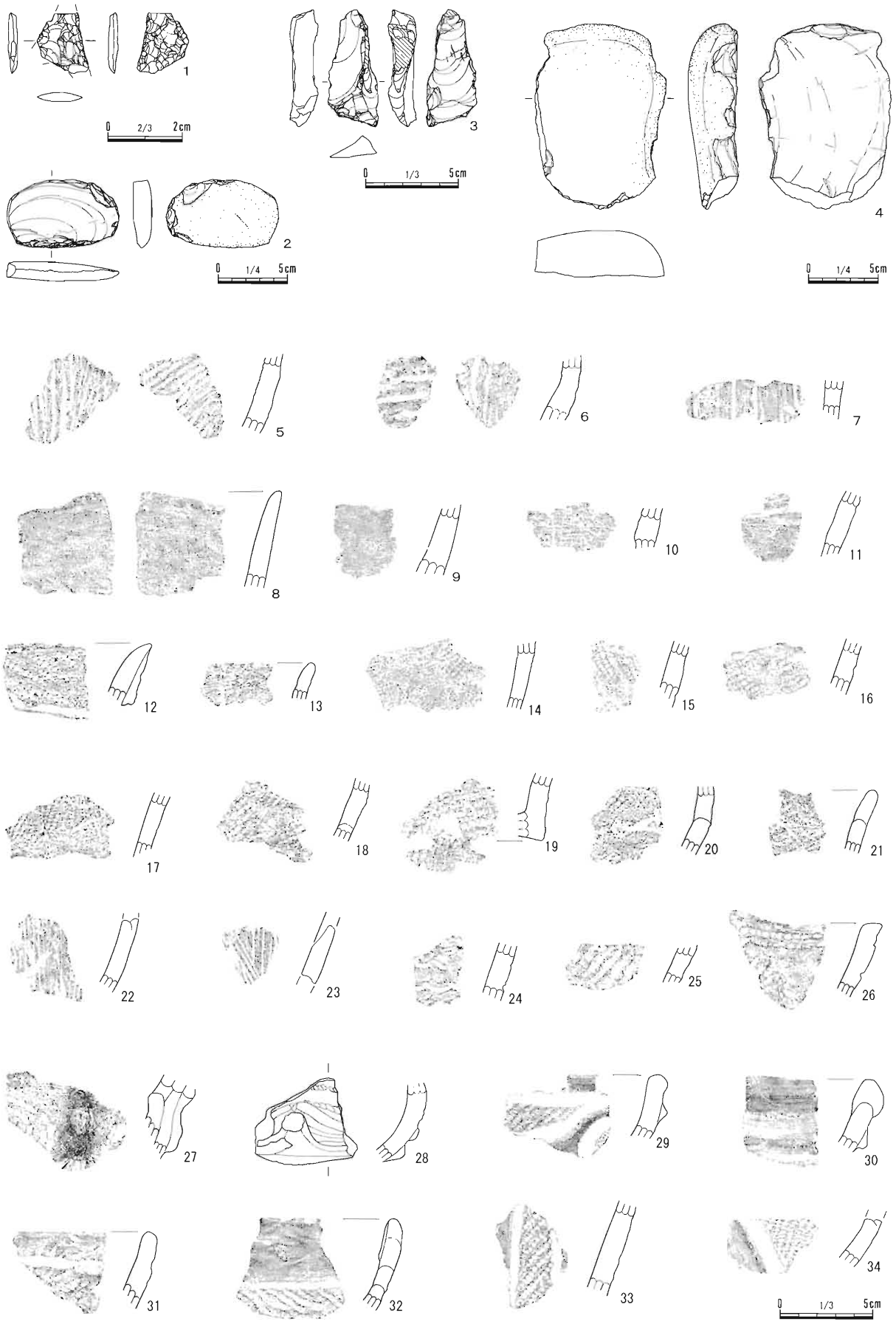
44は瀬戸の擂鉢、45は常滑の甕、46は在地系の甕である。

［石 製 品］（第51図47）

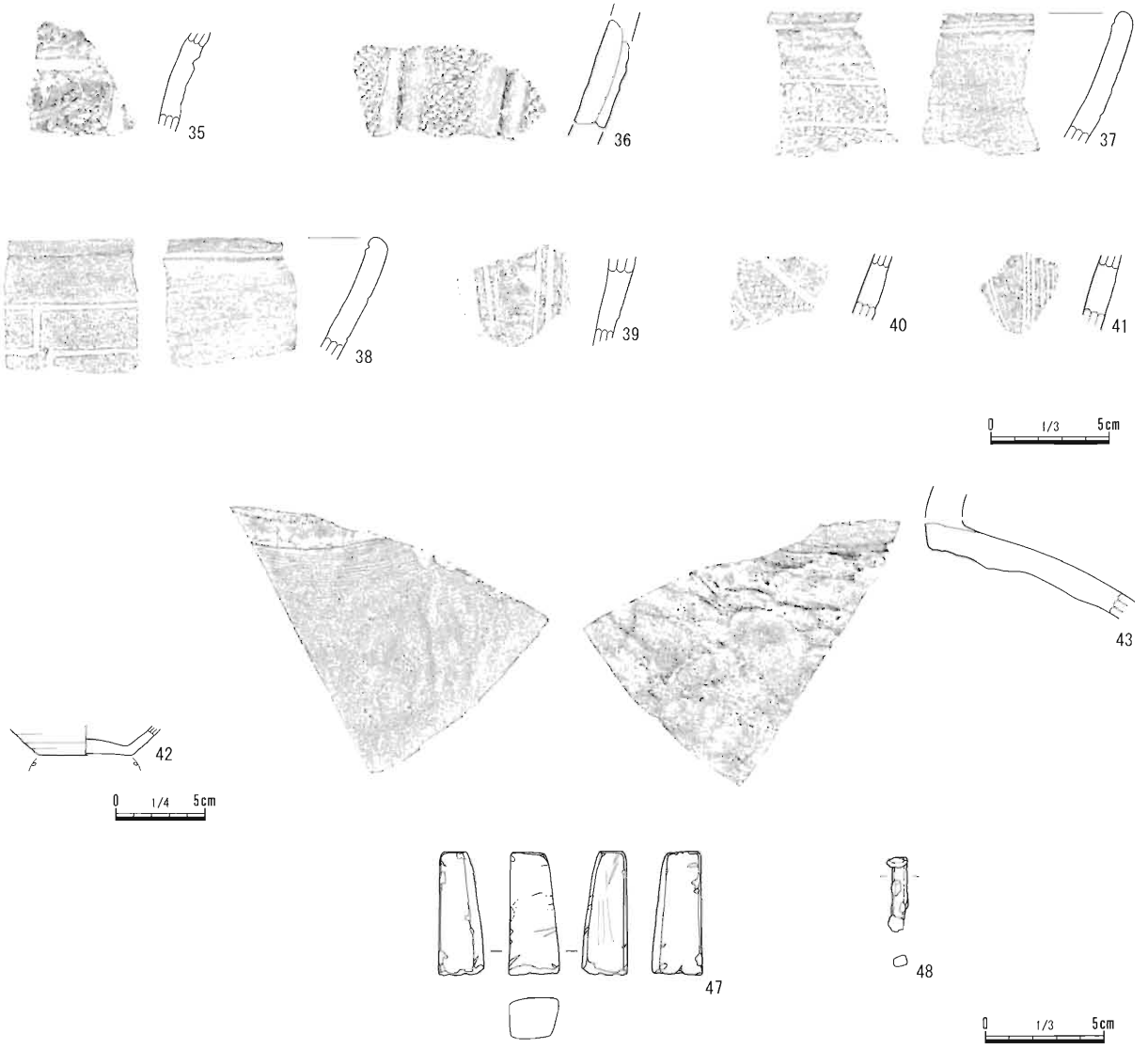
47は砥石である。長さ5.3㎝・幅2.1㎝・厚さ1.9㎝・重さ28.2ｇ。下端は欠損か。上・下端を除く４面が使用面である。（Ｃ－３）グリッドからの出土である。

［鉄 製 品］（第51図48）

48は釘である。長さ3.2㎝・幅0.8㎝・厚さ0.5㎝・重さ1.9ｇ。断面は長方形である。（Ｂ・Ｃ－３）



第50図　遺構外出土遺物１（２／３・１／４・１／３）



第51図　遺構外出土遺物２（1／3・1／4）

グリッドからの出土である。

[　瓦　]（図版19－49）

49は中世瓦である。長さ6.4㎝・幅5.5㎝・厚さ1.4㎝・重さ61.9ｇ。色調は灰色から明橙色。粘土中に白色粒子・砂粒を僅かに含む。（Ｂ・Ｃ－３）グリッドからの出土である。

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第50図1 図版19-1	石鏃	黒曜石	16.6	14.1	2.8	0.6	先端部、両脚部を欠損／器面全体に剥離面が施される	438 D
第50図2 図版19-2	スクレイパー	ホルンフェルス	49.9	80.9	13.7	83.4	完形／右側縁から末端部に連続した剥離面／横長剥片素材／裏面に原礫面あり	422 D
第50図3 図版19-3	剥片	珪質頁岩	63.6	27.5	15.5	19.1	完形／節理面を打面とする／正面末端部、裏面右側縁に微細剥離あり	432 D
第50図4 図版19-4	石皿	花崗岩	134.2	94.6	36.9	650.1	石皿の破片／正面に使用面／裏面は剥離面だが、一部研磨面が認められる	(D-3)G

（単位：mm，g）

第18表　遺構外出土石器一覧表

挿図番号 図版番号	部位	器厚 (cm)	文様・特徴など	色調	時期・型式	胎土混入物					出土位置
						石	角	礫	砂	他	
第50図5 図版19-5	胴	0.9	内外面貝殻条痕文／内面にぶい黄褐色	橙 5YR6/6	条痕文系				○	繊	85H内攪乱
第50図6 図版19-6	胴	1.3	内外面貝殻条痕文	明赤褐 2.5YR5/6	条痕文系				○	繊	17M
第50図7 図版19-7	胴	0.9	外面貝殻条痕文	にぶい橙 7.5YR7/4	条痕文系				○	繊	(B-2)G
第50図8 図版19-8	口縁	1.0	波状口縁／無文	暗赤褐 5YR3/4	打越・下吉井		○		○	繊・針・磁	424D
第50図9 図版19-9	胴	1.4	無文／内面にぶい黄褐色	黒褐 10YR3/2	打越・下吉井		○		○	繊・針・磁	85H内攪乱
第50図10 図版19-10	胴	1.2	外面貝殻条痕文	にぶい赤褐 2.5YR4/3	打越・下吉井		○		○	繊・針・磁	遺構外
第50図11 図版19-11	胴	1.0	外面貝殻条痕文	灰褐 5YR4/2	打越・下吉井		○		○	繊・針・磁磁	423D
第50図12 図版19-12	口縁	1.5	折り返し状口縁／縄文RL	にぶい黄橙 10YR7/4	花積下層				○	繊	85H内攪乱
第50図13 図版19-13	口縁	0.7	無文	にぶい褐 7.5YR5/3	羽状縄文系				○	繊	14W
第50図14 図版19-14	胴	0.9	貝殻背圧痕文／内面黒色	明赤褐 2.5YR5/6	花積下層				○	繊	424D
第50図15 図版19-15	胴	1.0	貝殻背圧痕文	明黄褐 10YR6/6	花積下層				○	繊	430D
第50図16 図版19-16	胴	0.1	貝殻背圧痕文	橙 5YR6/6	花積下層				○	繊	段切状遺構覆土中
第50図17 図版19-17	胴	0.9	貝殻背圧痕文	橙 7.5YR7/6	花積下層				○	繊	85H
第50図18 図版19-18	胴	0.9	貝殻背圧痕文／内面黒褐色	明赤褐 2.5YR5/6	花積下層				○	繊	35P
第50図19 図版19-19	底	1.3	貝殻背圧痕文／内面黒褐色	明赤褐 5YR5/6	花積下層				○	繊	439D
第50図20 図版19-20	胴	0.9	羽状縄文／結節文？	橙 2.5YR6/6	羽状縄文系				○	繊	424D
第50図21 図版19-21	胴	0.8	縄文RL	橙 7.5YR6/6	羽状縄文系				○	繊	439D
第50図22 図版19-22	胴	0.9	半裁竹管による沈線文	にぶい黄橙 10YR7/4	黒浜				○	繊	263D
第50図23 図版19-23	胴	0.8	半裁竹管による沈線文	にぶい橙 5YR6/4	諸磯c			○	○		遺構外

単位　cm　※　角：角閃石・輝石　礫：細礫　砂：砂粒　磁：磁性鉱物　白：白色粒子　炭：炭化物　針：白色針状物質

第19表　遺構外出土縄文土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	部位	器厚 (cm)	文様・特徴など	色調	時期・型式	胎土混入物					出土位置
						石	角	礫	砂	他	
第50図24 図版19-24	胴	1.1	結節文	橙 7.5YR7/6	五領ヶ台	○					440D
第50図25 図版19-25	胴	0.9	縄文RL	明赤褐 2.5YR5/6	五領ヶ台？	○	○		○	片	段切状遺構覆土中
第50図26 図版19-26	口縁	1.0	波状口縁／結節沈線文／内面にぶい黄橙色	橙 5YR6/6	阿玉台			○	○	金	17M
第50図27 図版19-27	口縁	1.0	波状口縁波頂部欠損／押捺を伴う縦位隆帯／結節沈線文／内面にぶい赤褐色	にぶい黄褐 10YR4/3	阿玉台				○	金	53P
第50図28 図版19-28	口縁	0.9	隆帯と沈線による文様帯区画／把手・口唇部欠損／撚糸圧痕／種子圧痕か	にぶい黄橙 10YR6/3	中期中葉か				○		263D
第50図29 図版19-29	口縁	1.3	沈線による口縁部文様帯区画／隆帯による渦巻文／縄文RL	灰黄褐 10YR5/2	加曽利EⅢ				○		85H内撹乱
第50図30 図版19-30	口縁	1.5	沈線・隆帯	にぶい黄橙 10YR7/4	加曽利EⅢ～Ⅳ				○		424D
第50図31 図版19-31	口縁	1.1	沈線による口縁部無文帯区画／縄文RL	橙 5YR7/6	加曽利EⅣ				○		425D
第50図32 図版19-32	口縁	1.0	沈線による口縁部無文帯区画／縄文L	にぶい黄橙 10YR7/4	加曽利EⅣ				○		263D
第50図33 図版19-33	胴	1.1	磨消懸垂文／縄文RL	橙 5YR6/6	加曽利EⅢ				○		424D
第50図34 図版19-34	胴	0.9	微隆起線文／縄文RL	褐灰 5YR4/1	加曽利EⅣ				○		(C-3)G
第51図35 図版19-35	胴	0.8	沈線／縄文RLR	にぶい橙 7.5YR7/4	加曽利EⅢ				○		85H
第51図36 図版19-36	胴	1.4	微隆起線文／縄文RL	にぶい黄橙 10YR7/3	加曽利EⅢ～Ⅳ			○	○		(D-3)G
第51図37 図版19-37	口縁	0.9	縄文RLを横位平行沈線で帯状に区画／口唇部内面に沈線／38と同一個体	明赤褐 2.5YR5/6	加曽利B1	○	○	○	○	白	遺構外
第51図38 図版19-38	口縁	0.9	縄文RLを横位平行沈線で帯状に区画／上下の沈線はクランク状に連結／口唇部内面に沈線／37と同一個体	明赤褐 2.5YR5/6	加曽利B1	○	○	○	○	白	429D
第51図39 図版19-39	胴	1.1	表面ケズリ状の調整／半裁竹管状工具による縦位の平行沈線文／内面橙色	灰褐 5YR5/2	後期前葉		○		○	磁	(B-2)G
第51図40 図版19-40	胴	0.8	平行沈線区画内に縄文LR／内面橙色	にぶい赤褐 5YR5/4	称名寺・堀之内				○	白	445D
第51図41 図版19-41	胴	0.9	条線文	黒褐 10YR3/1	後期粗製			○	○	磁	(B-2)G

単位　cm　※　角：角閃石・輝石　礫：細礫　砂：砂粒　磁：磁性鉱物　白：白色粒子　炭：炭化物　針：白色針状物質

第19表　遺構外出土縄文土器一覧（２）

図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
図版19-44	陶器	擂鉢	厚 0.7	胴部小破片／内面に櫛目あり／内外面に鉄釉／胎土の色調は黄白色	瀬戸	(A-2)G	中世 (15c後半)
図版19-45	陶器	甕	厚 1.1	胴部破片／胎土の色調は暗橙色／胎土に白色砂粒をやや多く含む	常滑	(C-3)G	中世 (15c)
図版19-46	土器	甕	高 [11.8]	瓦質／口縁部～胴部中位破片／内外面は黒色処理／胎土の色調は暗灰褐色／胎土に白色砂粒を含む／内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ／外面は横ナデ、胴部はヘラナデ／内面胴部上半に指頭押捺による押捺痕が残る	在地系	(C-3)G	中世 (15c中)

第20表　遺構外出土陶器・土器一覧

第４章　中野遺跡第104地点の調査

第１節　遺跡の概要

第３章　中野遺跡第102地点の調査（40ページ）を参照。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

平成29年12月、マックホーム株式会社（代表取締役　氏居　照和）から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町１丁目1484番39・40号（総面積258.27㎡）地内に分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228－09－002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施し、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

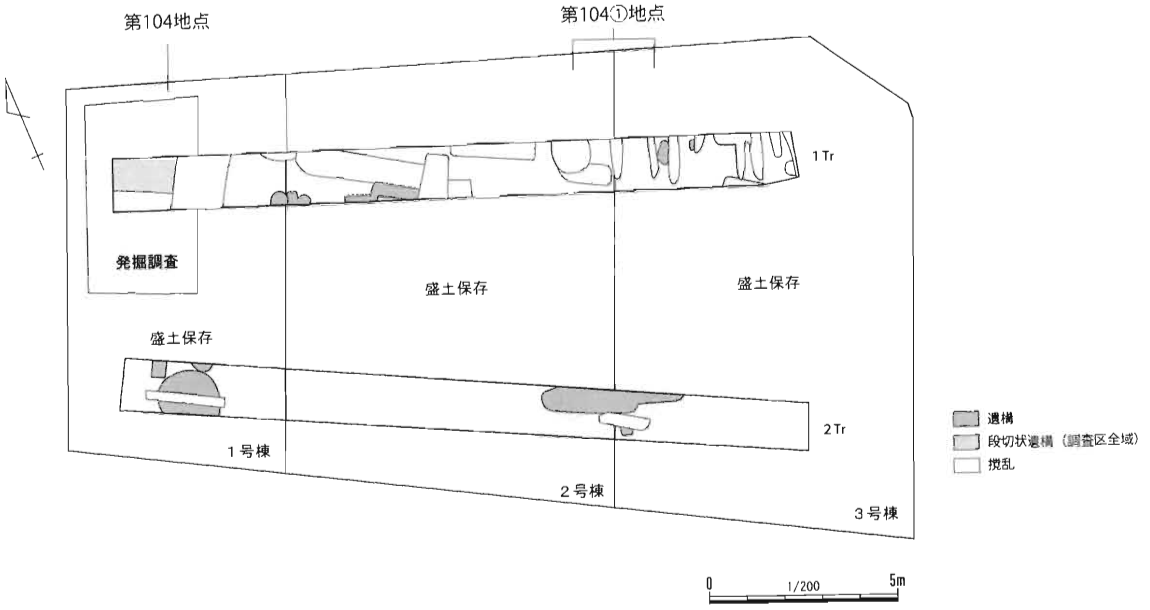
２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず土地の現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

３．本地点を含め中野遺跡における埋蔵文化財の分布状況については、周辺の調査結果として、本地点の南側の第49・95・102地点の調査内容を例に説明を行う。

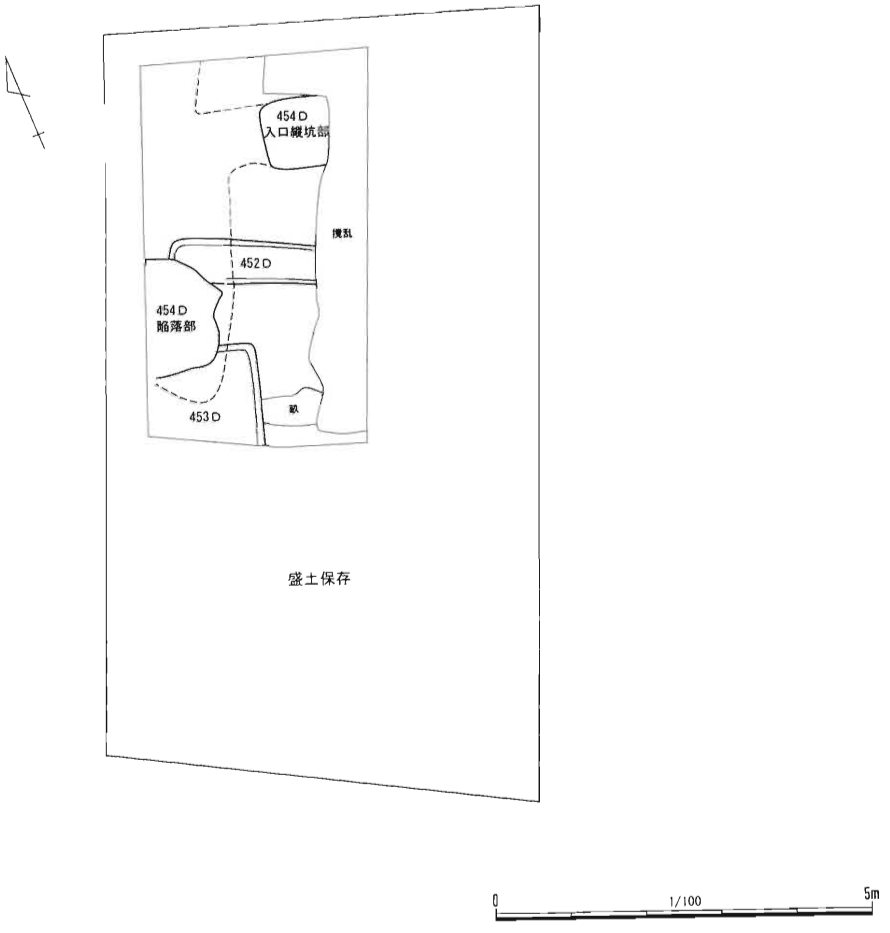
12月22日、教育委員会はマックホーム株式会社より、埋蔵文化財確認調査依頼書・埋蔵文化財発掘届を受理した。これにより、教育委員会は、中野遺跡第104地点とし、平成30年１月９日に確認調査を実施した。確認調査は第52図に示すように調査区の長軸方向に合わせてトレンチを２本（１・２Ｔｒ）設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、中・近世の段切状遺構１ヶ所、中世以降の土坑５基・ピット８本を確認した。特に段切状遺構については、第49・78・95・102地点の調査で検出されており、周辺一帯に広がっている様子が明らかになってきており、今回の確認調査では、段切状遺構が調査区ほぼ全域に広がっていることが確認できた。教育委員会はこの結果をただちにマックホーム株式会社に報告し、保存処置について検討を依頼した。

平成30年１月25日、マックホーム株式会社と教育委員会で埋蔵文化財の確認調査の状況説明や保存措置についての事前打合せを行った。その結果、１～３号棟の宅地部分については、十分な保護層を確保できるため、盛土保存として取り扱うことができたが、１号棟の駐車場部分については盛土保存が不可能であることから、記録保存（発掘調査）を実施することに決定した。同日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、志木市埋蔵文化財保存事業申請書が開発主体者であるマックホーム株式会社から提出された。

２月１日、教育委員会はマックホーム株式会社と事前協議を行い、２月５日、マックホーム株式会社



第52図　確認調査時の遺構分布（1／200）



第53図　遺構分布図（1／100）

と埋蔵文化財保存事業に係る協議書を取り交わし、併せて委託契約を締結した。これにより、教育委員会を調査主体として、２月19日から発掘調査を実施した。

なお、埋蔵文化財発掘届及び埋蔵文化財発掘調査の通知については、１号棟を第104地点とし、２月14日付けで埼玉県教育委員会に提出した。その後、２・３号棟については第104①地点とし、平成30年４月20日付けで埋蔵文化財発掘届を埼玉県教育委員会に提出した。

（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の経過を説明することとする。

２月19日　本日より重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。残土については調査区内に置場を確保した。表土剥ぎ作業中に人員を導入し、器材運搬、ベンチマーク移動を行った。表土剥ぎ作業後、調査区整備、遺構確認作業を行い、遺構確認状況の写真撮影を行った。

遺構精査に入り、調査区西側に地下室（454D）を確認した。452Dが454Dと一部重複したため、452Dを先に精査する。452Dの断面写真、土層注記を行い、完掘後、完掘写真、平面図、エレベーション図で記録し、精査を完了した。454Dを精査する過程で、南側に453Dを検出した。453Dを完掘後、完掘・断面写真を撮影し、平面図で記録した。454Dについては、主体部天井の崩落部範囲を平面図に記録し、主体部内の精査を行った。

20日　453Dの断面図を作成し、土層注記を行い、精査を完了した。454Dの精査では天井部を掘削し、南コーナーを検出した。主体部北・西側は調査区外に延びるため、これ以上の精査はできなかった。調査区東側に入口竪坑部を検出し、精査を行った。なお、主体部の掘削深度については、遺構検出が調査区際での検出であり、調査区壁の崩落の危険性があったため、底面まで掘り下げることはできなかった。よって、平面図は上端のみの記録である。454Dの平面図を作成し、すべての精査を終了した。

埋戻し作業、器材搬出を行う。埋戻しを終了し、すべての調査を完了した。

（３）盛土保存の取り扱い

今回、発掘調査を実施しなかった１号棟の宅地部分と２・３号棟部分については、以下のとおりの日程で工事立会検査を実施した。その結果、すべての部分で保護層30㎝以上を確保し施工されており、正しく盛土保存が行われていたことを確認した。

○第104地点（確認調査時は全体）

１号棟宅地部分：平成30年３月15日

○第104①地点

２号棟：平成30年４月10日

３号棟：平成30年４月11日

第３節　検出された遺構・遺物

（1）概　要

本地点からは、中世以降の土坑３基（452～454D）が検出された。そのうちの454Dは地下式坑ないし地下室・地下坑の類であろう。入口竪坑部と主体部を確認することができたが、遺構全体のプランは調査区外に延びるもので、全容を把握するには至らなかった。今回の調査を通し、出土遺物はなかった。

（2）土　坑

452号土坑

遺　　構（第54図）

［位　　置］調査区中央付近。

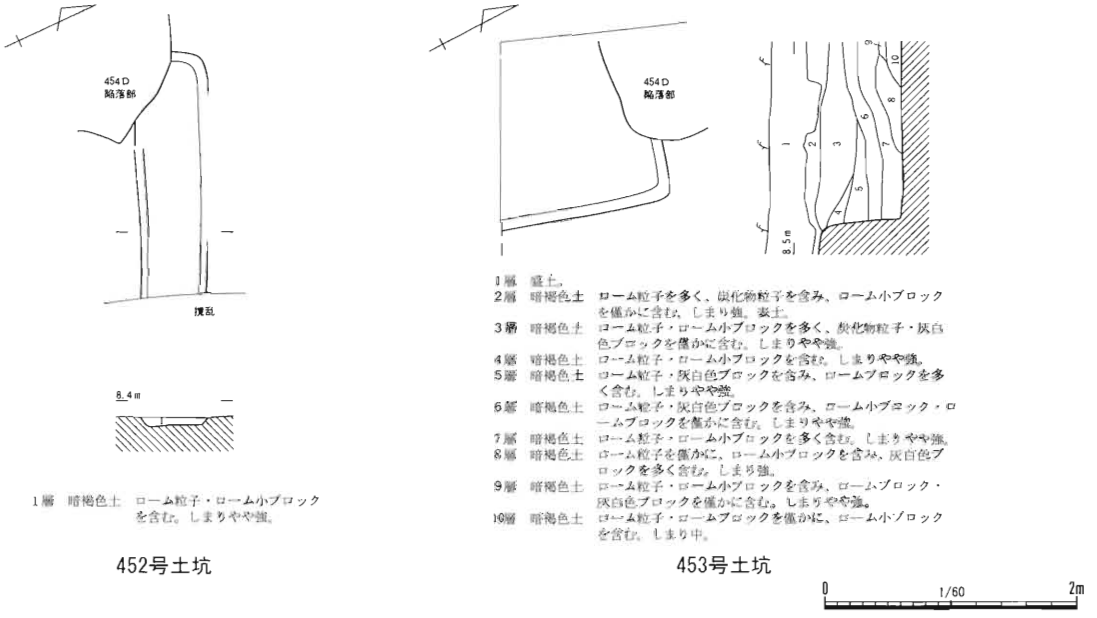
［検出状況］北側先端部は454Dの主体部天井が陥落していた。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸：不明／短軸：0.6m／深さ８㎝。**壁**：55°程の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－65°－W。

［覆　　土］単層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。



第54図　土坑（1／60）

453号土坑

遺　　構（第54図）

［位　　置］調査区南西隅。

［検出状況］大部分が西側の調査区外にあるものと思われ、詳細不明である。

［構　　造］平面形：方形か。規模：不明／深さ65㎝。壁：80°の角度で立ち上がる。

［覆　　土］８層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

454号土坑

遺　　構（第53図）

［位　　置］調査区西半部が広がり、主体部は調査区外の西側及び北側に展開するものと思われる。

［検出状況］調査区が狭小であり、さらに遺構の掘り込みが深く崩落の危険があるため、全容を確認できないまま調査を断念した。

［構　　造］中世の地下式坑あるいは近世の地下室・地下坑の類であろう。

［主 体 部］平面形：不明。全容は確認できなかったが、ほぼ南北方向に延びることと図版20－７の断面写真の状況から、アーチ状の天井部が確認できることから、通路状を呈する地下坑の可能性がある。天井部の大部分は陥落していた。規模：不明／深さは危険のため、坑底まで掘ることはできなかった。

［入口竪坑部］平面形：長方形。規模：長軸：不明／短軸：0.96ｍ／深さは危険のため、坑底まで掘ることはできなかったが、最深で確認面から1.5ｍまで掘り下げた。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］出土遺物がなかったため、ここでは中世以降とした。

第5章　調査のまとめ

本書は、平成29年度に発掘調査を実施した、西原大塚遺跡第213地点、中野遺跡第102・104地点の調査成果をまとめたものである。ここでは、西原大塚遺跡第213地点と中野遺跡第102地点における所見をまとめることにする。

第1節　西原大塚遺跡第213地点の調査成果

（1）中世以降の遺構について

中世以降の遺構としては、井戸跡1基（8W）・土坑16基（750～765D）・板碑埋納遺構1基（1板）・ピット6本（1～6P）が検出された。また、本地点は本文でも説明したが、地盤整備ないし天地返しのような人為的な造成工事が行われていたものと判断できた。そこで、この造成工事が行われた時期と今回検出された遺構との関係について、出土遺物と遺構の切り合いから推測される事項を以下にまとめることにする（註1）。

①造成工事の時期と遺構との関係について

造成工事による堆積土（造成土）と井戸跡・土坑などの遺構との関係については、出土遺物の時期から判断して、大きく1～6期に区分することができたため、以下に段階順にまとめて説明する。

1期：造成工事前の時期（中世：15世紀より古い段階）

15世紀より古い時期の遺物として、遺構外出土遺物の図版7－3－16・17の16は14世紀前半の中国製の磁器鉢、17は12世紀中の中国製の青磁瓶である。これにより、何らかの目的で行われた造成工事前における土地利用の様相を示唆しているものと思われる。

遺構としては、次段階に堆積した造成土により、上層が切られる遺構が確認でき、これらがこの段階のものと認識できる。この段階の遺構としては、751・752・760・763Dの4基の地下式坑や765Dが該当する。ただし、751D・752・760Dから出土した陶器碗・皿・片口鉢が、15世紀中に比定できることは、次段階の造成土からの混入品の可能性がある。

2期：造成工事の時期（中世：15世紀中）

造成工事の遺物と関連する資料は、遺構外出土遺物の中世以降の陶磁器などや銅銭あるいは1号板碑埋納遺構などと思われる。陶磁器などの時期から、造成工事は15世紀中に行われたと考えられる。

3期：造成工事後の時期（中世：15世紀後半）

15世紀後半の遺物として、757Dから出土した見込みに『玉取獅子文』が描かれた中国製磁器皿などがある。前段階の造成工事終了後における様相を示しているものと考えられる。

4期：造成工事後の時期（中世：16世紀中～後半）

遺構外出土遺物の中に16世紀中と16世紀後半の資料が数点出土している。16世紀中の資料は、第18図24の志野皿と25の瀬戸鉢で、16世紀後半の資料は図版8－43～45の焙烙である。

このことから、僅かな資料ではあるが、造成工事後の様相を示しているものと考えられる。

５期：造成工事後の時期（近世：17世紀中）

遺構からの出土遺物はなかったが、僅か２点の資料であるが、遺構外出土遺物から図版７－３－19の肥前系磁器碗、20の肥前系磁器皿がある。

６期：造成工事後の時期（近世：18世紀前半・後半）

18世紀前半の遺物として、遺構外出土遺物の図版７－３－18・21の肥前系の磁器碗、22の肥前系瓶、18世紀後半の遺物として、図版８－33の瀬戸の陶器碗がある。これらの遺物は、本地点出土の最新の資料であり、造成工事後の土地利用の中で把握することができる。なお、中世の遺構を破壊するものとして、明らかに撹乱は存在するものの、本時期の遺構により中世の遺構を破壊するものも少なからず存在すると思われるが、実態を把握するには至らなかった。

②今回の造成工事及び関連遺構の性格について

今回検出された中世以降の遺構の性格については、現状のところ特定できる文献での記録もなく、明らかにすることは難しいが、ここでは、本地点の周辺において、中・近世に関連した地点の内容を以下に列記することで、まとめに代えることとする。

Ａ．西原大塚遺跡第179地点（第２図）

本地点の約140ｍ南東に位置する。ここでは、中世の館関連の遺構を思わせるような二重の溝跡（50・51Ｍ）が検出されている（尾形・大久保・二瓶他　2014）。ただし、出土遺物には中世のものがなく、近世（18世紀後半）の陶器２点と銅銭１点（新寛永通宝）のみの出土であるため、現時点では今後の調査課題とすべき資料と言える。

Ｂ．西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査（５Ⅰ・５Ⅱ地点）

本地点の南及び東側に隣接する道路部分である。この調査からは、中世～近世の段切り遺構、地下式坑、土坑、溝跡などが検出されている。５Ⅰ地点の１Ｗからは、板碑破片１点が出土している。

Ｃ．西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査（７Ⅲ・７Ⅳ地点）

本地点の北側に隣接する道路部分である。７Ⅲ地点からは、近世の溝跡１条、７Ⅳ地点からは近世の土坑１基・井戸跡１基などが検出されている。

Ｄ．西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査（12Ⅰ地点）

本地点の約50ｍ南東に位置する。この調査からは、中世以降の土坑30基ほどが検出されている。時期が特定できる資料として、102Ｄから13世紀の中国製の青磁碗１点出土し、注目に値する。

以上、本地点の周辺では、特に西原特定土地区画整理事業に伴う調査により、中・近世の遺構・遺物が検出されており、この一帯で造成工事あるいは段切状遺構により土地が整地され、土坑・溝跡などが分布している状況を把握することができた。ただ、こうした遺構がどのような性格であるかは、現状では、明らかにすることはできないが、市内から出土する同時期の遺物と比較した場合、今回、757Ｄ出土の玉取獅子文の中国製染付磁器皿や751Ｄの八角陶器碗、762Ｄの陶器碗、８Ｗの陶器碗などの中国製品、さらに８Ｗでは三島手の朝鮮製陶器皿が出土するなど高価な製品が比較的多く出土していると言えるであろう。このことから、本地点を含むこの一帯には、中世から近世にかけて、宗教関連施設あるいは館跡に匹敵するような広域なエリアを有する特別な施設があったのではないかと想像できそうである。

第２節　中野遺跡第102地点の調査成果

（１）古墳時代後期85号住居跡出土土器について

古墳時代後期の遺構としては、住居跡１軒（85号住居跡）が検出された。ここでは、比較的にまとまって出土した土師器について、若干の考察を行うこととする。なお、本住居跡出土の土師器は、すべて在地系土師器と考えられる（尾形　2005・2006）。

①土師器坏形土器（１～３）

１～３はすべて無彩系で、１・２は有段坏タイプ、３は埦タイプである。

１は推定口径13㎝で口縁部と底部との境に段を有し、口縁部は直立する。２は口径16.8㎝の超大型のもので、口縁部と底部との境に段を有し、口縁部は外反する。いずれも法量の大きさは異なり、須恵器模倣として直接結び付けるとなると、１が陶邑編年（田辺　1966）のＴＫ23・47型式段階、２がＭＴ15型式段階となり、時期差として考えられがちである。しかし、在地系土師器については、バリエーションが豊富であるため、３のような埦タイプもそのバリエーションの中の１つとして把握でき、本資料においては、時間差はないものと考えられる。

②土師器鉢形土器（４・５）

４は坏形土器よりもやや大きく、器高が高いタイプで、２はやや大型の浅鉢タイプである。これらの土器も坏形土器同様にバリエーション豊富な在地系土師器の中の１タイプである。

③土師器甕形土器（６～８）

いずも長甕である。そのうち、６は口縁部と胴部中位のほぼ同位置に最大径をもつタイプで、８は口縁部と胴部上半のほぼ同位置に最大径をもつタイプと若干特徴が異なるものである。この特徴差については、志木市城山遺跡第１地点（佐々木・尾形他　1988）の中で、城山遺跡における最新段階であるⅦ期（註２）の特徴として、８のような「最大径を胴部上半に測る、ややずんぐりしたもの」であることから、この直後（７世紀中～後葉）の口縁部に最大径をもつタイプの出現がないことから、８は７世紀中～後葉、６はやや古く７世紀前～中葉に比定することができる。８は器面に粘土が広範囲に付着していることから、カマドに使用された土器で、住居廃絶の際に住居中央に廃棄されたものと推測される。

以上、本住居跡の時期については、土師器がすべて在地系土師器であることから、おおまかには７世紀代の時期が与えられ、坏形土器１・２が陶邑編年のTK217型式段階のような口径10㎝程度の小型品ではないこと、さらに甕形土器８が胴部上半の膨らみが発達し、最大径の位置が胴部でも上半部にもつ特徴であることから判断し、７世紀中葉に比定できるものである。

（２）中世の段切状遺構について

本遺跡における段切状遺構の様相については、第49地点で、平場状の整地面から、ピット列（掘立柱建物か）・溝跡・土坑等が検出されている。特に頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した土坑（67号土坑）は土葬墓であったため、この一帯が『舘村旧記』に記載のある「村中の墓場」に相当する施設ではないかと考えられた（尾形・深井・青木　2004）。第95地点は第49地点の北側部分であり、同一段切状遺構から多くの土坑・ピットと火葬土坑５基が検出された（徳留・尾形・青木　2017）。第78地点は本地点から西側に100ｍほどの位置にあり、段切状遺構から、土坑・ピット等が検出されて

いる（大久保・尾形・青木　2014）。今回の調査では、段切状遺構内から、多数の土坑、ピットと地下式坑４基、火葬土坑が１基検出された。本遺跡における北側斜面地はかなりの範囲で段切状遺構の存在が想定できるものと考えられる。

①段切状遺構の時期と遺構との関係について

ここでは、今回検出された段切状遺構と井戸跡・土坑などの遺構の変遷について考察する。出土遺物の時期や遺構の切り合いから判断して、大きく１～５期に区分することができたため、以下に段階順に説明する。

１期：造成工事前の時期（中世：15 世紀より古い段階）

426Dで 14 世紀代に比定される中国製の磁器破片が覆土中より１点出土している。小破片が１点のみであるため、遺構と伴うかは要検討ではあるが、造成工事以前に土地利用があった可能性を示す資料でもある。

２ａ期：造成工事の時期（中世：15 世紀前半～中頃）

段切状遺構の造成工事の時期である。まず、造成工事についてであるが、第３章第２節（５）で、本地点の古地形の復元を検討した結果、C-C'・D-D'間で西から東へ急な上り勾配となっていることが判明し、段差状の自然地形であったと考えられる。本地点の段切状遺構は、段差状の自然地形を、標高の低い面に合わせて平坦に造成された平場面であると言える。自然地形の段差は標高差で見ると約 70㎝あり、掘削は深い箇所で立川ローム第Ⅵ層下部まで及んでおり、大規模な造成工事であったと考えられる。

造成工事後、土坑やピットが構築されるが、中でも火葬土坑である 268Dでは、炭化材の放射性炭素年代測定により室町時代（15 世紀前半～中頃）の年代が出ている。このことから、段切状遺構の造成時期は、火葬土坑の年代である室町時代（15 世紀前半～中頃）の年代とほぼ同時期（もしくは直前）と思われる。これは、段切状遺構出土の遺物が 15 世紀代のものであることからも言えよう。

段切状遺構造成直後と考えられる遺構として、261D、265D、451Dが挙げられる。これらは段切状遺構の覆土の下から検出されており、造成後すぐの遺構の構築→遺構覆土の堆積→段切状遺構覆土の堆積といった過程が読み取れる。

２ｂ期：造成工事直後の時期（中世：15 世紀中頃～後半）

地下式坑である 429Dは竪坑部の土層を確認より、段切状遺構の覆土の一部を切って構築されている（第 37 図）。このことから、段切状遺構覆土の堆積→429Dの構築の過程が読み取れる。２ａ期とした 261D、265D、451Dは段切状遺構の覆土の下から検出されており、２ｂ期とは段切状遺構覆土の堆積を前後として若干の時間差があると考えられる。なお、429Dでは、15 世紀中頃～後半と位置付けられる遺物が出土しており、２ａ期（15 世紀前半～中頃）より新しい。遺物の年代観からも時期差があることを読み取ることができる。434Dは 429Dに切られるが、段切状遺構の覆土を切っており、２ｂ期に該当すると考えられる。431・432Dは、切り合い関係より 434Dより古いとされる。しかし、431・432・434Dは遺構の主軸、深さ、形態が類似することから、ほぼ同時期の所産と思われる。

その他、15 世紀代の遺構としては、出土遺物から、地下式坑である 424D、溝跡の 17Mが該当する。17Mは段切状遺構外での検出であるが、時期が近いことから、段切状遺構と関連付けて考えていく方がよいと思われる。今後の調査によって溝跡と段切状遺構との関連性が明らかになっていくと思われる。

３期：造成工事後の時期（中世：16 世紀中頃）

当該期に該当する遺構は地下式坑である423Dである。423Dからは16世紀中頃と位置付けられる常滑系の捏鉢（図版18－1－1）が出土している。

４期：造成工事後の時期（近世：18世紀中頃～後半）

当該期に該当する遺構は井戸跡である14Wである。14Wは17Mを切っており、２b期以降と考えられる。14Wの出土遺物が18世紀中頃～後半に位置付けられる瀬戸・美濃系碗（図版18－２－１）、唐津系の刷毛目碗（図版18－２－２）であり、切り合い関係とも矛盾しない。本時期は、本地点の最新の資料となり、造成工事後の土地利用の中で把握することができる。

以上、出土遺物の年代や遺構の切り合い関係から、遺構の変遷を整理した。ただし、出土遺物がなく、時期不明の遺構が多数あることは事実である。これらの遺構もどこかの時期に属するものであり、今後、中野遺跡の中近世における土地利用の在り方を解明してく手立てとなっていくと考えられる。

［註］

註１　中世以降の遺物については、今回、朝霞市教育委員会の野沢　均氏に鑑定をいただいた。同時に今回検出された遺構についての所見をいただいたため、ここで述べる事項の基本は野沢氏のご教授に基づくものである。

註２　城山遺跡第１地点の報告では、Ⅶ期を７世紀第２四半世紀と位置付けていたが、現在、筆者は100年を初頭・前葉・中葉・後葉・末葉の５段階に区分することで若干の変更があり、およそ７世紀中葉と把握している

［引用・参考文献］

江戸遺跡研究会編　2001『図説　江戸考古学研究事典』柏書房

大久保聡・尾形則敏・青木　修　2014『中野遺跡第78地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第57集　埼玉県志木市教育員会

尾形則敏　2005「第４章　第２節　148号住居跡出土の土師器の胎土分析と考古学的な検証」『城山遺跡第42地点埋蔵文化財発掘調査報告』志木市遺跡調査会調査報告第10集

2006「七世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義―武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例―」『埼玉の考古学Ⅱ―埼玉考古第41号―』埼玉考古学会

尾形則敏・深井恵子・青木　修　2004『中野遺跡第49地点―東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告―』志木市遺跡調査会調査報告第７集

2005『城山遺跡第42地点埋蔵文化財発掘調査報告』志木市遺跡調査会調査報告第10集

尾形則敏・大久保聡・二瓶秀幸他　2014『西原大塚遺跡第179地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第56集　埼玉県志木市

小倉　均・柳田博之他　2001a「大古里遺跡発掘調査報告書(第20地点)」浦和市遺跡調査会報告書第300集　浦和市遺跡調査会

2001b「大古里遺跡発掘調査報告書(第24地点)」浦和市遺跡調査会報告書第301集　浦和市遺跡調査会

佐々木保俊・尾形則敏他　1988『城山遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第４集　埼玉県志木市遺跡調査会

佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳　2009『西原大塚遺跡Ⅰ～Ⅲ　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第13集　埼玉県志木市西原特定土地区画整理組合　埼玉県志木市遺跡調査会

田辺昭三　1966『陶邑古窯跡群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

徳留彰紀・尾形則敏・青木　修　2017『市場裏遺跡第23地点　城山遺跡第87地点　西原大塚遺跡第207地点　中野遺跡第95地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第68集

［付　　編］

自 然 科 学 分 析

Ⅰ　中野遺跡第102地点出土炭化材の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・黒沼保子

1．はじめに

志木市の中野遺跡第102地点から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。同じ試料を用いて樹種同定も行われている（樹種同定の報告参照）。

2．試料と方法

測定試料の情報、調製データは第21表のとおりである。火葬土坑である268号土坑から出土した炭化材1点である。樹種はエノキ属であった。直径4.8cmの丸木で、最終形成年輪が残存していた。調査所見では、時期は中世と推測されている。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-36978	遺構：268号土坑 試料No.炭9 その他：丸木（直径4.8cm）	種類：炭化材（エノキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

第21表　測定試料および処理

3．結果

第22表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、第55図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.3（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、

同様に２σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-36978 試料No.炭9	-28.00±0.13	487±15	485±15	1423-1438 cal AD (68.2%)	1416-1443 cal AD (95.4%)

第22表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

4．考察

火葬土坑である268号土坑から出土した炭化材（試料No.炭9：PLD-36978）の年代測定を行った結果、２σ暦年代範囲（確率95.4％）で1416-1443 cal AD（95.4%）であった。これは15世紀前半～中頃で、室町時代の暦年代に相当する。したがって、推定時期の中世に対して整合的な年代であった。

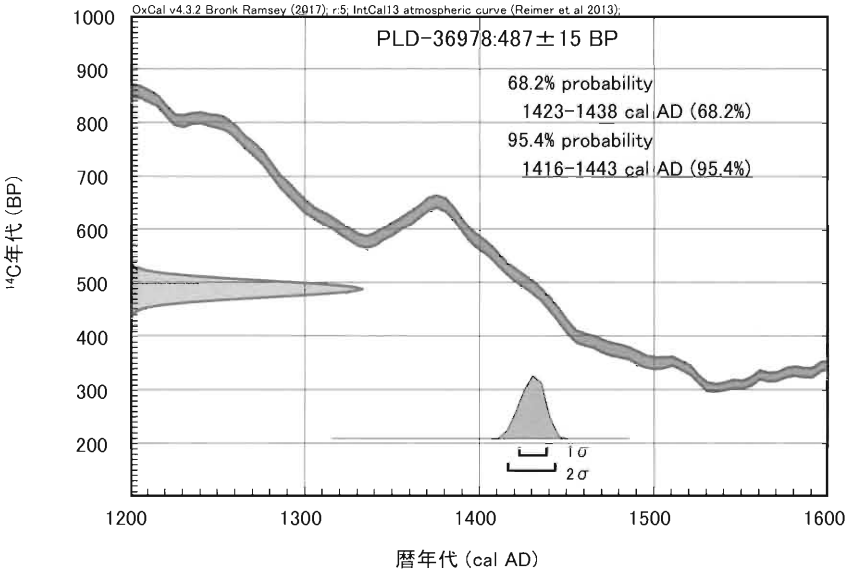
木材は最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料は、最終形成年輪が残存しており、得られた最終形成年輪の年代は、木材が伐採もしくは枯死した年代を示していると考えられる。

[参考文献]

Bronk Ramsey, C.　2009『Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1)』337-360

中村俊夫　(2000)「日本先史時代の^{14}C年代」『放射性炭素年代測定法の基礎　日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編』3-20　日本第四紀学会

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55 (4), 1869-1887.



第55図　暦年較正結果

Ⅱ　中野遺跡第102地点出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

志木市の中野遺跡第102地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、一部の試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2．試料と方法

試料は、火葬土坑である268号土坑から出土した炭化材71点である。遺構の時期は中世と推測されている。なお、年代測定の結果は、室町時代に相当する暦年代範囲を示した。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3．結果

樹種同定の結果、広葉樹のエノキ属と、単子葉類のタケ亜科とマダケが確認された。結果の一覧を第23表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（1）エノキ属　*Celtis*　アサ科　図版21　1a-1c（炭3）、2a-2c（炭6）

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織は3～8列幅の異性で鞘細胞がある。接線断面において放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯分布から温帯する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

（2）タケ亜科　Subfam. *Bambusoideae*　イネ科　図版21　3a（炭8）

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束は柔細胞中に散在する。維管束は一対の道管とそれと直行する原生木部間隙と師部で形成され、その周囲を厚膜組織からなる維管束鞘が取り囲む。

タケ・ササの仲間で日本では12属が含まれるが、稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。割裂性が非常に大きい。

（3）マダケ　*Phyllostachys reticulata* (Rupr.) K.Koch　稈　イネ科　図版21　4（炭51）

肉眼観察で、稈の節は2環状で下側の輪が鋭く、上側は緩く膨出している。直径は2.5～4.8cmである。

4．考察

火葬土坑である268号土坑から出土した炭化材は、エノキ属とタケ亜科（マダケを含む）が確認さ

れた。エノキ属は、直径0.7cm～4.8cmの丸木と、半径1.8～5.3cmのみかん割り、その他破片や形状不明が見られた。タケ亜科は幅1.0～2.0cmの割れた稈の他に、直径2.5～3.0cmの丸稈で節が残存しており、マダケまで識別できた試料もあった。火葬土坑から出土しているため、燃料材や遺体の運搬や安置する台などとして使用されたと推測される。

中野遺跡第95地点でも、火葬土坑出土の炭化材はエノキ属が多く、そのほかにクリとタケ亜科が確認されている（黒沼　2017）。今回の分析ではクリは確認されなかったが、エノキ属を多用する傾向は一致している。

[引用・参考文献]

平井信二　1996『木の大百科』394p　朝倉書店

伊東隆夫・山田昌久編　2012『木の考古学－出土木製品用材データベース－』449p　海青社

黒沼保子　2017「Ⅳ　中野遺跡第95地点出土炭化材の樹種同定」『市場裏遺跡第23地点　城山遺跡第87地点　西原大塚遺跡第207地点　中野遺跡第95地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第68集　埼玉県志木市教育委員会

No.	樹種	形状・部位	残存径	残存年輪数
炭1	エノキ属	破片	2.0cm	1
炭2	エノキ属	破片	1.8cm	1
炭3	エノキ属	みかん割り	半径5.3cm	5
炭4	エノキ属	みかん割り	半径4.3cm	4
炭5	エノキ属	破片	1.5cm	1
炭6	エノキ属	みかん割り	半径4.5cm	4
炭7	エノキ属	みかん割り？	1.7cm	1
炭8	タケ亜科	不明	幅1.0cm	-
炭9	エノキ属	丸木	直径4.8cm	4
炭10	タケ亜科	不明	幅2.0cm	-
炭11	タケ亜科	不明	幅1.7cm	-
炭12	エノキ属	破片	1.5cm	2
炭13	タケ亜科	不明	幅1.8cm	-
炭14	エノキ属	破片	1.6cm	2
炭15	エノキ属	丸木	1.3cm	3
炭16-1	エノキ属	丸木	1.4cm	3
炭16-2	タケ亜科	不明	幅1.1cm	-
炭17	エノキ属	丸木	直径2.5cm	4
炭18	エノキ属	丸木	直径2.5cm	4
炭19	エノキ属	丸木？	直径2.3cm	3
炭20	エノキ属	みかん割り？	半径2.5cm	4
炭21	エノキ属	丸木	直径3.0cm	4
炭22	エノキ属	破片	1.5cm	1
炭23	エノキ属	丸木	直径1.5cm	4
炭24	エノキ属	みかん割り	半径3.7cm	3
炭25	エノキ属	みかん割り	半径1.8cm	3
炭26	エノキ属	みかん割り	半径1.8cm	3
炭27	エノキ属	丸木	直径1.7cm	4
炭28	タケ亜科	丸稈	直径2.0cm	-
炭29	エノキ属	割材	4.5cm	2
炭30	エノキ属	丸木	直径4.5cm	3
炭31	エノキ属	破片	1.5cm	1
炭32	エノキ属	破片	2.5cm	2
炭33	エノキ属	破片	4.0cm	3
炭34	エノキ属	破片	4.0cm	3
炭35	エノキ属	破片	1.2cm	1

No.	樹種	形状・部位	残存径	残存年輪数
炭36	エノキ属	破片	1.0cm	1
炭37	エノキ属	丸木	直径0.8cm	2
炭38	エノキ属	みかん割り	半径3.2cm	5
炭39	エノキ属	半割	直径4.5cm	4
炭40	エノキ属	丸木	直径2.5cm	4
炭41	エノキ属	丸木	直径2.2cm	4
炭42	エノキ属	丸木	直径0.7cm	3
炭43	エノキ属	丸木	直径0.7cm	3
炭44	エノキ属	丸木	直径0.9cm	3
炭45-1	エノキ属	丸木	直径0.7cm	3
炭45-2	タケ亜科	稈（割れ？）	幅1cm	-
炭46	エノキ属	丸木	直径1.4cm	3
炭47	エノキ属	みかん割り	半径2.5cm	3
炭48	エノキ属	丸木	直径1.7cm	3
炭49	エノキ属	丸木？	直径4.8cm	3
炭50	エノキ属	丸木	直径2.2cm	4
炭51	マダケ	丸稈	直径3.0cm	-
炭52	エノキ属	丸木	直径2.0cm	4
炭53	マダケ	丸稈	直径3.0cm	-
炭54	エノキ属	丸木	直径2.0cm	4
炭55	エノキ属	丸木	直径2.2cm	4
炭56	エノキ属	丸木	直径1.1cm	2
炭57	エノキ属	丸木	直径0.7cm	3
炭58	マダケ	丸稈	直径2.5cm	-
炭59	タケ亜科	不明	0.7×0.3cm	-
炭60	エノキ属	丸木	直径1.3cm	3
炭61	エノキ属	みかん割り？	半径3.0cm	4
炭62	エノキ属	丸木	直径1.7cm	3
炭63	エノキ属	丸木	直径1.7cm	3
炭64	エノキ属	丸木	直径1.4cm	4
炭65	マダケ	不明	2.2×0.3cm	-
炭66	マダケ	丸稈？	直径2.6cm	-
炭67	エノキ属	不明	2.5×1.5cm	1
炭68	エノキ属	みかん割り	半径3.2cm	3
炭69	エノキ属	不明	不明	4？
炭70	エノキ属	不明	2.0cm？	2
一括	エノキ属	丸木	直径1.0～2.0cm	3
		割材	半径3.0cm	3
	タケ亜科	稈（割れ？）	幅0.5～1.0cm	-

第23表　樹種同定結果一覧

Ⅲ　中野遺跡第102地点268号土坑から出土した人骨

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1．はじめに

中世の火葬土坑から出土した人骨について報告する。

2．試料と方法

試料は中世の火葬土坑とされる268号土坑から出土した人骨である。人骨は24袋（1～20、一括1

番号	部位	左右	部分	数量	備考
骨1	四肢骨？	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
骨2	四肢骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
骨3	四肢骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
骨4	四肢骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
骨5	不明	不明	破片	5	焼、収縮、亀裂
骨6	寛骨？	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
	大腿骨	不明	大腿骨頭	1	焼、収縮、亀裂
	不明	不明	破片	5	焼、収縮、亀裂
骨7	四肢骨	不明	破片	2	焼、収縮、亀裂
骨8	四肢骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
骨9	四肢骨	不明	破片	3	焼、収縮、亀裂
	不明	不明	破片	16	焼、収縮、亀裂
骨10	四肢骨	不明	破片	3	焼、収縮、亀裂
骨11	四肢骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
骨12	四肢骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
骨13	四肢骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
骨14	四肢骨	不明	破片	2	焼、収縮、亀裂
骨15	大腿骨	不明	骨幹	1	焼、収縮、亀裂
骨16	四肢骨	不明	骨幹	1	焼、収縮、亀裂
骨17	不明	不明	破片	3	焼、収縮、亀裂
骨18	四肢骨	不明	破片	2	焼、収縮、亀裂
骨19	脛骨	右	遠位端	1	焼、収縮、亀裂
骨20	大腿骨	左	遠位端	1	焼、収縮、亀裂
	不明	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂
骨一括No.1	四肢骨	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	不明	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂
骨一括No.2	頭蓋骨	—	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	椎骨	—	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	四肢骨	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	指骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
	不明	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂
骨一括No.3	頭蓋骨	—	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	大臼歯（上下不明）	不明	破片	1	焼
	歯	不明	破片	3	焼
	椎骨	—	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	四肢骨	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	不明	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂
骨一括No.4	頭蓋骨	—	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	椎骨	—	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	四肢骨	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂
	指骨	不明	破片	1	焼、収縮、亀裂
	不明	不明	破片	多数	焼、収縮、亀裂

第24表　268号土坑の人骨

～4）に分けて整理されていた。観察は肉眼で行い、部位と特徴を記載した。

3. 結果と考察

試料は全てヒトの骨である。いずれも白くなるまでよく焼けており、収縮による亀裂が見られた。焼け方の特徴から、肉など軟質部が付着した状態で高温さらされたと考えられる。つまり、ヒト遺体が火葬されたと考えられる。同定された部位は、頭蓋骨、歯、椎骨、四肢骨（大腿骨、脛骨など）である。ほぼ全身が見られるが、頭蓋骨片が1体分とするに少なく下顎骨や上肢が見られない点などから、骨の一部は火葬後に268号土坑の外へ持ち出された可能性がある。性別と年齢は不明である。

図　　版

1. 調査区近景

2. 確認調査風景

3. 表土剥ぎ風景

4. 基本土層A－A'

5. 基本土層B－B'南端

6. 基本土層B－B'5m付近

7. 基本土層B－B'9m付近

8. 基本土層B'－B"1m付近

1. 基本土層B'－B"4.5m付近

2. 基本土層C－C'

3. 756号土坑（A群2類）

4. 757号土坑遺物出土状態

5. 757号土坑遺物出土状態

6. 757号土坑（A群2類）

7. 761号土坑（A群2類）

8. 758号土坑（B群3類）

1. 762号土坑（B群3類）

2. 765号土坑（B群3類）

3. 750号土坑（C群）

4. 759号土坑（C群）

5. 751号土坑（E群）

6. 751号土坑（E群）

7. 752号土坑（E群）

8. 752号土坑（E群）

1. 760号土坑（E群）

2. 760号土坑竪坑部硬化面

3. 763号土坑（E群）

4. 763号土坑（E群）

5. 1号板碑埋納遺構

6. 1号板碑埋納遺構掘り方

7. 8号井戸跡遺物出土状態

8. 8号井戸跡

1. 1号ピット

2. 2号ピット砥石出土状態

3. 2号ピット

4. 3号ピット

5. 4号ピット

6. 5号ピット

7. 6号ピット

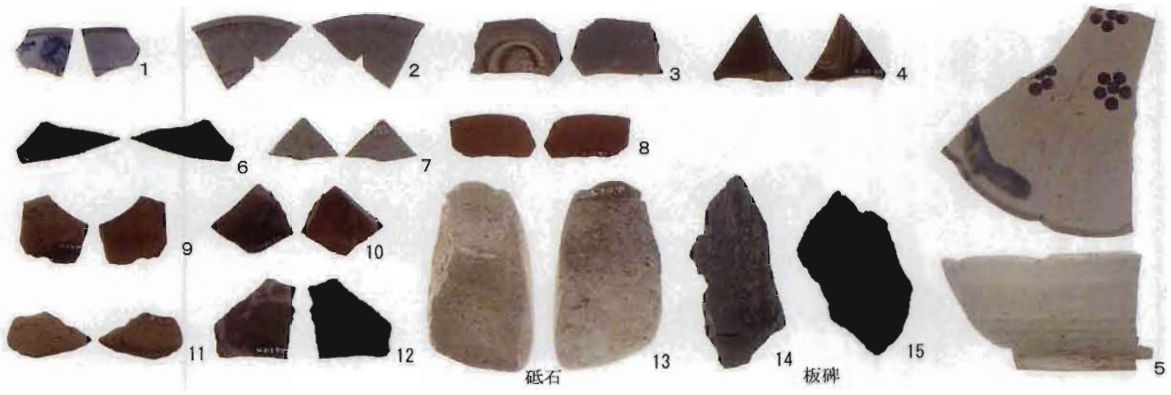
8. 測量風景

750D　751D　752D　756D　757D　760D　762D

硯　貝　鉄製品

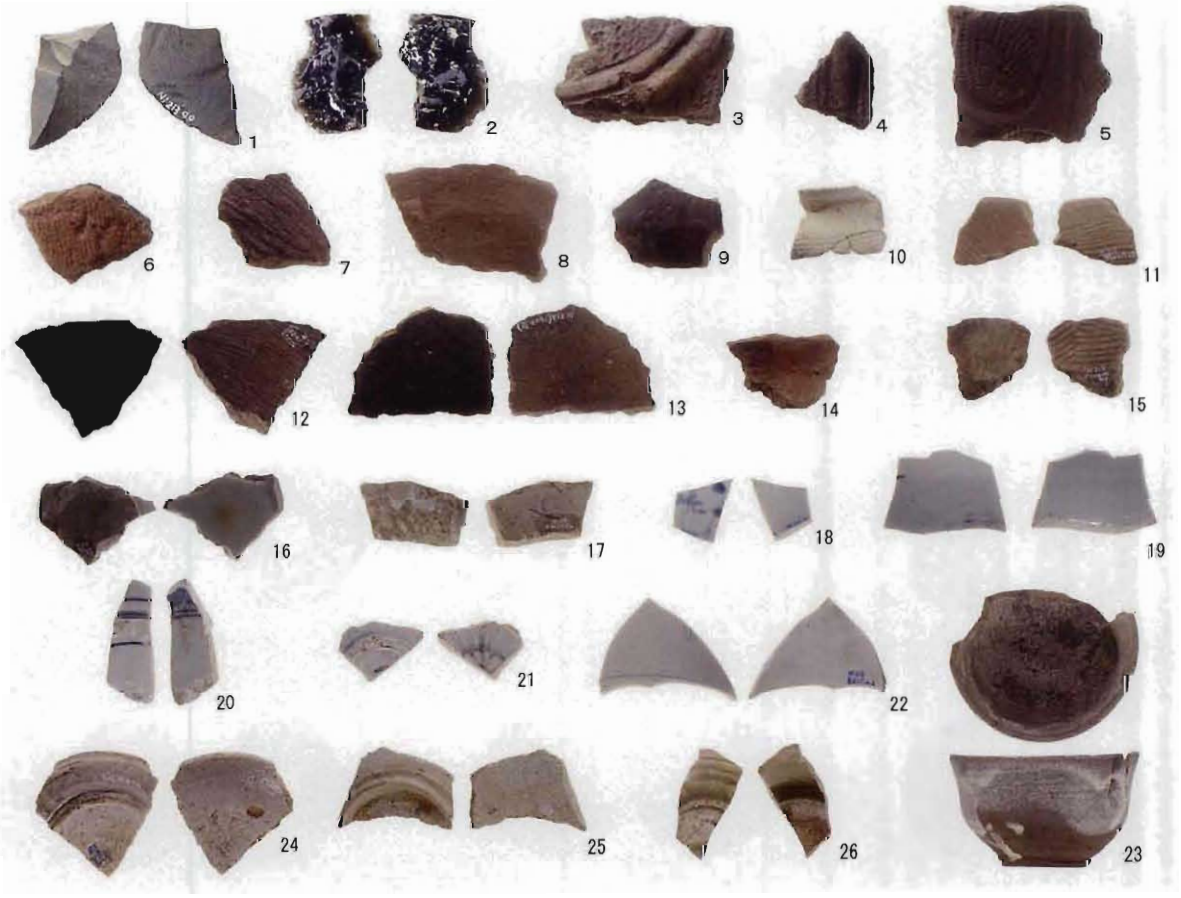
1.土坑出土遺物

2.1号板碑埋納遺構出土遺物

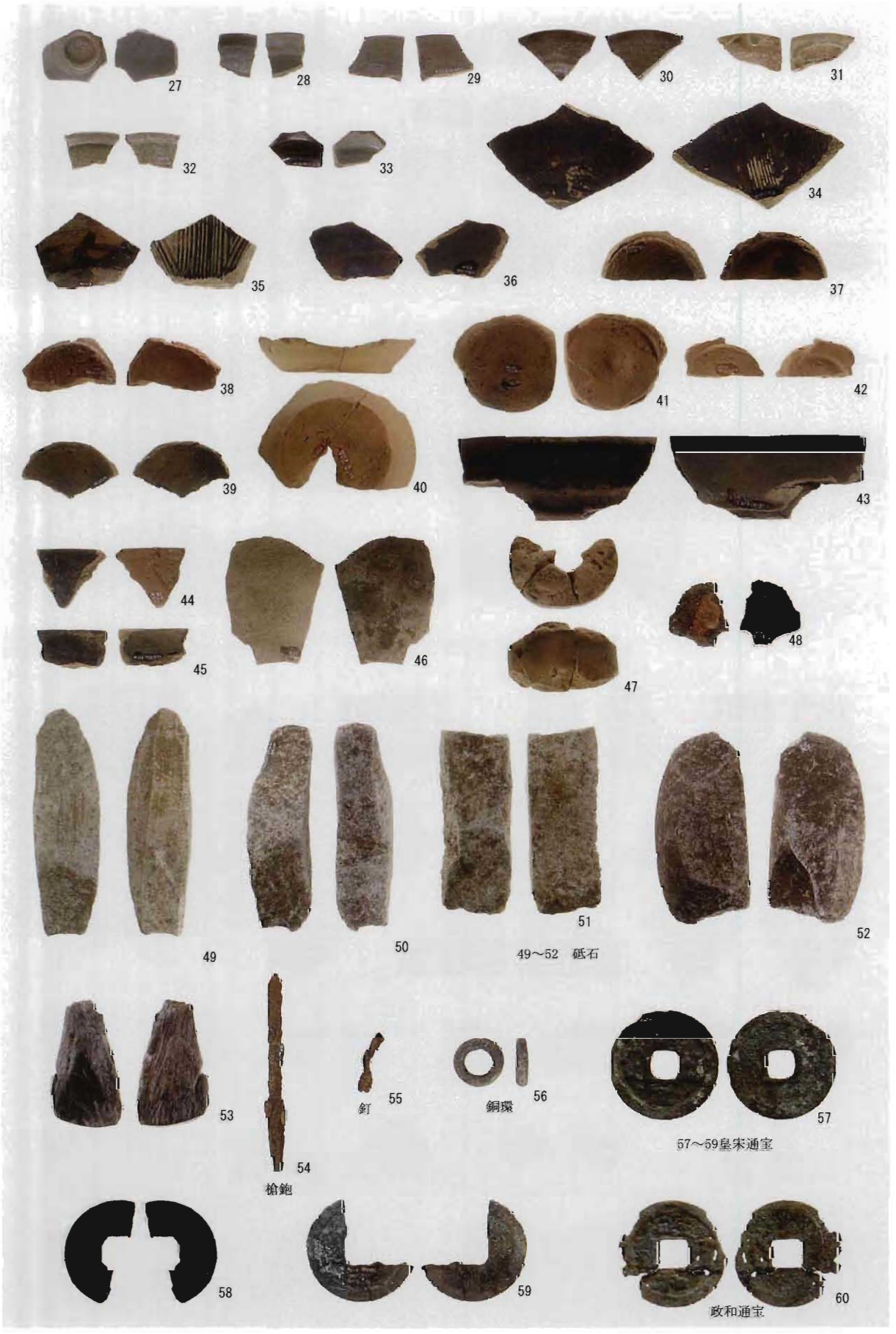


1.8号井戸跡出土遺物

2.ピット出土遺物



3.遺構外出土遺物 1


27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
41
42
39
40
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
49～52　砥石
53
54
槍鉋
55
釘
56
銅環
57
57～59皇宋通宝
58
59
60
政和通宝

遺構外出土遺物２

1. 調査区近景

2. 確認調査風景

3. 表土剥ぎ風景

4. 基本土層Ｂ－Ｂ'

5. 基本土層Ｇ－Ｇ'

6. 269号土坑

7. 45号ピット

8. 102号ピット

1. 85号住居跡遺物出土状態

2. 85号住居跡遺物出土状態

3. 85号住居跡遺物出土状態

4. 85号住居跡

5. 85号住居跡カマド

6. 85号住居跡カマド掘り方

7. 436号土坑（A群２類）

8. 437号土坑（A群２類）

1. 439号土坑（A群２類）

2. 428号土坑（B群１類）

3. 426号土坑（B群２類）

4. 430号土坑（B群２類）

5. 444号土坑（B群２類）

6. 260号土坑（B群３類）

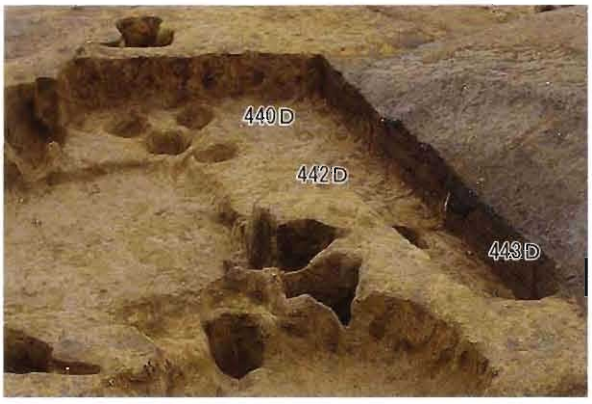
7. 262・263号土坑（B群３類）

8. 267号土坑（B群３類）

1. 425号土坑（B群３類）

2. 431・432・434号土坑（B群３類）

3. 438号土坑（B群３類）



4. 440・442・443号土坑（B群３類）

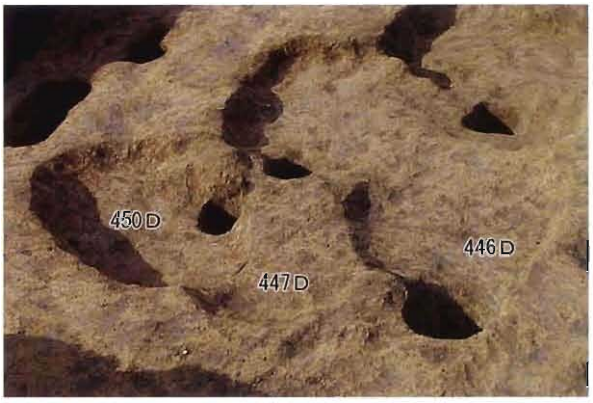
5. 439・440・442・443号土坑（B群３類）

6. 445・448号土坑（B群３類）

7. 449号土坑（B群３類）

8. 264号土坑（C群）

1. 433号土坑（C群）



2. 446・447・450号土坑（C群）

3. 451号土坑（C群）

4. 266号土坑（D群）

5. 261号土坑（E群）

6. 423号土坑（E群）

7. 424号土坑入口竪坑部（E群）

8. 424号土坑主体部方向（E群）

1. 429号土坑入口竪坑部（E群）

2. 429号土坑（E群）

3. 268号土坑人骨・炭化材出土状態（F群）

4. 268号土坑横木出土状態（F群）

5. 268号土坑（F群）

6. 265号土坑炭化物及び灰検出状態（G群）

7. 265号土坑（G群）

8. 422号土坑・南から（G群）

1. 422号土坑・東から(G群)

2. 422号土坑・北から(G群)

3. 427号土坑(G群)

4. 435号土坑(G群)

5. 14号井戸跡

6. 17号溝跡・北から

7. 17号溝跡・南から

図版16　中野遺跡第102地点

1. 9号ピット

2. 35号ピット

3. 51・52号ピット

4.63・57号ピット

5.75号ピット

6.87号ピット

7.91・92号ピット

8.99・100号ピット

1. 確認調査出土遺物

2.45号ピット出土遺物

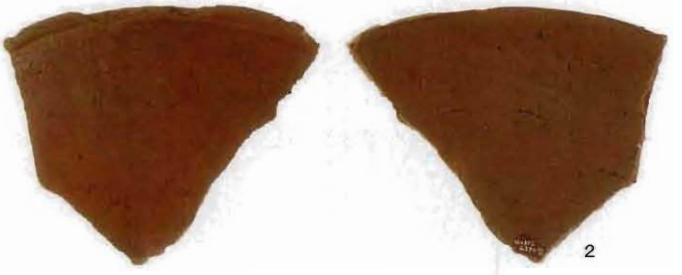
3. 85号住居跡出土遺物

268D

423D

426D

424D



429D

1. 土坑出土遺物

2. 14号井戸跡出土遺物

3. 17号溝跡出土遺物

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
砥石
47
釘
48
49

遺構外出土遺物

1. 調査区近景

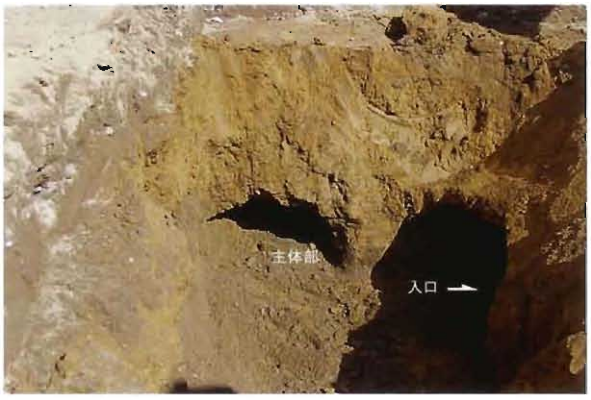
2. 452号土坑

3. 452号土坑

4. 453号土坑

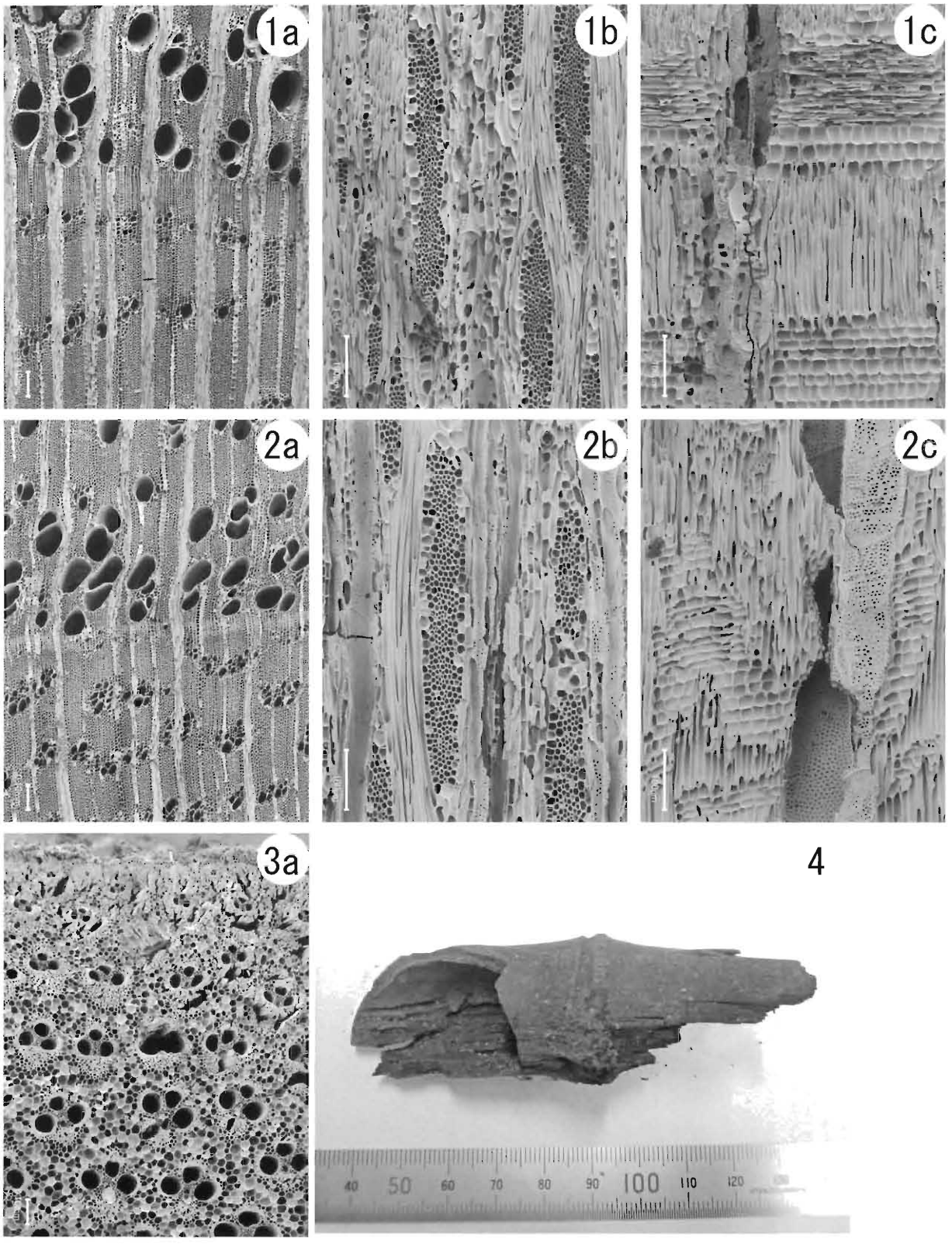
5. 453号土坑

6. 454号土坑(453号土坑下側)



7. 454号土坑北側

8. 調査風景



268号土坑出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真・試料写真

1a-1c．エノキ属（炭3）、2a-2c．エノキ属（炭6）、3a．タケ亜科（炭8）、4．マダケ属（炭51）

a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

268号土坑の人骨

1.頭蓋骨(骨一括No.2)　2.上下左右不明大臼歯(骨一括No.2)　3.左右不明大腿骨(骨15)

4.左大腿　骨(骨20)　5.右脛骨(骨20)　6.指骨(骨一括No.2)

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしはらおおつかいせきだい213ちてん　なかのいせきだい102ちてん　なかのいせきだい104ちてん まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第72集
著者氏名	尾形則敏　大久保　聡　深井恵子　青木　修
編集機関	埼玉県志木市教育委員会
所　在　地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL 048（473）1111
発行年月日	平成31（2019）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （°′″）	東経 （°′″）	調査期間	調査面積（㎡） （全体面積）	調査原因
西原大塚遺跡 （第213地点）	志木市幸町 3丁目7359・7360	11228	09-007	35° 49′ 28″	139° 33′ 46″	20170704 ～ 20170826	635.00 （923.00）	分譲住宅建設
中野遺跡 （第102地点）	志木市柏町 1丁目1489-5・6 の一部	11228	09-002	35° 50′ 02″	139° 34′ 26″	20171002 ～ 20171206	180.82 （895.00）	分譲住宅建設 及び道路新設 工事
中野遺跡 （第104地点）	志木市柏町 1丁目1484-39の一部	11228	09-002	35° 50′ 04″	139° 34′ 25″	20180219 ～ 20180220	18.45 （58.04）	分譲住宅建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西原大塚遺跡 （第213地点）	集落跡	中世以降	土坑　12基 地下式坑　4基 井戸跡　1基 板碑埋納　1基 ピット　6本	陶磁器・土器・石製品・鉄滓 陶器・石製品・鉄製品・貝類 陶磁器・土器・石製品・板碑 板碑 陶器・土器・石製品	757Dから見込みに「玉取獅子文」が描かれた中国製磁器1点が出土した。
中野遺跡 （第102地点）	集落跡	縄文時代 古墳時代後期 中世以降	土坑　1基 ピット　2本 住居跡　1軒 土坑　33基 火葬土坑　1基 地下式坑　4基 井戸跡　1基 溝跡　1本 段切状遺構 ピット　101本	 土器 土師器・土製品 鉄製品・人骨片・炭化材 陶器・土器・石製品 陶器・瓦 陶器・石製品	268Dの1基は火葬土坑、261・423・424・429Dの4基は地下式坑であった。
中野遺跡 （第104地点）	集落跡	中世以降	土坑　2基 地下室　1基		

要　約

西原大塚遺跡は、縄文時代中期の環状集落や弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡を主体とする遺跡である。今回の第213地点では、中世以降の土坑12基・地下式坑4基・井戸跡1基・板碑埋納遺構1基・ピット6本が検出された。

中野遺跡は、旧石器時代、縄文時代、弥生時代後期、古墳時代前期～後期、奈良・平安時代、中世以降の集落跡である。今回は、第102地点・第104地点の2地点の報告であるが、まず、第102地点では、縄文時代の土坑1基・ピット2本、古墳時代後期の住居跡1軒、中世以降の土坑33基・火葬土坑1基・地下式坑4基・井戸跡1基・溝跡1本・段切状遺構などが検出された。第104地点では中世以降の土坑2基、地下室1基が検出された。

志木市の文化財　第72集

西原大塚遺跡第213地点
中 野 遺 跡 第102地点
中 野 遺 跡 第104地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　　行　　埼玉県志木市教育委員会
　　埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号
発 行 日　　平成 31（2019）年 3 月 31 日
印　　刷　　株式会社 白 峰 社